表50　纒向石塚古墳第７次調査出土遺物観察表（３）

図番号 図版番号	地　区 層　位	器　種	形　式	法　量 （復元） cm	調　整　技　法 口　縁　部	体　部	底　部（脚部）	色　調	備　考
100—23 128—23	第１トレンチ 床土・耕作土	黒色土器 埦	Ａ類	Ｂ：6.0			Ｏ．ヨコナデ ｉ．ヘラミガキ（放射状）	Ｏ．10ＹＲ8/2灰白～2.5Ｙ4/1黄灰 ｉ．2.5Ｙ3/1黒褐	
101—24 128—24	第２トレンチ 中近世土	人物埴輪 手						Ｏ．5ＹＲ7/6橙 ｉ．10ＹＲ8/2灰白	
101—25 128—25	第２トレンチ 中近世盛土	土馬						5ＹＲ6/6橙	
101—26 128—26	第２トレンチ 中近世土	土馬						5ＹＲ6/6橙～7.5ＹＲ6/6橙	

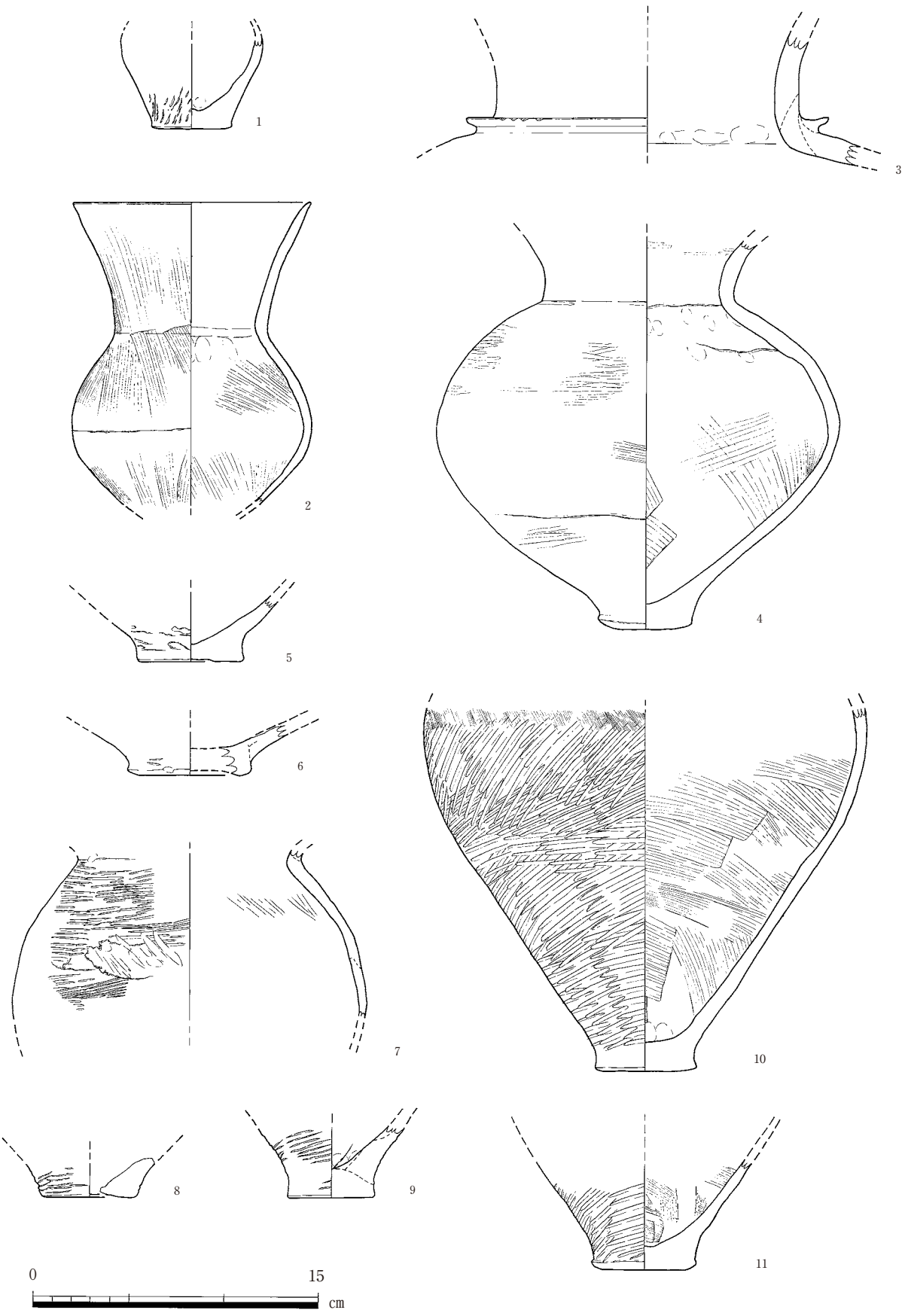


図99　纒向石塚古墳第７次調査出土土器実測図1（１／３）
第１トレンチ：土坑１　１下層 ２～11上層

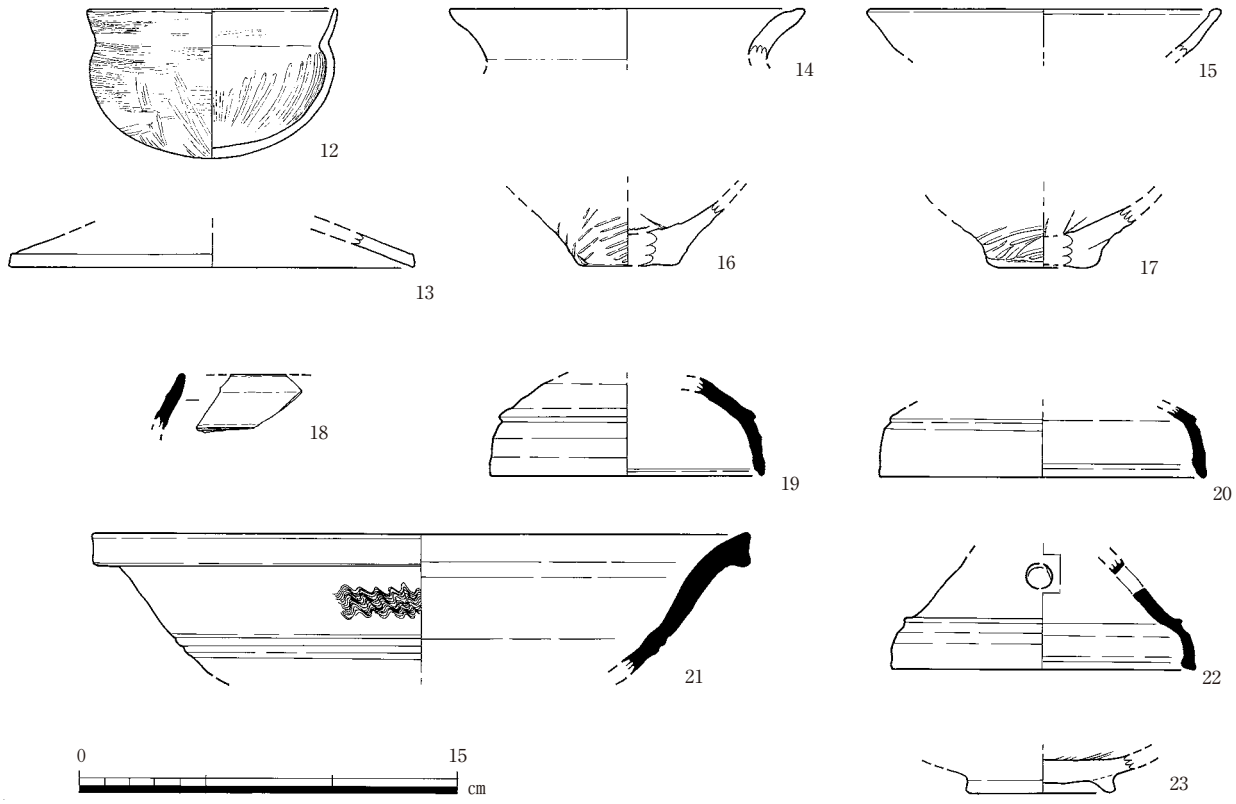


図100　纒向石塚古墳第 7 次調査出土土器実測図 2 （1 ／ 3 ）
第 1 トレンチ：落ち込み 1　12 暗灰色粘質土　13～17 淡褐灰色礫混じり土
18 足跡状遺構（淡灰色混じり粗砂質土） 19～23 床土・耕作土

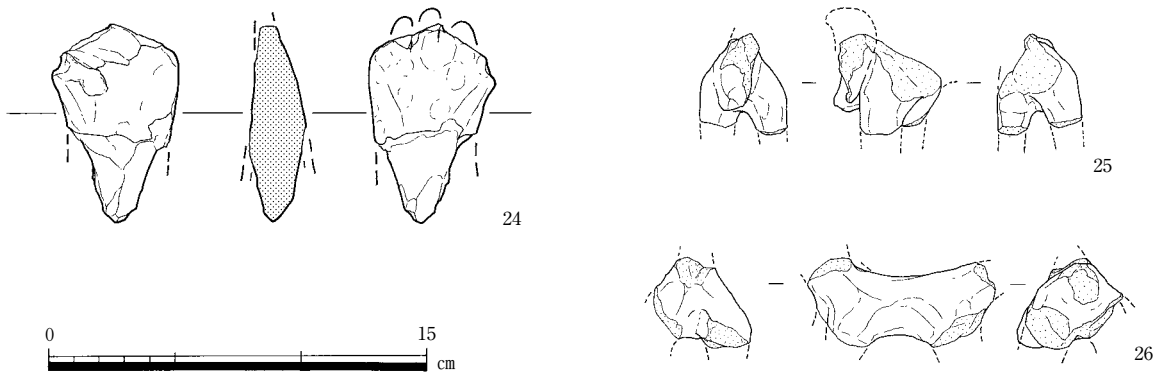


図101　纒向石塚古墳第 7 次調査出土土器実測図 3 （1 ／ 3 ）
第 2 トレンチ：24～26 中近世土

第10章　纒向石塚古墳第８次調査報告

（纒向遺跡第87次調査報告）

第１節　はじめに

第８次調査は墳丘北周濠部分の第１期整備事業の完了を受け、第２期整備事業予定地とされた後円部墳丘を調査の対象として纒向石塚古墳整備計画委員会の指導のもと、桜井市教育委員会が実施したものである。

纒向石塚古墳の後円部は既に第２・４章でも紹介されているように太平洋戦争中に高射砲を据える

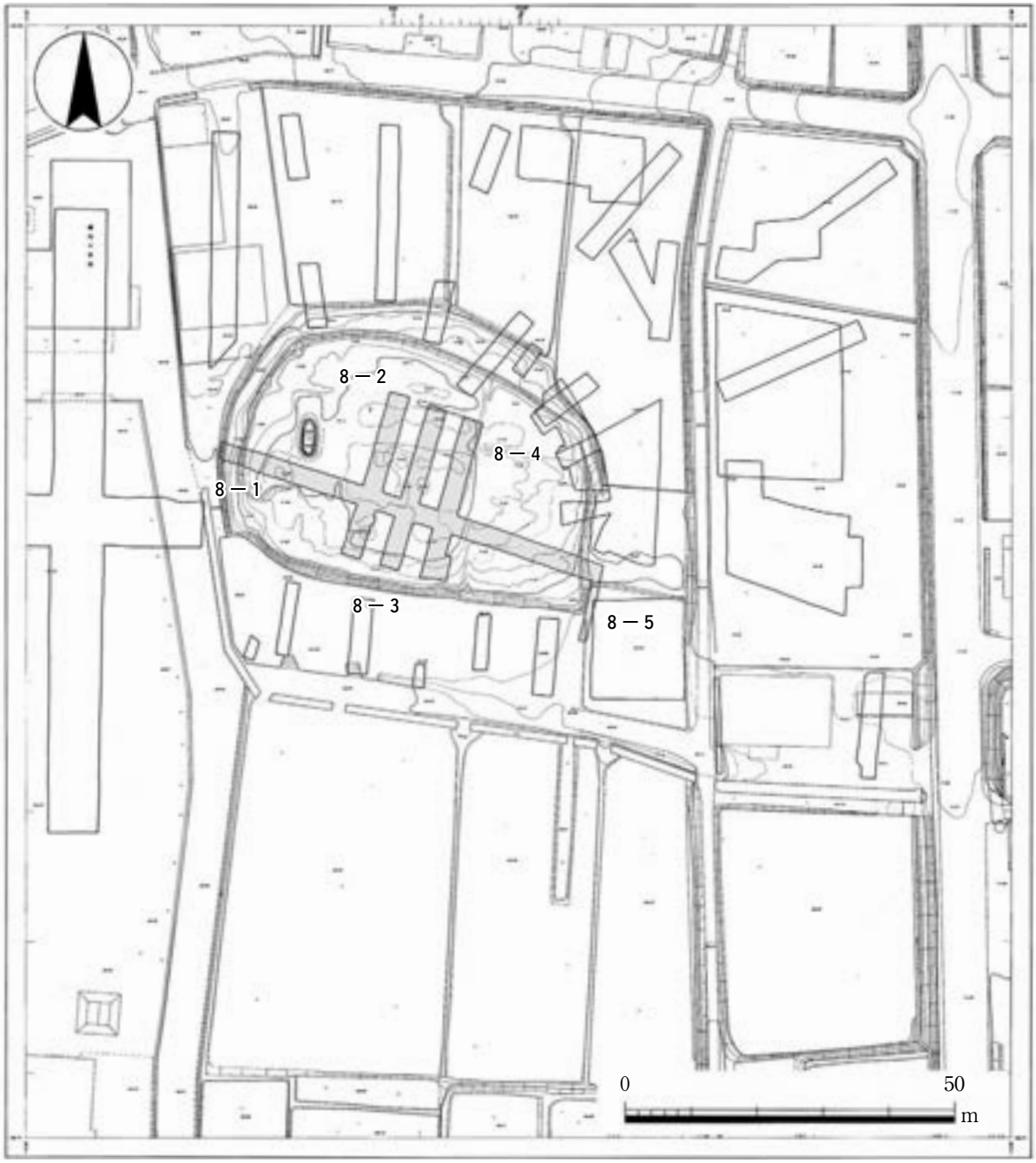


図102　纒向石塚古墳第８次調査地位置図（１／1,000）

ことを目的に大きく削平を受けているが、地元では現在も墳丘上に高射砲のコンクリート製台座が埋まっているとの言い伝えがあったため、高射砲台座の有無確認と戦時中の掘削の影響を探ること、墳丘本来の形状や盛土・外表施設・築造時期などの情報を得ることを目的として調査に着手した。

調査区の設定は墳丘の主軸線にあわせてメイントレンチとなる幅３ｍ、長さ61.5ｍの８－１トレンチを設定するとともに、この８－１トレンチに直交する形で適時８－２～８－５までの４本のサブトレンチを設定し調査を行った（図102）。

なお、現地調査は平成８年７月30日より開始し、途中１度の中断をはさみ同年11月22日まで実施しており、調査面積は402㎡であった。

第２節　調査の成果

（１）検出された遺構

先述したように墳丘の残存状況の確認を目的として古墳の主軸線上に長さ61.5ｍ、幅３ｍの第１トレンチを設定し、これに直交する形で長さ26ｍ、幅３ｍの第２～４トレンチを３ｍ間隔で設定している。各調査区の地区設定にあたっては調査区の中心ライン上に４ｍピッチで基準杭を打設し、地区割り及び測量・図化の基準としたが、このうち第１トレンチではこの基準杭を東から順に１杭～17杭と命名し、１杭から３杭までの区間がＡ区、３杭から５杭までの区間がＢ区と、以下15杭～17杭間のＨ区までを８ｍ単位で地区設定して適時地区呼称として使用したほか、１トレンチにおける墳丘断ち割り調査時には遺物の取り上げ地区の単位として２－３杭間といった具合に４ｍ間隔でより細かくその出土地区を特定できるように配慮している（図103）。

他の調査区のうち８－２から８－４トレンチでも同じく調査区の中央ライン上に４ｍピッチで基準杭を打設し、測量・図化の基準としたが、これらのトレンチは中央よりやや南部分を８－１トレンチが東西に貫いているため、この８－１トレンチを境に北側をＮ地区、南側をＳ地区として８－２Ｎ地区、８－２Ｓ地区といった具合にそれぞれ地区割りを設定している。

なお、８－５トレンチは前方部南側の側線の検出と国土座標による成果が残されていなかった３－１トレンチの位置を確認するため補足的に設定した幅１ｍ、長さ９ｍの小規模な調査区である。

さて、調査は基本的に墳丘盛土上面を露呈させて遺構面の精査を行っている。この結果、浅い所では表土下20㎝のレベルで墳丘盛土が確認されたが、懸案の一つであった高射砲関連の遺構についてはこれに係わるコンクリートや基礎など一切検出できず、その存在を示すものは確認されていない。また、墳丘盛土上面において検出された土坑状の穴やピット、溝のほとんどが近現代の耕作などに伴う撹乱によるものであった。このうち中世以前に遡る遺構は８－２～４トレンチのＳ地区を横断し、８－１トレンチ東端へと繋がる素掘りの溝２条と、８－４Ｓ地区から検出された竪穴状の方形落ち込み遺構SX-1001があるだけで、古墳に直接係わる遺構は８－１トレンチ西端で確認されている段築状の段差と、８－１トレンチ東端の後円部と前方部の接点部分で確認された後円部の高まり、そして８－５トレンチで確認された前方部墳丘南側の肩部のみであった。

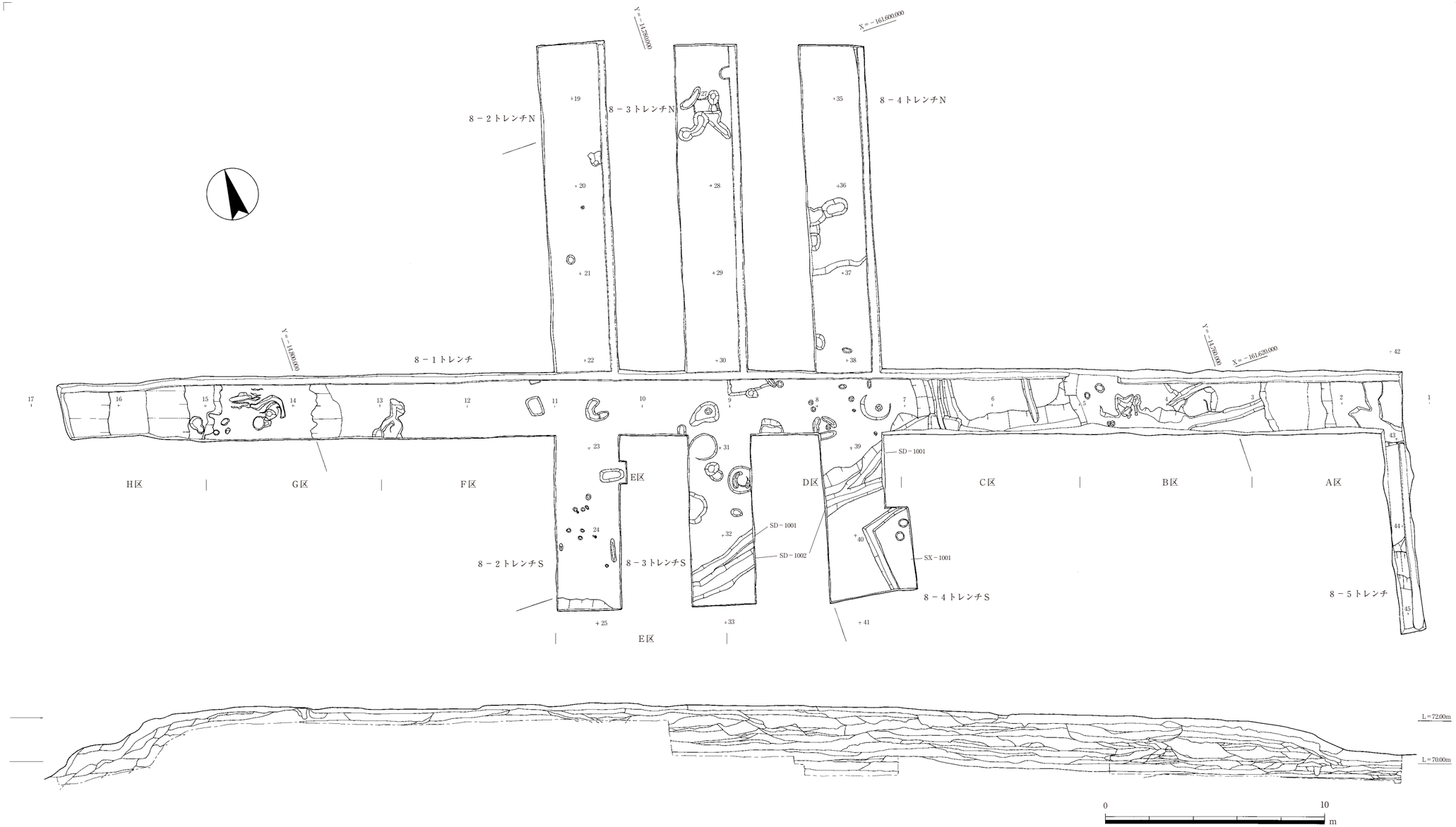


図103　第８次調査地平・断面図（１／160）

以下、遺構の所属時期ごとにまとめて状況を報告することとする。

1．中世の遺構

中世の遺構にはSD-1001・1002の２条の溝と、SX-1001とした落ち込み遺構がある。

溝遺構（SD-1001・1002） SD-1001・1002は墳丘の南部分を不整形にカットし、平坦面を作った後に残った墳丘と平坦面の接点部分の区画と排水を目的として掘削されたと考えられるもので、８－２Ｓ区から８－４Ｓ区へと残存する墳丘の南部分を横断し、８－１トレンチＢ区で検出されている素掘り溝、もしくは８－１Ｃ区西端の南北方向の素掘り溝へと繋がっていくものと思われる（図103～105）。

現在はこの溝を境に北側は最大で約40㎝高くなっているだけであるが、北側の墳丘部分は太平洋戦争時に大きく削平を受けていると判断されることから、この段差は本来さらに大きな切岸状の段差であった可能性も考えられる。また、溝はそれぞれ幅約50㎝、深さ20㎝程度の素掘りの溝で、埋土はやや粘性のある暗灰色粘質土で構成されていた。

なお、これらの溝遺構からの出土遺物は極めて少なく所属時期を限定できるものは確認できなかったが、墳丘のカットとこの溝によって作り出された平坦面上には後述する14世紀代の落ち込み遺構（SX-1001）があり、これら墳丘の改変もこの頃に行われたものと判断している。

落ち込み遺構（SX-1001） ８－４Ｓ区において検出された一辺が3.1ｍ以上×1.7ｍ以上の方形の落ち込み遺構で（図103・104）、調査時は落ち込みの壁面にそって幅40㎝前後の溝が検出されたことや、溝の内側が平坦で貼床状のやや粘質のある暗灰褐色砂質土（図107－12層）が認められたことから、竪穴式住居跡となる可能性も考えて一部東側へと調査区の拡張を行ったところ、想定された位置から深さ25㎝前後の柱穴となる可能性のあるピットを２基確認することができた。

しかしながら、当初住居跡の床面と考えた暗灰褐色砂質土の直上から14世紀代のものとみられる 土師皿や羽釜・焙烙などがまとまって出土したため本遺構が竪穴式住居跡となる可能性は考え難く、現時点では遺構の正確については不明と言わざるを得ない。

２．纒向石塚古墳の墳丘調査

古墳に関連する遺構が確認されているのは先述したように８－１トレンチ西端で確認されている段築状の段差と、８－１トレンチ東端の後円部と前方部の接点部分で確認された後円部の高まり、そして８－５トレンチで確認された前方部墳丘南側の肩部が検出されたのみであり、補足調査として８－１トレンチにおいて一部墳丘の断ち割り調査を行い、墳丘盛土の構造確認を行っている。

なお、墳丘部分の調査からは埋葬施設に係わるような遺構や遺物は一切確認することができなかった。恐らくは後世の削平により消滅してしまったものと判断される。

前方部の調査 纒向石塚古墳の前方部南側のラインは第３次調査で既に確認されているものの、早い時期の調査ということもあり、国土座標での調査ポイントが設定されていなかったため、８－１トレンチに直交させるかたちで長さ９ｍ、幅１ｍの８－５トレンチを設定し、前方部南側の側線の再検出と３－１トレンチの位置を確定させるために調査を行っている。

この結果、調査区の南端より約3.6ｍの地点において３－１トレンチの調査区を確認するとともに、

同じく調査区南端より約3.6mの地点で前方部の肩部を検出することができ（図104）、これらの成果から確認された８－５、４－３ｂトレンチ間の前方部の上面幅は11.7mと非常に幅の狭いものであることが判明している。

また、過去に行われた４－３ａ・ｂトレンチで確認されている前方部上の盛土は８－１トレンチ内でも確認されているものの、８－１トレンチから８－５トレンチにかかるあたりで後世の削平により消滅してしまっており（図104）、８－５トレンチにおいて検出された前方部はほぼ全てが地山のみで構成される状況であった。これは先に報告された３－１トレンチにおいても同様で、前方部は地山でのみ構成され盛土の存在は確認されていない。調査前の地形図をみると３－１トレンチと４－３トレンチの間には東西方向の畦畔を伴った明瞭な段差が認められることから、この水田開発に際して前方部南部分の盛土が削平を受けたものと考えられる。

なお、周濠部分の調査については本調査が墳形確認を目的とした調査であることを鑑みて前方部の形状を明確にするために周濠堆積の最上層埋土および上層埋土を一部掘り下げるのみに留め、以下の調査は行っていない（図107）。

後円部の調査　後円部墳丘に係わる施設は８－１トレンチＡ区の後円部と前方部の接点部分で確認された後円部の高まり、８－１トレンチＨ区で確認されている段築状遺構がある。

前方部側の８－１トレンチＡ区において検出された後円部の高まりは調査区西端より約３ｍの地点で検出されているが（図104）、これまでの調査で判明しているように纒向石塚古墳の後円部墳丘は東・南・北側ともに後世の削平を大きく受けており、この高まりが本来の後円部と前方の接点を示すものか否かを断定するのは困難である。

しかしながら４－３ｃトレンチで検出されている後円部墳丘との位置関係や後述する墳丘盛土の状況から考えると平面的には後世の削平によってそれほど大きく西側へ後退したものとは考え難く、この地点がほぼ当初の前方部と後円部墳丘の接点であったと判断して良いと思われる。

なお、この後円部の高まりは地山面より93㎝分の盛土しか残存しておらず、前方部墳丘上面との比高差もわずかに63㎝しかない状態であった。

このように大きく後世の削平を受けた後円部東半に対して、後円部西端では地山面より約４ｍ分のの盛土が残されていることが第１・８次調査の成果から判明している。段築状遺構は８－１トレンチ西端のＨ区で検出されており、標高70.1mの地点で幅2.3mの平坦面を確認しているが（図105）、後世の削平の影響をどの程度受けているのか、どの程度本来の墳丘面を保っているのかについては判然としない。

しかしながら、明治26年に描かれた『大和國古墳墓取調書』[1]所収の纒向石塚古墳の絵図（図４）や記録には後円部に３段の畑の存在をみることができることや現在も墳丘の西側に一定の平坦面が残存していること、纒向石塚古墳と同じ３世紀代築造のホケノ山古墳でも当初の段築を利用して畑耕作が行われていたこと、ホケノ山古墳で想定される段築テラス面の幅が最大で5.5m程度と非常に広いものであることなどを考え合わせると[2]、今回検出された段築状遺構も当初からの様相をほぼ残した存在と

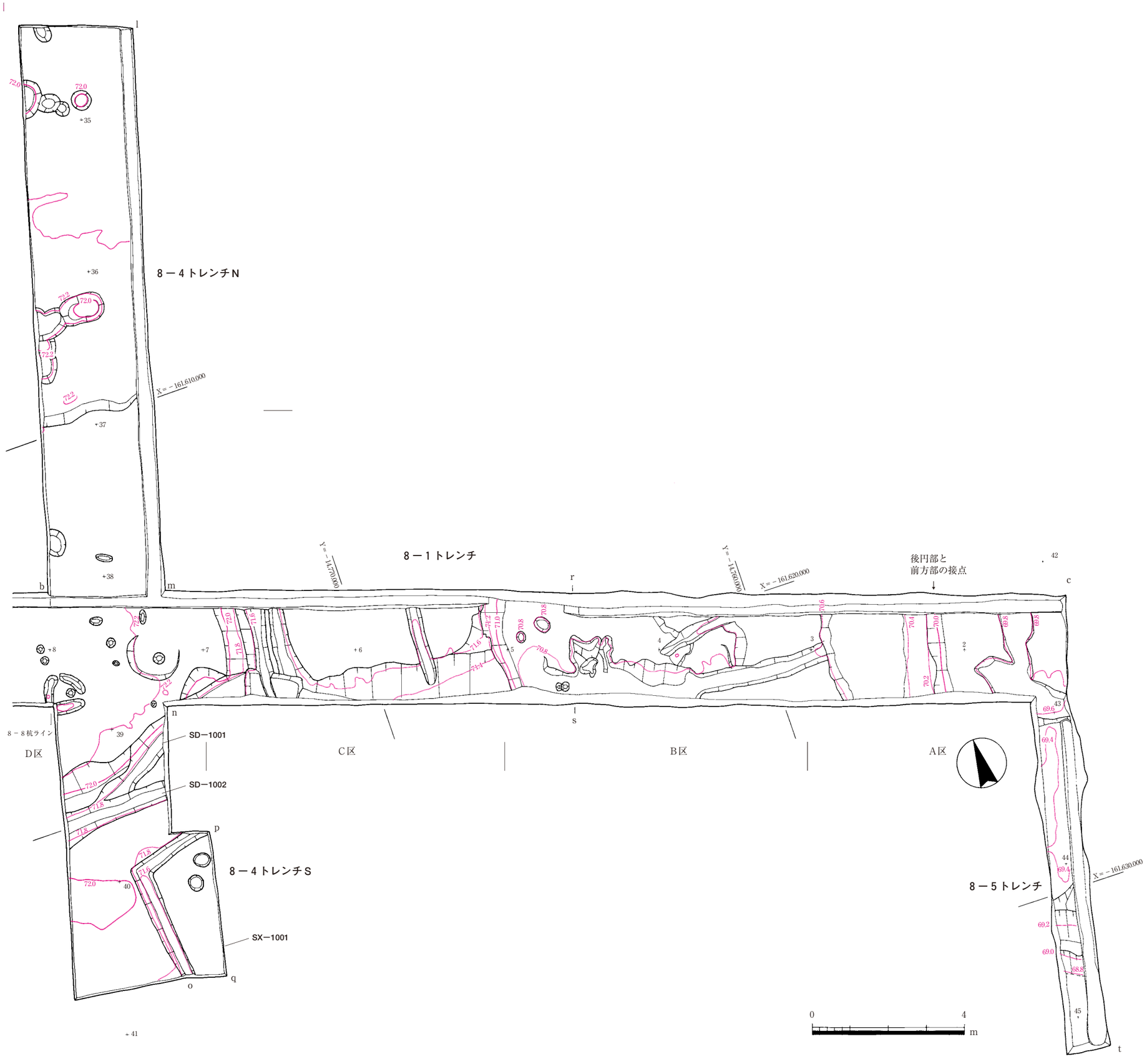


図104　第８次調査地平面図（東半）（１／100）

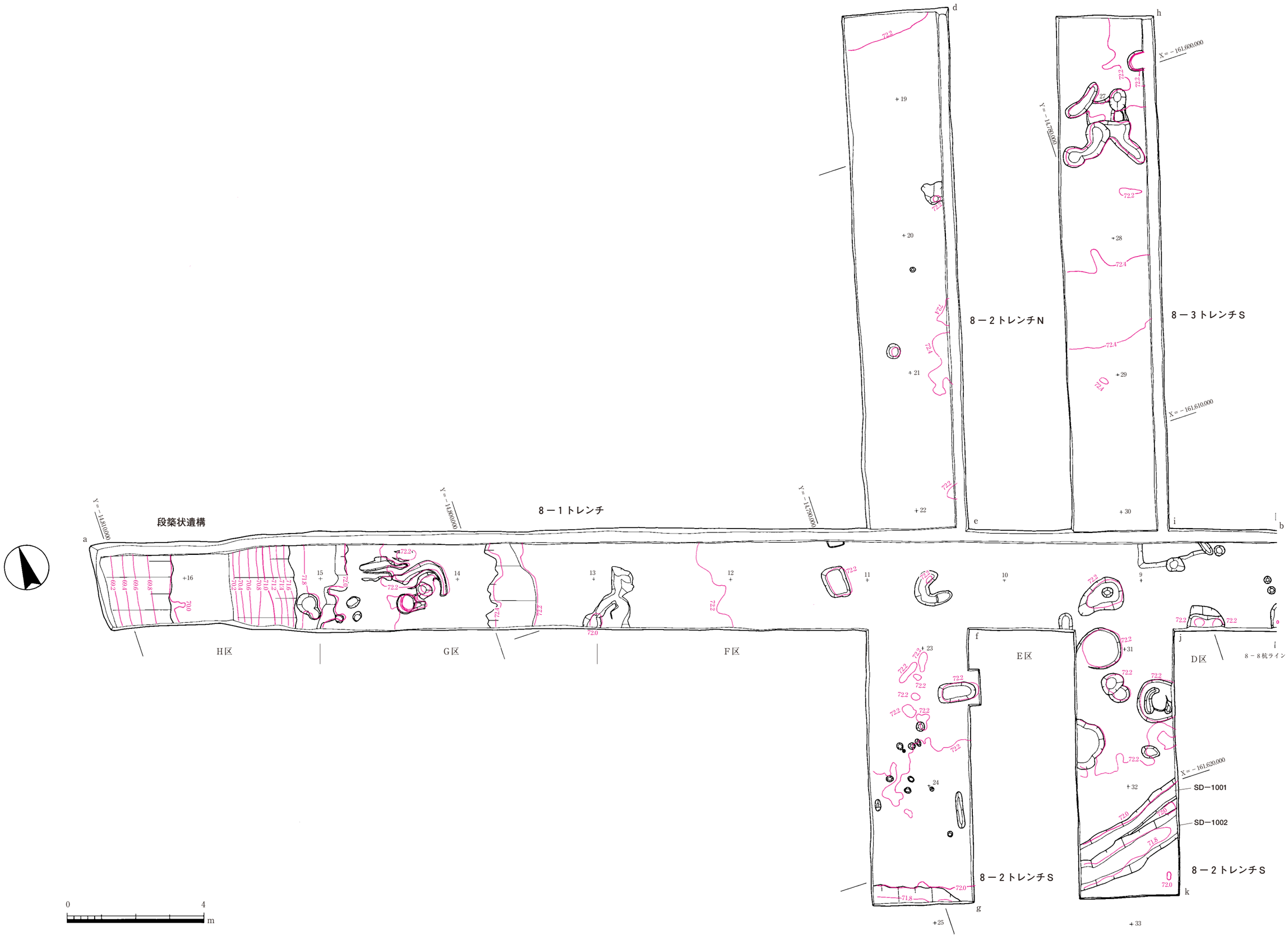


図105　第8次調査地平面図（西半）（1／100）

みて良いように思われる。

墳丘盛土の調査　墳丘盛土上面での調査終了後には盛土の状況を確認すべく墳丘の断ち割り調査を実施している。調査を行ったのは８－１トレンチＡ～Ｅ区の北半分、杭１～杭10の間に幅1.5m、長さ33.5mの探査トレンチを設定して調査を行った（図103・106）。

この結果確認された盛土は最も厚いところで約４mあり、周濠の掘削によって地山が掘り下げられた基底部分以外は墳丘の全てが盛土によって築かれていることが判明している。現在の墳丘高は第１次調査で確認された周濠底の墳丘基底部より約5.4mの高さがあるが、『大和國古墳墓取調書』所収の絵図や記録から勘案すると本来の墳丘は基底部より最大で約9.3mはあったものと考えられる。

さて、今回の断ち割り調査からは墳丘盛土内に堤状の盛土の存在を推定することができた。この堤状の盛土は墳丘断ち割り後の断面記録作成時にその存在に気付いたため、平面的な調査は行えなかったが、Ａ区およびＢ区の２カ所においてその存在を確認している。この２つの堤状盛土は墳丘盛土の構築過程で偶発的に断面に現れただけのもので、平面的には一定の長さを持った堤として存在しない可能性も無いわけではない。しかしながら、堤状遺構の有無は墳丘盛土の構築技法を理解する上で重要な要素となる可能性も鑑み、ここでは便宜的にＡ区のものを堤状遺構１、Ｂ区のものを堤状遺構２として解説を加えておくこととする（図106）。

堤状遺構１はＡ区の中央部で確認された盛土遺構で、先述した前方部と後円部の接点部分の見かけの高まりはこの堤によって構成されるものであった。基底部の幅1.6m、高さ60㎝の規模を測り、断面の様子からは前方部の盛土となる図106－167・168層の上面に盛られた様子がうかがえ、同一レベルで盛り上げられた下層盛土が後述する低湿地に由来する極めて脆弱な土壌によって構成されるのに対し、堤状遺構は固くしまりの良い暗茶褐色の砂質土を用いて構築されていた。

堤状遺構２は堤１から西へ約6.5mのＢ区で確認された盛土遺構で基底部幅2.5m、高さ64㎝の規模を測る。断面の検討からは後述する下層盛土が地山面より60～70㎝ほどの高さで水平に盛られた上に構築されたように見え、堤状遺構２は地山ブロックを含んだ暗灰色、暗褐灰色の砂質土を主体としたしまりの良い土壌で構成されていた。

なお、この２つの堤状遺構が墳丘盛土を行うために人為的に構築されたものであるとすれば他にも数個の盛土状遺構が存在する可能性が考えられ、Ｄ～Ｅ区の標高71.1m～71.7m付近にもその候補となり得る盛土の高まりが２カ所で認められたが、堤１・２ほど明確なものではなかったため、ここではその可能性を指摘しておくのみとしたい。

さて、墳丘盛土はこの２つの堤状の盛土を基準として大きく上下２層に分類することができた（図106）。下層盛土はＡ区で確認されている堤状遺構１が構築された後に盛られた土壌で、墳丘下で確認された低湿地部の土壌をかき集めたとみられる砂礫を多く含んだ質の悪い粘質土で構成されており、土器片の他に植物遺体が多量に含まれていた。

これに対して上層盛土はＢ区で確認されている堤状遺構２が構築された後に盛られた土壌であるが、堤状遺構２よりも西側の上層盛土下部は低湿地部からの土壌と微高地に由来する多量の土器を含んだ

しまりの良い砂質土が混在する形で構成されており、堤状遺構２より西側の上層盛土上部と堤状遺構２より東側の盛土は微高地に由来する土壌と周濠を掘削する際に得られた黄灰色系のシルトや粘土などの地山で構成されていた。

なお、これらの盛土には版築などの盛土技法は確認することができなかったが、総じて砂質土とシルト・粘土を互層に積み上げつつ盛土を叩き締める傾向が確認された。

墳丘下遺構の調査　断ち割り調査の際に墳丘盛土の確認作業と合わせて地山となる暗灰色シルト層上面での遺構検出を行っている。この結果、前方部と後円部の接点部分より約８ｍ後円部側へ入った地点で墳丘下に展開する湿地状の落ち込みを検出している（図106）。

この落ち込み遺構は墳丘中央部Ｄ～Ｅ区における断ち割り部分でもその存在が確認されており、現在も地形に見ることができる纒向石塚古墳の南側にある谷（旧河道）が墳丘の下へともぐりこんでいくのか、あるいは別に流路・湿地状の落ち込みが存在するものと考えられる。この墳丘下に存在する落ち込み遺構は既に第２次調査の第４～６トレンチにおいても確認されているものであり、今回検出された落ち込みと同一の遺構になる可能性が高いと判断されるが、墳丘の南側においてこれまでに実施された２－１～３トレンチや１－１トレンチ部分ではこの落ち込み遺構が検出されていないことから、広範囲にわたって展開する遺構とは考えていない。

なお、調査面積が矮小であったため、落ち込みの十分な調査はできなかったが、中からは出土遺物の項において後述する弥生時代には溯らない少量の土器片と樫の自然木・植物遺体・二枚貝・巻貝などが出土している。

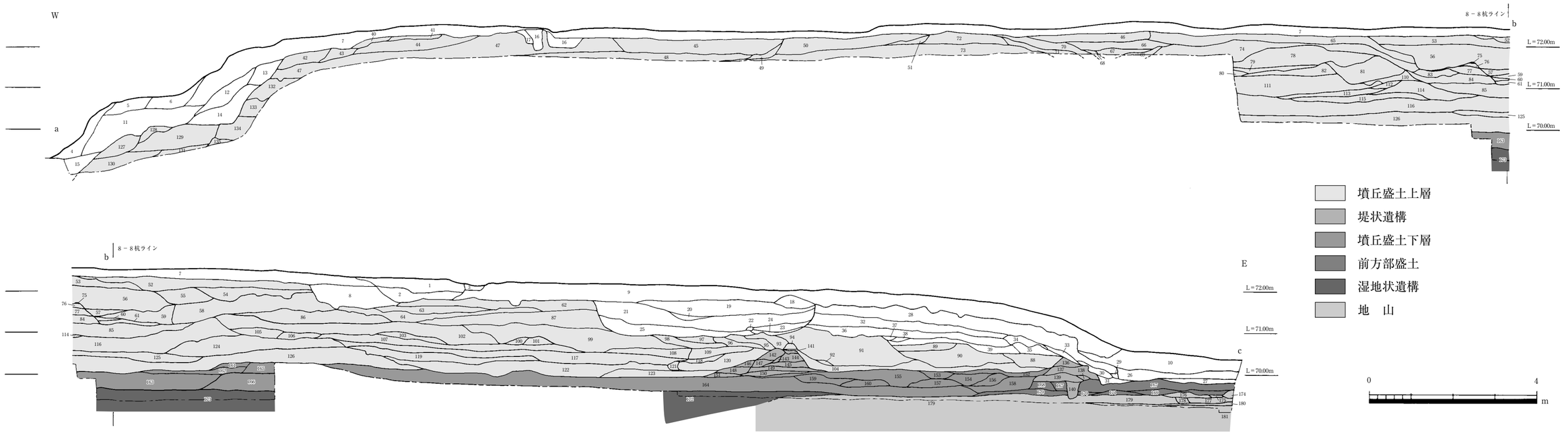
（２）出土遺物

第８次調査における出土遺物は大きく分けて墳丘下の湿地状の落ち込み、墳丘盛土、周濠内、落ち込み遺構（SX-1001）の４ヶ所からの出土があった。

墳丘下湿地出土土器　図示したもののうち図109－１～９は墳丘下の湿地状の落ち込み遺構からの出土遺物である。このうち小さな破片資料ではあるが７に示したのは有段高坏の坏部の小破片と考えており、有段高坏が庄内０式期から出現することを考え合わせると、纒向石塚古墳の築造がこれを溯らない事を示すものとして注目される。また、この遺構からの出土土器の中には６のように在地に類似した胎土を持つものの、形式から見て近江系の受口状口縁鉢、或いは手焙り形土器の破片となり得る外来系のものも見ることができる。

墳丘盛土出土土器　墳丘盛土からの出土土器は「墳丘盛土の調査」の項でも述べたように盛土そのものが墳丘の構築に際して周辺から集められたものであり、ここから出土した土器も直接古墳の築造や埋葬に伴うような性格のものではない。従って出土した土器の全ては破砕された小さな破片資料ばかりであったが、墳丘盛土下層からは1961点、上層からは1655点と上下層ともにほぼ同量の土器片が出土し、総数にして3616点もの土器片が出土している。本報告の作成にあたっては小片でも口縁や底部を有する物は極力図化することとし、431点の土器を図示することができた。

このうち、図109－10から図113－221に示したのは墳丘盛土下層からの出土土器である。この中には



8－1トレンチ北壁（a－c）

1 暗褐灰色土（耕土）
2 暗褐灰色土（5㎜大の砂礫を含む）
3 暗灰色土（水分多い）
4 暗灰褐色土（笹等の根による撹乱。畠よりの流出土）
5 暗灰褐色土（4層より明るい。畠耕土）
6 暗灰褐色土（5層より灰色が強い。畠耕土）
7 暗褐灰色土（耕土）
8 暗褐灰色土（7層より暗く、締まりが弱い）
9 暗灰色砂質土（5㎜大の砂礫を多く含む。畠耕作土）
10 暗褐灰色砂質土（軟らかい）
11 暗灰褐色土（5㎜大の砂礫を多く含み、軟らかい）
12 暗灰褐色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む。締まりよい）
13 暗灰褐色土（5㎜大の砂礫を少量含む。上のきめが細かく一定）
14 暗灰褐色砂質土（12層に同じだがやや軟らかい）
15 暗灰褐色土（軟らかい）
16 暗灰色砂質土（木の根痕）
17 暗灰色砂質土（暗灰色粘土・暗褐灰色粘土ブロックを含む。木の根痕）
18 暗灰褐色砂質土（5㎜大の砂礫を少量含み、黒灰色砂質土ブロック（埴丘）盛土を少量含む）
19 黒灰色土（黒褐色盛土ブロックを多量に含む。暗灰色シルト盛土を少量含む）
20 暗褐灰色砂質土（砂質強い）
21 暗褐灰色砂質土（やや粘質）
22 暗灰色粘土ブロック層
23 暗灰色砂礫層（拳大の礫で構成される）
24 暗褐灰色粘砂層（水分多い）
25 暗褐灰色粗砂層（5㎜大の礫で構成され、拳大の石を数点含む）
26 暗褐灰色砂質土（締まりがよく、5㎜大の砂礫を多く含む）
27 暗褐灰色砂質土（26層より軟らかく暗い）
28 暗褐灰色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む。明るい）
29 暗褐灰色砂質土（締まりがよく、褐色強い）
30 暗褐灰色砂質土（灰色強い）
31 暗灰褐色砂質土（硬い。167層より灰色強い）
32 暗褐灰色砂質土（締まりがよく28層よりやや暗い。5㎜大の砂礫を多量に含む）
33 暗褐灰色砂質土（締まりがよい）
34 暗褐灰色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む）
35 暗褐灰色砂質土（締まりがよく、明るい）
36 暗褐灰色砂質土（非常に硬質。5㎜大の砂礫を多量に含む）
37 暗褐灰色砂質土（暗い）
38 暗褐灰色砂質土（暗く、5㎜大の砂礫を多量に含む）
39 暗褐灰色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む）
40 暗灰褐色砂質土（41層より砂礫が少なく暗い）
41 暗灰褐色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む）
42 暗褐灰色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫を多く含む）
43 暗褐灰色土（極めて一定した締まりのよい土。5㎜大の砂礫を多く含む）
44 暗褐灰色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫を多量に含む。非常に硬質）
45 暗灰色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫が非常に多い。暗灰色・暗褐灰色粘土ブロックを多量に含む。硬い）
46 暗褐灰色粘質土（暗褐色・暗灰色・黒灰色粘土ブロック多い。5㎜大の砂礫が目立つ。硬い）
47 暗灰色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫を多量に含み、暗褐灰色の粘土ブロックを少量含む。非常に硬い）
48 暗灰色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫が非常に多いが、45層よりも暗く粘土ブロックの比が多い）
49 暗褐灰色砂層
50 証記なし
51 暗灰色砂質土（やや粘性あり。黒灰色粘土ブロックを多量に含む）
52 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色シルト質土との互層）
53 暗茶褐色砂質土（非常に硬い）
54 暗褐灰色砂質土（52層より暗黄灰色シルト質土少ない）
55 証記なし
56 暗茶褐色砂質土（53層より軟らかく、土器片を多く含む）
57 暗茶褐色砂質土
58 暗黄灰色シルト質土（暗褐灰色シルト質土ブロックを互層に含む）
59 暗茶褐色砂質土（暗灰色シルト質土ブロック少量含む）
60 暗黄灰色シルト質土（暗灰色粘土ブロックとの互層）
61 暗褐灰色砂質土（暗灰色シルト質土との互層）
62 暗黄灰色シルト質土（暗い）
63 暗黄灰色シルト質土（黒褐色粘土層と薄い互層となる）
64 暗黄灰色シルト質土（63層に同じで非常に締まりよく、硬い）
65 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色・暗灰色シルト質土・粘土ブロックの互層。非常に硬い）
66 暗灰色粘質土（暗褐色・暗灰色・黒灰色粘土ブロック多い。5㎜大の砂礫が目立つ。硬い）
67 暗灰色粘質土（66層に同じだが粘性やや強く暗い。硬い）
68 暗灰色粘質土（67層に同じだが5㎜大の砂礫含む）
69 暗灰色砂質土（粒子の一定した砂質土）
70 暗灰色粗砂層
71 暗灰色粘質土（5㎜の砂礫を多く含む。暗灰色粘土ブロックを含む）
72 暗灰色粘質土（73層に同じだが締まりよく硬い）
73 暗灰色粘質土（黒灰色・暗灰色粘土ブロックで構成される）
74 暗茶褐色砂質土（暗黄灰色粘土ブロック・暗灰色粘土ブロックを多く含む。締まりよい）
75 暗灰色シルト質土
76 暗茶褐色土
77 暗黄灰色シルト質土（暗灰色粘質土ブロックを互層に含む）
78 暗茶褐色砂質土（軟らかい。暗黄灰色粘土ブロックを少量含む）
79 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘土ブロック、暗黄灰色粘土ブロックを含む）
80 暗灰色砂質土（暗い）
81 暗灰色粘質土（黒灰色・暗灰色粘土ブロックで構成される）
82 暗茶褐色砂質土（暗黄灰色・暗灰色シルト質土・粘土ブロックが多く入る）
83 暗茶褐色砂質土（暗灰色・暗黄灰色・粘土・シルト質土層の混和）
84 暗灰色砂質土（暗黄灰色・暗灰色シルト質土・粘土ブロックの互層。締まりよい）
85 暗褐灰色砂質土（61層よりも暗灰色シルト質土を多量に含む）
86 暗灰色砂質土（暗灰色シルト質土・暗灰色粘土ブロックを多く含む。湧が入る）
87 暗茶褐色砂質土（87層に同じ）
88 暗茶褐色砂質土（土器片多く含む。暗灰色粘土ブロック0.5～1㎝大の砂礫多量に含む。締まりがよい）
89 暗褐灰色砂質土（締まりよく、5㎜大の礫を多量に含む）
90 暗褐灰色シルト質土
91 暗褐灰色シルト質土（赤褐色粘土ブロックを多量に含み、5㎜～1㎝大の砂礫を多量に含む）
92 暗茶褐色砂質土（土器片が多い、締まりがよい）
93 暗灰色シルト層（軟らかい）
94 暗灰色土

墳丘盛土上層

95 黒灰色砂質土（5㎜大の砂礫を含み、暗赤灰色シルト層を少量互層に含む。よく締まる）
96 黒灰色砂質土（95層に同じであるが、シルト層の積み込みの角度が異なる。よく締まる）
97 暗赤褐色砂質土（灰色粘土ブロックを含む）
98 暗褐灰色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む）
99 暗灰褐色砂質土（ごく小さい暗灰色粘土ブロックを少量含む）
100 暗茶褐色砂質土（やや粘性あり、暗い）
101 暗茶褐色砂質土（102層に同じ）
102 暗茶褐色砂質土（土器片多い。暗灰色粘土ブロック、0.5～1㎝大の砂礫を含む。87・86層よりやや褐色強い）
103 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘土ブロックと赤褐色シルト質土層の互層。0.5～1㎝の砂礫を多く含む。赤褐色強い）
104 暗灰色砂質土（黄灰色粘土ブロックを含み、赤褐色シルト質土を互層に含む）
105 暗褐灰色砂質土（やや粘質）
106 暗灰色砂質土（暗灰色シルト質土ブロックを少量含む。締まりがよい）
107 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘土ブロックと赤褐色シルト質土層の互層。上層より暗灰色粘土ブロック多く、暗い）
108 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘質土を少量互層に含む。0.5～1㎝大の砂礫を多く含む）
109 暗灰色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む）
110 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘土ブロック、暗灰色シルト質土ブロックが入る。湧が入る）
111 暗青灰色シルト質土（暗灰色粘土ブロック、暗黄灰色シルト質土ブロックの混和）
112 暗褐灰色砂質土（0.5～1㎝大の砂礫を多く含む。湧が入る）
113 暗褐灰色砂質土（0.5～1㎝大の砂礫を多く含み、粘性弱い。114・115層より明るい。湧が入る）
114 暗褐灰色砂質土（0.5～1㎝大の砂礫を多く含み、粘性弱い。115層より褐色が強い。湧が入る）
115 暗褐灰色砂質土（0.5～1㎝大の砂礫を多く含み、粘性弱い。湧が入る）
116 暗灰色砂質土（0.5～1㎝大の砂礫を多量に含む。土器を多く含む。湧が入る）
117 暗褐灰色砂質土（暗灰色砂質土と赤褐色砂質土を互層に含む。0.5～1㎝大の砂礫を多量に含む）
118 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色シルト層・黒灰色粘土ブロックを含む）
119 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘土ブロックと赤褐色シルト質土層の互層。117層よりさらに灰色粘土が多く暗い。砂礫多い）
120 暗褐灰色砂質土（黒灰色砂質土粒を互層に含む。5㎜大の砂礫を多く含む。よく締まる）
121 暗赤褐色砂礫層（黒灰色粘土ブロックを含む）
122 暗灰色砂質土（5㎜大の砂礫を含み、暗褐色砂質土をごく薄く層状に含む）
123 暗黄灰色シルト質土（暗灰色砂質土ブロックを多量に含む）
124 暗灰色砂質土（やや粘性あり。5㎜大の礫を含む。暗い。土器を多く含む）
125 暗灰色粘質土（暗灰色シルト質土、暗灰色粘土ブロックを多く含む。湧が入る）
126 暗灰色砂質土（やや粘性あり。0.5～1㎝大の砂礫を多く含む。湧がみられ植物遺体を若干含む）
127 暗褐灰色土（128層に同じだがやや粒子が細かい）
128 暗茶褐色砂質土（締めて、よく締まった、粒子の一定した。ごく小さい暗灰色粘土ブロックを多く含む）
129 暗灰褐色砂質土（0.5～2㎝大の砂礫を多量に含み、ごく小さい・暗灰色・暗赤褐色粘土ブロックが多量に入る）
130 暗灰褐色土（127層に土質は近いが、暗黄灰色の粘土ブロックを少量含む）
131 暗灰褐色砂質土（5㎜大の砂礫を多量に含む。暗褐灰色粘土ブロックを多く薄く層状に含む）
132 暗灰褐色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫を多く含む）
133 暗灰褐色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫を含み、黒灰色粘土ブロック少量混じる）
134 暗灰褐色砂質土（0.5～3㎝大の砂礫を多く含む。暗灰色粘土ブロック多く含む）
135 暗灰褐色砂質土（5㎜大の砂礫を含み、暗灰色・暗赤褐色粘土ブロック少量混じる）
136 暗茶褐色砂質土（締まりがよい）
137 暗茶褐色砂質土（締まりがよく5㎜大の砂礫を多量に含む。土器片を含む）
138 暗褐灰色砂質土（締まりがよく暗い）
139 暗茶褐色砂質土（締まりがよい。暗く、砂礫を多く含む。土器片を含む）
140 暗灰褐色砂質土（167層に比べ軟らかい）

堤1

141 暗黄灰色シルト質土（炭を少量含む。鉄斑少量有）
142 暗灰色粘質土（5㎜大の砂礫を含み、非常に締まりがよい）
143 暗褐灰色粘質土（暗灰色粘質土との互層）
144 暗黄灰色シルト質土（暗灰色粘土ブロックを少量含む）
145 暗灰色粘質土（暗黄灰色シルト質土を多量に含む）
146 暗灰色砂質土（黒灰色粘土ブロックを含む）
147 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色シルト質土・暗灰色粘土ブロックを含む）
148 暗黄灰色シルト質土（暗灰色粘土ブロックを含む）
149 黒灰色砂質土（暗黄灰色シルトブロックを少量含む）
150 暗黄灰色シルト質土（暗灰色砂質土を層状に含む）
151 暗灰色粘質土

堤2

152 暗茶褐色砂質土（締まりがよく5㎜大の砂礫を含む。土器片が多い）
153 暗褐灰色土（締まりがよく暗黄灰色粘土ブロックを少量含む）
154 暗褐灰色砂質土（締まりがよく褐色強い。土器片が多い）
155 暗灰色粘質土（炭を少量含む。鉄斑少量有）
156 暗褐灰色砂質土（締まりがよく154層より明るい。土器片が多い）
157 暗茶褐色土（締まりがよく5㎜大の砂礫を少量含む）
158 暗茶褐色土（締まりがよく炭・5㎜大の砂礫を少量含む。土器片が多い）
159 暗褐灰色粘質土（鉄斑多し）
160 暗褐灰色粘質土（159層より暗く、締まりがよい）
161 暗灰色粘質土（きめ均一。軟らかい。湧がみられ植物遺体を若干含む）
162 暗褐灰色砂質土（やや粘質。0.5～1㎝大の砂礫を多量に含む。湧がみられ植物遺体を若干含む）
163 暗灰色粘土（0.5～1㎝大の砂礫を多く含む。粘性弱い。湧を含む）
164 暗灰色粘質土（5㎜大の砂礫を多く含み、暗い）
165 暗灰色砂質土（やや粘質。締まりがよい。湧がみられ植物遺体を若干含む）
166 暗灰色粘土（0.5～1㎝大の砂粒を含む。湧がみられ植物遺体多い。低湿地堆積）
167 暗茶褐色砂質土（暗くやや粘質。土のきめが均一）
168 暗茶褐色土（締まりがよく、5㎜大の砂礫を少量含む。土器片が多い）
169 暗褐灰色砂質土（167層より粒子が細かく、やや軟らかい）
170 暗灰色土（暗い）
171 暗褐灰色シルト質土
172 暗褐灰色砂礫層
173 暗灰色粘土（湧がみられ植物遺体や土器が多い。低湿地堆積）
174 暗褐灰色砂質土（ややシルトがかる）
175 暗褐灰色砂質土（砂粒が大半を占める）
176 暗褐灰色シルト質土（砂粒を多く含む）
177 暗褐灰色シルト質土（5㎜大の砂礫を少量含む）
178 暗灰色粗砂層（5㎜大の砂礫で構成される）
179 暗灰色シルト層
180 暗黄灰色粘土層
181 黒灰色粘土層

墳丘盛土下層

前方部盛土

堤丘下湿地層

地山

図106　8－1トレンチ断面図（1／80）

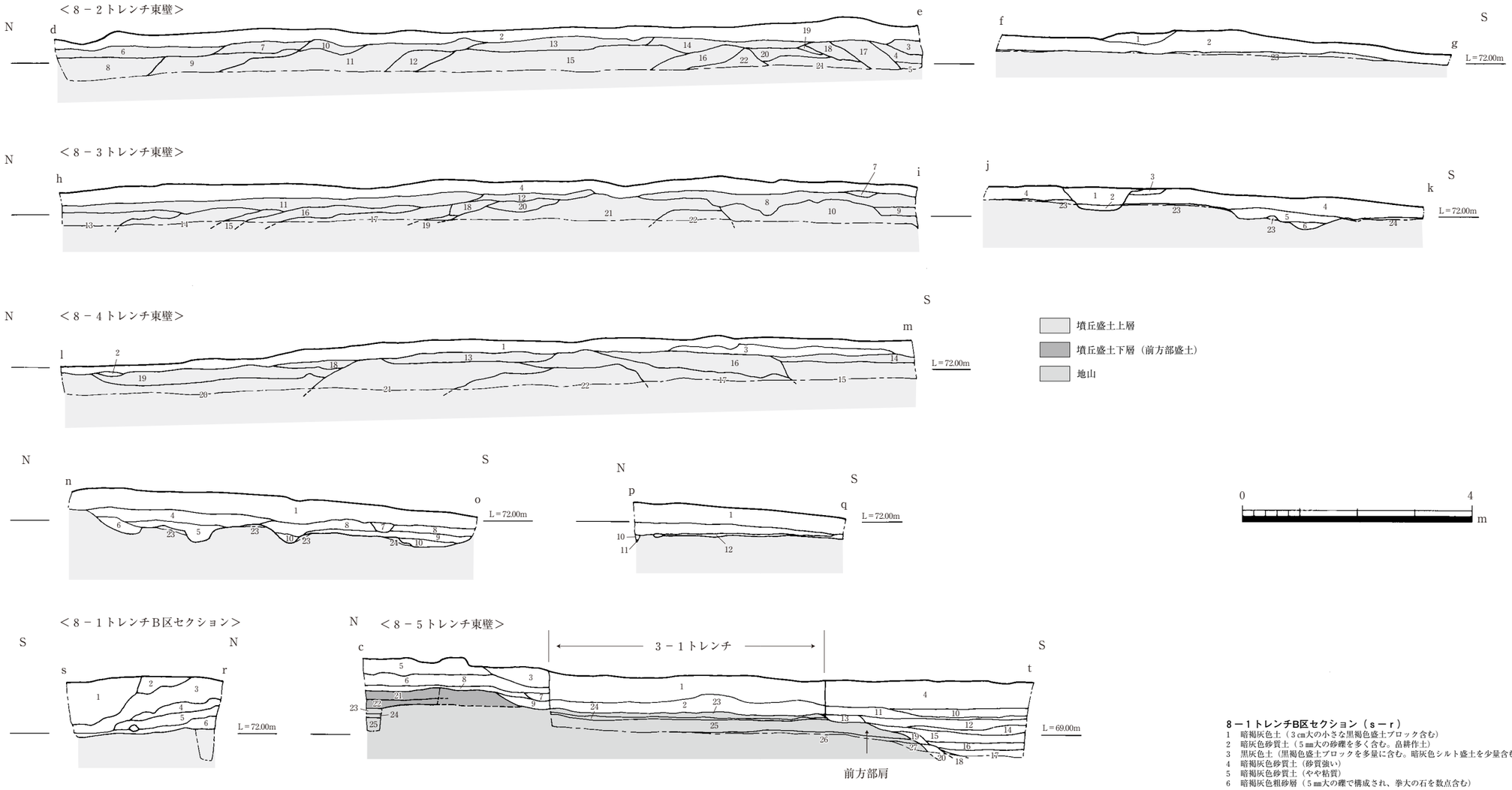


図107　８－２～５トレンチ断面図（１／80）

８－１トレンチＢ区セクション（ｓ－ｒ）

1 暗褐灰色土（３㎝大の小さな黒褐色盛土ブロック含む）
2 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を多く含む。畠耕作土）
3 黒灰色土（黒褐色盛土ブロックを多量に含む。暗灰色シルト盛土を少量含む）
4 暗褐灰色砂質土（砂質強い）
5 暗褐灰色砂質土（やや粘質）
6 暗褐灰色粗砂層（５㎜大の礫で構成され、拳大の石を数点含む）

８－２トレンチ東壁（ｄ－ｅ、ｆ－ｇ）

1 暗褐灰色土（２層の撹乱。締まり悪く、ゴミを含む）
2 暗褐灰色土（耕土）
3 暗褐灰色粘質土（暗褐色・暗灰色・黒灰色粘土ブロック多い。５㎜大の砂礫が目立つ。硬い）
4 暗灰色粘質土（暗褐色・暗灰色・黒灰色粘土ブロック多い。５㎜大の砂礫が目立つ。硬い）
5 暗灰色粘質土（４層に同じだが粘性やや強く暗い。硬い）
6 暗褐灰色砂質土（暗灰色シルトとの混和）
7 暗褐灰色砂質土（暗褐灰色シルト質土ブロックを少量含む）
8 暗灰色砂質土（締まりよく、やや粘性を帯びる）
9 暗灰色砂質土（暗褐灰色シルト質土ブロックを少量含む）
10 暗灰色砂質土（軟らかい）
11 暗褐灰色砂質土（暗灰色シルト質土ブロックを少量含む）
12 暗褐灰色砂質土（５㎜大の砂礫を多く含む）
13 暗灰色砂質土（暗灰色シルト質土ブロックを多く含む）
14 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を多く含む）
15 暗灰色砂質土（やや粘性あり）
16 暗灰色砂質土（14層よりも明るく、砂礫を多く含む）
17 暗灰色砂質土
18 暗灰色砂質土（17層と同じだが、暗黄灰色シルト質土・暗灰色粘土を互層に含む。締まりよい）
19 暗灰色砂質土
20 暗灰色砂質土（19層よりも締まりよく非常に明るい）
21 暗灰色粘質土（締まりよい）
22 暗褐灰色砂質土（締まりよい）
23 暗灰色シルト質土（暗灰色・暗黄灰色砂質土ブロックを多量に含む）

墳丘盛土上層

８－３トレンチ東壁（ｈ－ｉ、ｊ－ｋ）

1 暗灰色砂質土（暗い）
2 暗灰色粘質土（地山ブロックを多く含む）
3 暗灰色砂質土（暗い。１層より明るい）
4 暗褐灰色土（耕土）
5 暗褐灰色土
6 暗褐灰色粘質土
7 暗灰色砂質土（暗黄灰色・暗灰色シルト質土ブロックを多く含む）
8 暗茶褐色砂質土（非常に硬い）
9 暗茶褐色砂質土（８層よりも軟らかく、土器片を多く含む）
10 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色・暗灰色シルト質土・粘土ブロックの互層。非常に硬い）
11 暗褐灰色砂質土（灰色強い）
12 暗褐灰色砂質土
13 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色・暗灰色シルト質土ブロックを多く含む）
14 暗灰色砂質土（暗黄灰色粘土ブロックを含む。よく締まる）
15 暗褐灰色砂質土（軟らかい）
16 暗褐灰色砂質土（やや粘性を帯びる）
17 暗灰色砂質土
18 暗褐灰色砂質土（12層より砂礫が多い）
19 暗褐灰色砂質土（硬い）
20 暗灰色砂質土（暗灰色粘土ブロックを含む）
21 暗灰色砂質土（22層と同じであるがより明るい）
22 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を多量に含む。21層より暗い）
23 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を多く含む。硬く締まる）
24 暗褐灰色シルト質土（明るく、暗灰色シルト質土を多く含む）

墳丘盛土上層

８－４トレンチ東壁（ｌ－ｍ、ｎ－ｏ、ｐ－ｑ）

1 暗褐灰色土（耕土）
2 褐灰色粘質土（粘性やや弱い）
3 暗褐灰色粘質土（粘性弱し。５㎜大の砂礫を含む）
4 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を若干含む。10層より明るい）
5 暗灰色粘質土（４層より粘性あり）
6 暗灰色粘質土（５㎜大の砂礫を若干含む）
7 暗灰色粘質土（粘性ややあり。５㎜大の砂礫を若干含む）
8 暗褐灰色粘質土
9 暗褐灰色砂質土
10 暗灰色砂質土
11 註記なし
12 暗灰褐色砂質土（やや粘性あり）
13 暗褐灰色砂礫層
14 暗褐灰色砂質土（暗黄灰色シルト質土との互層）
15 暗褐灰色砂質土（14層より暗黄灰色シルト質土少ない）
16 暗褐灰色砂質土（暗灰色粘土ブロックを多量に含み、黄灰色粘土との互層。よく締まる）
17 暗灰色砂礫層（0.5～１㎝大の砂礫を含む。暗い）
18 褐灰色シルト層
19 褐灰色シルト層（砂粒を多く含み、18層よりやや暗い）
20 暗褐灰色シルト層
21 暗灰色粘質土（0.5～１㎝大の砂礫を中量含む。22層よりやや暗い）
22 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を若干含む）
23 暗灰色粘質土（24層より暗い）
24 暗灰色粘質土（砂っぽい）

墳丘盛土上層

８－５トレンチ東壁（ｃ－ｔ）

1 暗褐灰色土（３－１トレンチ埋め土）
2 暗灰色粘質土（第３次調査の埋め土か）
3 暗褐灰色土
4 暗赤褐色土（山土。埋め立て時のもの）
5 暗褐灰色砂質土（軟らかい）
6 暗褐灰色砂質土（締まりがよく、５㎜大の砂礫を多く含む）
7 暗褐灰色砂質土（きめ細かい）
8 暗褐灰色砂質土（６層より軟らかく暗い）
9 暗褐灰色砂質土（７層よりややきめ細かい）
10 暗青灰色粘質土（５㎜大の砂礫を多く含む）
11 暗灰色粘質土
12 暗灰色砂質土（５㎜大の砂礫を多く含む）
13 暗灰褐色砂質土　周濠内堆積土最上層
14 暗灰褐色土（よく締まる）
15 暗灰褐色砂質土（やや粘性あり）
16 暗灰色粘質土（５㎜大の砂礫が多い）
17 暗灰色粘砂層（５㎜大の砂礫が多い）
18 暗灰色粘土層　周濠内堆積土上層
19 暗褐色粘質土（５㎜大の砂礫が多い）
20 暗灰色粘土層（非常に暗く硬い）
21 暗茶褐色土（締まりがよく、５㎜大の砂礫を少量含む。土器片が多い）　墳丘盛土上層
22 暗褐灰色シルト質土
23 暗褐灰色シルト質土（砂礫を多く含む）
24 暗黄灰色粘土層
25 黒灰色粘土層　地山
26 暗黄灰色粘土層
27 暗灰色砂質土（ほとんどが砂で構成される）

99・100に示した庄内形甕の口縁とみられる細片があり、纒向石塚古墳の築造が庄内形甕出現期である庄内１式期以降に降ることを示すものとして注目すべき資料と言えよう。この他、墳丘盛土下層資料には他地域からの搬入品とみられるものがあり、25などは胎土・形式ともに纒向では見られないもので、北部九州系の複合口縁壺の頸部の可能性があると考えているし、173・221などは搬入元が不明ながら胎土・器形ともに在地のものとは異なるものである。この他、147・148には近江系の甕の口縁があり、174の鉢は器形・胎土などから見て近江の湖東地域からの搬入品と思われる。

図113－222～図118－397が第１トレンチ、図118－398～図119－423が第２トレンチ、図119－424～431は第４トレンチの墳丘盛土上層からの出土土器である。この中には266に示したような在地の弥生形甕とみられるものの中に内面にケズリ調整を施すものがある。墳丘盛土出土土器の中でケズリ調整を持つものはこの１点のみだが、庄内形甕出現後の新しい様相と考えている。この他、墳丘盛土上層資料で他地域からの搬入品とみられるものには搬入元は不明ながら371の高坏や讃岐系の甕とみられる322、吉備系の甕である323などがある。

落ち込み遺構（SX-1001）出土土器　この遺構からの出土土器は図119－432～436に示した土師皿や焙烙・羽釜などある。いずれもが14世紀代の遺物と考えている。

周濠内出土土器　周濠調査の項でも述べたように調査によって掘り下げを行った濠の埋土は断面記録の作成時点で最上層・上層と２つに大別をしているが、周濠埋土掘削の時点ではこの両者からの遺物を分けて取り上げることができなかった。このため図120－437～447の遺物は最上層～上層出土という形でしか図示することができなかった。ここからの出土遺物には概ね９～10世紀代の遺物が数多く含まれており、既にこれまでの調査で確認されている周濠の埋没時期を追認することとなった。

第３節　小結ー第８次調査の成果ー

第８次調査では後円部を中心としたトレンチ調査により、墳丘構造に関する詳細な情報を得ることができた。残念ながら後円部墳丘は太平洋戦争時に大きく削平を受け、埋葬施設はおろか墳丘の大半が失われていたが、後円部西端では段築の名残とみられる平坦面を検出するとともに、墳丘の断ち割り調査によって盛土の詳細な情報が判明するとともに、多量の土器資料が出土している。

また、前方部に設定したトレンチの調査からは初めて国土座標に基づいた前方部南肩部の位置を特定するとともに、国土座標の設置されていなかった３－１トレンチの位置を改めて確認し、墳形復元を行う上で重要な手掛かりを得ることができた。

これらの調査成果の詳細は既に述べてきたのでここではまとめに替えて今回確認された墳丘の情報をもとに削平以前の纒向石塚古墳の様子を復元しておくこととしたい。

先述したように第８次調査によって確認された墳丘盛土の厚さは約４ｍで、西南に隣接する１－１トレンチの調査で確認された墳丘基底部からは約5.4ｍの墳丘高が残されていることとなるが、それでも他の纒向遺跡内の前方後円墳と比較すると纒向石塚古墳の墳丘はかなり低い状況にある。

墳丘削平以前の纒向石塚古墳の様子を知る手掛かりは明治26年に野淵龍潜によって纏められた『大

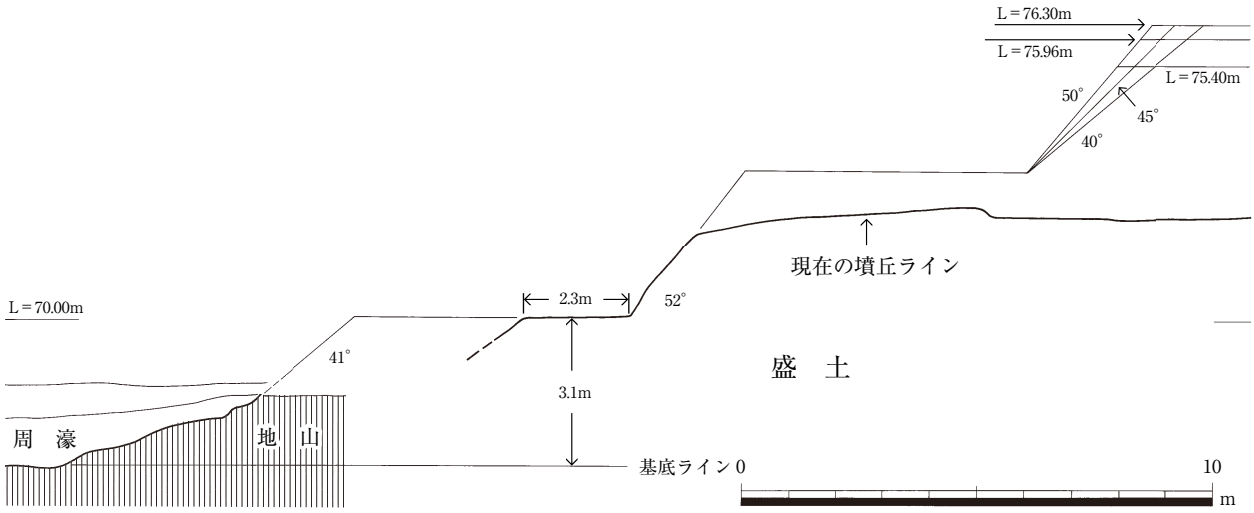


図108　纒向石塚古墳後円部西端での墳丘復元案（1／160）
（第8次調査第1トレンチと第1次調査第1トレンチとの合成図）

表51 『大和國古墳墓取調書』にみる墳丘高計測の精度

	野淵による計測値	現在の墳丘高	誤　差
纒向石塚古墳	3間半　(6.30m)	3.30m	＋3m
矢塚古墳	3間半　(6.30m)	6.5m	−0.2m
勝山古墳	4間　(7.2m)	6.9m	＋0.3m
東田大塚古墳	4間5尺　(8.7m)	7.53m	＋1.17m
ホケノ山古墳	5間5尺　(10.5m)	7.98m	＋2.5m
茅原大墓古墳	4間5尺　(8.7m)	10m	−1.3m
柳本大塚古墳	3間半　(6.30m)	6.5m	−0.2m
石名塚古墳	7間　(12.6m)	10.1m	＋2.5m

※墳丘高については『大和國古墳墓取調書』は当時の水田面との比高差を記載している。今回比較一覧を作成するにあたっては当時計測されたと考えられる地点での現在の水田面との比高差を測量図より計測した。

和國古墳墓取調書』が唯一の資料であるが、この『大和國古墳墓取調書』所収の纒向石塚古墳の絵図や記録によると後円部と周辺の水田面との比高は3間半（約6.3m）で後円部に畑として利用されている段築状の3段差が確認できる。そこで、第1次調査の周濠部分と第8次調査での調査成果と『大和國古墳墓取調書』の記録をもとに墳丘の復元を行ったのが図108である[3)]。

墳丘高の復元を行うにあたり、唯一の手掛かりである『大和國古墳墓取調書』の記録については測量図上で明治26年当時に計測されたと考えられる周囲の水田の位置を推定し、現在の墳丘との比高差を再度計測することでその精度の確認を行った。その結果は表51に示したとおりで、大字東田地内所

在の古墳では纒向石塚古墳を除くとほぼ１ｍ内外の誤差でおさまるものであり、数値については概ね実際に近い数値を示していると思われる一方、その他のホケノ山や石名塚古墳などでは2.5ｍもの誤差が認められるものもある。これは『大和國古墳墓取調書』の作成に際しては古墳所在地ごとにそれぞれ地元の協力を得ながら調書の作成が進められたとのことで、自治会の単位毎に測量の精度に違いがあったのではないかと考えている。

さて、墳頂部の高さについては『大和國古墳墓取調書』の高さの記録が後円部北側の水田面よりの高さを基準としているため、後円部北側に残る３筆の水田のうち最も標高の高い水田から割り出した高さである標高76.96ｍと、最も低い水田から割り出した標高75.40ｍの２案とともに、第１次調査において検出された墳丘基底部から第８次調査で検出された段築の第１段目とみられる平坦面までの高さである3.1ｍの高さを、墳丘が３段築成であったと仮定して均等に割り付けた標高76.30ｍの３案の高さを提示している。

墳丘の傾斜角度は調査によって確認された纒向石塚古墳の墳丘第１段目の傾斜角度41°と第２段目の傾斜角度である52°、そして同じ纒向遺跡内の出現期前方後円墳であるホケノ山古墳の墳丘の傾斜角度などを参考に40°～50°までの３つの墳丘傾斜角度を図上に表現したが、墳丘高については最大でも90㎝の誤差の中でおさまるものであり、削平前の墳丘高は基底部より最大で約9.3ｍはあったものと考えている。

なお、１－１・８－１トレンチの位置関係から割り出した段築テラス面の幅については最大で約６ｍの規模に復元を行った。非常に幅の広いテラス面であり、後世の改変の影響も考えなければならないが、第２節の後円部の調査の項でも述べたとおりホケノ山古墳の調査成果では最大で約5.5ｍ程度の規模に復元できる広いテラスを持つ可能性が考えられることから、纒向石塚古墳もこれに近いテラス面を持つ可能性は高いと考えており、敢えて一案を提示することとした。正確な規模や構造については今後の調査を待つこととしたい。（橋本）

【註記】

１）野淵龍潜『大和國古墳墓取調書』奈良県1893

２）ホケノ山古墳の第１段目テラス面の幅は後世の撹乱により正確な規模は確認されておらず、報告では３～５ｍと推定されているが、ここでは報告書に提示された図面や未報告の第１～３次調査成果を合わせて再検討し、第１段目テラス面の幅を最大で約5.5ｍと推定した。
岡林孝作・水野敏典編『ホケノ山古墳の研究』奈良県立橿原考古学研究所2008

３）纒向石塚古墳の墳丘復元については以下の文献にて私案を提示したことがあるが、１－１・８－１トレンチの位置関係に誤りがあったため、今回の報告を持って最新の復元案とする。
橋本輝彦「纒向古墳群の調査成果と出土土器」『東田大塚古墳』（財）桜井市文化財協会2006

表52　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（１）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
109—1 130—1	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(13.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						2.5Y6/2灰黄	・外面にスス付着
109—2 130—2	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘下湿地	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(16.1)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						7.5YR6/4にぶい橙	・外面にスス付着
109—3 130—3	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(18.3)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						2.5Y5/2暗灰黄	・外面にスス付着
109—4 130—4	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(19.1)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10YR6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
109—5 130—5	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	底部 （壺）	2—C—a	B：(3.4)					O．押捺A→右上がりタタキ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	50/CM 8/cm	2.5Y6/1黄灰	
109—6 130—6	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	鉢	近江形鉢	W：(17.2)			O．マメツ不明→突帯文 ｉ．スリナデナナメＩＡａ→ 押捺A	7/cm			O．7.5YR6/4にぶい橙～ 7.5Y2/1黒 ｉ．5Y5/8明赤褐	・近江系
109—7 130—7	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	高坏	B—・—・—・	C：(23.4)	O．ミガキAタテ ｉ．ミガキAタテ						5YR5/4にぶい赤褐	
109—8 130—8	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘下湿地 暗灰色粘土層	脚台 （高坏）	1—・—・	B：(10.6)					O．スリナデナナメＩＡａ→ ミガキAタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	8/cm	2.5Y4/1黄灰	
109—9 130—9	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘下湿地 落ち込み内	脚台 （高坏）	1—・—・	B：(12.8)					O．ミガキAタテ （端）スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデタテＩＡａ （端）スリナデヨコＩＣａ	8/cm	10YR7/2にぶい黄橙	
109—10 129—10	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	壺	C—C_1—a	C：6.3	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキAタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10YR7/3にぶい黄橙 ｉ．7.5YR7/3にぶい橙	
109—11 130—11	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	壺	H—B—b	C：(9.3)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．（口唇）スリナデヨコＩＣａ （口頸）スリナデヨコＩＡｂ						2.5Y5/1黄灰	

表53　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（２）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
109—12 130—12	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—b	C：(10.4)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
109—13 130—13	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—b	C：(11.6)	O．ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡ						O．10ＹＲ6/3にぶい黄 ｉ．2.5ＹＲ5/1黄灰	
109—14 130—14	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—b	C：(13.3)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
109—15 130—15	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—e	C：(15.7)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)押捺Ａ→ スリナデタテＩＡａ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	9/cm 6/cm					O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ5/2灰黄褐	
109—16 130—16	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—b	C：(15.4)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
109—17 130—17	第１トレンチ ４—５杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—C—b	C：(15.2)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		O．右上がりタタキ ｉ．押捺Ａ	40/CM			O．10ＹＲ5/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ5/2灰黄褐～ 2.5Ｙ7/3浅黄	
109—18 130—18	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—b	C：(16.0)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ ｉ．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)ミガキＡヨコ						O．10ＹＲ6/2灰黄褐 ｉ．2.5Ｙ6/2灰黄	
109—19 130—19	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—B—a	C：(17.7)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		O．スリナデヨコＩＡａ ｉ．押捺Ａ→スリナデＩＣａ	10/cm			10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
109—20 130—20	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—・—b	C：(18.4)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口縁)ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡタテ						7.5ＹＲ6/3にぶい褐	
109—21 130—21	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	壷	H—C—e	C：(17.2)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ →凹線文→円形浮文 (口縁)ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．7.5ＹＲ4/1褐灰～ 7.5ＹＲ6/1褐灰	
109—22 130—22	第１トレンチ ４—５杭間 墳丘盛土内下層	壷	C—B_2—a	C：(16.8)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						7.5ＹＲ6/6橙	

表54　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（３）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
109—23 130—23	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	壷	Ｔｃ—Ｄ—ｂ	Ｃ：(15.3)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ スリナデタテＩＡａ ｉ．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)スリナデヨコＩＡｂ	8/cm					Ｏ．2.5Ｙ 5/1 黄灰 ｉ．2.5Ｙ 5/2 暗灰黄	
109—24 130—24	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	壷	Ｔ—Ｃ—ａ	Ｃ：(15.2)	Ｏ．(口縁)スリナデヨコＩＣａ (頸)押捺Ａ→ スリナデナナメＩＡａ ｉ．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)押捺Ａ→ スリナデヨコＩＡａ	8/cm 5/cm					Ｏ．2.5Ｙ 5/2 暗灰黄 ｉ．10ＹＲ 6/2 灰黄褐	・外面にスス付着
109—25 130—25	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	壷		—	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						Ｏ．7.5ＹＲ 7/4 にぶい橙 ｉ．2.5Ｙ 7/2 灰黄	・北部九州系？
109—26 130—26	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	壷	Ｈ—・—ｂ	—	Ｏ．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)ミガキＡヨコ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						Ｏ．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙	
109—27 130—27	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	壷	Ｈ—・—ｂ	—	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	・外面にスス付着
109—28 130—28	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	壷	Ｈ—・—ｂ	—	Ｏ．(口唇)押捺Ａ→ スリナデヨコＩＣａ (口縁)スリナデヨコＩＡｂ ｉ．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口縁)ミガキＡヨコ						10ＹＲ 6/2 灰黄褐	
109—29 130—29	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	壷	Ｍ—Ａ—ａ	—	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．スリナデナナメＩＡａ ｉ．押捺Ａ→スリナデヨコＩＣａ	6/cm			10ＹＲ 5/2 灰黄褐	・外面にベンガラ塗布
109—30 130—30	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	３—Ａ—ｃ	Ｂ：(2.2)					Ｏ．押捺Ａ→ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＡｂ		Ｏ．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙	
109—31 130—31	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ｃ—ａ	Ｂ：4.4					Ｏ．押捺Ａ ｉ．スリナデＩＡｂ		2.5Ｙ 5/2 暗灰黄～ 2.5Ｙ 2/1 黒	
109—32 130—32	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—・	Ｂ：3.8					Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡタテ		Ｏ．10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙 ｉ．7.5ＹＲ 7/3 にぶい橙	
109—33 130—33	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：3.7					Ｏ．押捺Ａ→ミガキＡタテ ｉ．ケズリＢ		Ｏ．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/2 灰黄褐～ 10ＹＲ 5/1 褐灰	

表55　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（４）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
109—34 130—34	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘下包含層	底部 （壷）	３—Ｃ—ｂ	Ｂ：2.9			Ｏ．タタキ→ミガキＡヨコ ｉ．押捺Ａ→スリナデＩＡｂ　40/CM	Ｏ．7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．7.5ＹＲ7/4にぶい橙	
109—35 130—35	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：（6.2）			Ｏ．押捺Ａ ｉ．押捺Ａ	2.5Ｙ5/2暗灰黄	
109—36 130—36	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：2.9			Ｏ．押捺Ａ ｉ．スリナデＩＡｂ	10ＹＲ5/2灰黄褐	
109—37 130—37	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ｃ—ｃ	Ｂ：5.6			Ｏ．押捺Ａ→タタキ ｉ．ミガキＡヨコ　40/CM	Ｏ．10ＹＲ6/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
109—38 130—38	第１トレンチ墳丘 盛土内下層	底部 （壷）	１—Ｃ—ｃ	Ｂ：5.4			Ｏ．押捺Ａ ｉ．マメツ不明	Ｏ．5ＹＲ5/6明赤褐 ｉ．10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
109—39 130—39	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：（2.8）			Ｏ．押捺Ａ ｉ．スリナデＩＣａ	10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
109—40 130—40	第１トレンチ ４—５杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：（4.7）			Ｏ．押捺Ａ→右上がりタタキ→ミガキＡタテ　40/CM ｉ．ケズリＢ	Ｏ．2.5Ｙ5/2暗灰黄 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
110—41 130—41	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ｂ	Ｂ：2.5		Ｏ．押捺Ａ ｉ．押捺Ａ	Ｏ．押捺Ａ ｉ．ケズリＢ	10ＹＲ5/2灰黄褐	
110—42 130—42	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	３—Ｃ—ｃ	Ｂ：（3.6）			Ｏ．押捺Ａ→スリナデナナメＩＡａ　10/cm ｉ．スリナデナナメＩＡａ　10/cm	2.5Ｙ6/2灰黄	
110—43 130—43	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	１—Ｃ—・	Ｂ：4.9			Ｏ．押捺Ａ ｉ．押捺Ａ	10ＹＲ6/2灰黄褐	
110—44 130—44	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：（5.1）			Ｏ．押捺Ａ ｉ．押捺Ａ	Ｏ．5ＹＲ6/6橙～7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．7.5ＹＲ6/4にぶい橙	

表56　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（５）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
110—45 130—45	第１トレンチ５—６杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：4.4			Ｏ．押捺Ａ ｉ．スリナデＩＡｂ	Ｏ．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐	
110—46 130—46	第１トレンチ５—６杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ｂ	Ｂ：4.2			Ｏ．押捺Ａ ｉ．ケズリＢ	2.5ＹＲ 6/2 灰黄～ 2.5Ｙ 4/1 黄灰	
110—47 130—47	第１トレンチ３—４杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	３—Ｃ—ａ	Ｂ：（3.6）			Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	Ｏ．2.5Ｙ 3/1 黒褐 ｉ．2.5Ｙ 4.1 黄灰	
110—48 130—48	第１トレンチ４—５杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	３—Ｃ—ｂ	Ｂ：（3.9）			Ｏ．スリナデＩＡｂ ｉ．スリナデタテＩＡｂ	Ｏ．2.5Ｙ 6/2 灰黄 ｉ．2.5Ｙ 6/3 にぶい黄	
110—49 130—49	第１トレンチ８—９杭間 墳丘盛土内下層	底部 （壷）	２—Ａ—ａ	Ｂ：3.9			Ｏ．スリナデタテＩＡｂ ｉ．ケズリＢ	Ｏ．2.5Ｙ 5/2 暗灰黄～ 2.5Ｙ 4/1 黄灰 ｉ．2.5Ｙ 4/1 黄灰	・外面にスス付着
110—50 131—50	第１トレンチ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Ｙ	Ⅲ—Ｂ—・ａ	Ｃ：（8.6）	Ｏ．マメツ不明 ｉ．押捺Ａ→スリナデヨコＩＣａ	Ｏ．マメツ不明 ｉ．押捺Ａ		10ＹＲ 3/1 黒褐	
110—51 131—51	第１トレンチ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Ｙ	Ⅲ—Ｂ—・ａ	Ｃ：（9.4）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＡｂ		10ＹＲ 4/1 褐灰	・外面にスス付着
110—52 131—52	第１トレンチ３—４杭間 墳丘盛土内下層	甕 Ｙ	Ⅲ—Ｂ—・ａ	Ｃ：（10.6）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．ケズリＡ		10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐	・外面にスス付着
110—53 131—53	第１トレンチ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Ｙ	Ⅱ—Ｂ—・ａ	Ｃ：（12.8）	Ｏ．押捺Ａ→マメツ不明 ｉ．押捺Ａ→マメツ不明			10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
110—54 131—54	第１トレンチ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Ｙ	Ⅱ—Ｂ—・ａ	Ｃ：（12.9）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明			Ｏ．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙 ｉ．10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
110—55 131—55	第１トレンチ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Ｙ	Ⅱ—Ｂ—・ａ	Ｃ：（13.4）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明			Ｏ．10ＹＲ 3/2 黒褐 ｉ．10ＹＲ 4/2 灰黄褐	・外面にスス付着

表57　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（６）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
110—56 131—56	第１トレンチ墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(13.2)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ 4/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐	・外面にスス付着 ・外面頸部にヘラ状工具痕有
110—57 131—57	第１トレンチ８—10杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(13.3)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ 4/1 褐灰 ｉ．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	・外面にスス付着
110—58 131—58	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(13.6)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ 4/1 褐灰 ｉ．10ＹＲ 5/2 灰黄褐	
110—59 131—59	第１トレンチ８—10杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(13.9)	O．タタキ→スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	30/CM					O．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 6/2 灰黄褐	
110—60 131—60	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(14.0)	O．右上がりタタキ ｉ．マメツ不明	20/CM					O．10ＹＲ 4/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/2 灰黄褐	・外面にスス付着
110—61 131—61	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(14.0)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
110—62 131—62	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(14.6)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
110—63 131—63	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(14.4)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		O．タタキ ｉ．押捺Ａ	50/CM			7.5ＹＲ 7/6 橙	
110—64 131—64	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.5)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		O．タタキ ｉ．スリナデＩＣａ	30/CM			O．10ＹＲ 5/4 にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ 6/2 灰黄褐	
110—65 131—65	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.8)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		O．右上がりタタキ ｉ．押捺Ａ→スリナデヨコＩＣａ	30/CM			10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
110—66 131—66	第１トレンチ２—３杭間墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.0)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		O．スリナデＩＣａ ｉ．押捺Ａ→スリナデＩＣａ				10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	

表58　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（７）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
110—67 131—67	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(16.0)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
110—68 131—68	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.6)	O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＢ	多/cm					7.5ＹＲ5/4にぶい褐	・外面にスス付着
110—69 131—69	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(16.1)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ		O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＡａ	8/cm			O．2.5Ｙ5/1黄灰 i．2.5Ｙ4/1黄灰	
110—70 131—70	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(16.7)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ5/2灰黄褐 i．10ＹＲ6/2灰黄褐～ 10ＹＲ4/1褐灰	・外面にスス付着
110—71 131—71	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(16.5)	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．マメツ不明 i．ケズリＡ				O．7.5ＹＲ5/4にぶい褐 i．10ＹＲ6/2灰黄褐	・外面にスス付着
110—72 131—72	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(17.0)	O．スリナデヨコＩＣａ i．マメツ不明						O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 i．10ＹＲ7/3にぶい黄橙	
110—73 131—73	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(17.2)	O．スリナデヨコＩＡａ i．スリナデヨコＩＣａ	5/cm					10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
110—74 131—74	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(17.0)	O．(口縁)スリナデヨコＩＣａ (口頸)タタキ i．スリナデヨコＩＣａ	30/CM					10ＹＲ5/2灰黄褐	
110—75 131—75	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(18.2)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＡａ	8/cm					10ＹＲ4/1褐灰	・外面にスス付着
110—76 131—76	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(19.2)	O．押捺A→マメツ不明 i．マメツ不明						7.5ＹＲ7/6橙	
110—77 131—77	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(19.0)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ6/2灰黄	・外面にスス付着

表59　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（８）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
111―78 131―78	第１トレンチ ７―８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅲ―B―・b	C：(10.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．2.5Ｙ 3/2 黒褐～ 2.5Ｙ 6/2 灰黄 ｉ．2.5Ｙ 6/2 灰黄	
111―79 131―79	第１トレンチ ８―９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅲ―B―・b	C：(10.9)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			2.5Ｙ 5/2 暗灰黄	・外面にスス付着
111―80 131―80	第１トレンチ ２―３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(11.4)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明			7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙	
111―81 131―81	第１トレンチ ２―３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(12.0)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明	O．タタキ ｉ．押捺Ａ　40/CM		10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙	
111―82 131―82	第１トレンチ２― ３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(12.7)	O．マメツ不明 ｉ．スリナデヨコＩＣａ			7.5ＹＲ 8/4 浅黄橙	
111―83 131―83	第１トレンチ ８―９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(13.3)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．10ＹＲ 4/1 褐灰 ｉ．2.5Ｙ 5/1 黄灰	・外面にスス付着
111―84 131―84	第１トレンチ ３―５杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(13.5)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ 4/2 灰黄褐	・外面にスス付着
111―85 131―85	第１トレンチ ２―３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(14.2)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明			O．10ＹＲ 3/1 黒褐 ｉ．10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
111―86 131―86	第１トレンチ 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅱ―B―・b	C：(14.0)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	O．右上がりタタキ ｉ．スリナデヨコＩＡｂ　40/CM		5ＹＲ 6/6 橙	・外面にスス付着
111―87 131―87	第１トレンチ ７―９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ―B―・b	C：(15.1)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			2.5Ｙ 6/1 黄灰	・外面にスス付着
111―88 131―88	第１トレンチ ８―９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ―B―・b	C：(14.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			2.5Ｙ 4/1 黄灰	・外面にスス付着

表60　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（９）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
111—89 131—89	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(16.0)	O．マメツ不明 i．マメツ不明			10ＹＲ7/4にぶい黄橙	
111—90 131—90	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(17.1)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			2.5Ｙ5/1黄灰	
111—91 131—91	第１トレンチ２— ３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(17.1)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
111—92 131—92	第１トレンチ２— ３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(17.6)	O．マメツ不明 i．マメツ不明			O．10ＹＲ6/2灰黄褐～ 10ＹＲ5/1褐灰 i．10ＹＲ5/2灰黄褐	
111—93 131—93	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(17.5)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			O．10ＹＲ5/1褐灰 i．(口唇)10ＹＲ5/1褐灰 (口頸)10ＹＲ6/1褐灰	・外面にスス付着
111—94 131—94	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	甕	Ⅰ—B—・b	C：(18.7)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			O．10ＹＲ7/2にぶい黄橙 ～10ＹＲ7/1灰白 i．10ＹＲ7/2にぶい黄橙	
111—95 131—95	第１トレンチ３— ５杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(19.2)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
111—96 131—96	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(19.7)	O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			2.5Ｙ4/1黄灰	
111—97 131—97	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(19.8)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
111—98 131—98	第１トレンチ２— ３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(20.3)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
111—99 131—99	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 S	Ⅱ—C—・d	C：(13.3)	O．マメツ不明 i．マメツ不明			O．2.5Ｙ2/1黒 i．2.5Ｙ7/2灰黄	

表61　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（10）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
111—100 131—100	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 S	Ⅱ—C—・d	C：(13.2)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．10ＹＲ3/2黒褐 i．10ＹＲ5/3にぶい黄褐	・外面に黒斑
111—101 131—101	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口縁)スリナデナナメＩＡａ	6/cm					O．10ＹＲ5/2灰黄褐 i．10ＹＲ6/2灰黄褐	・外面にスス付着
111—102 131—102	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)押捺Ａ i．スリナデヨコＩＡｂ						2.5Ｙ6/2灰黄	
111—103 131—103	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ		O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＢ	多/cm			10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
111—104 131—104	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ5/2灰黄褐 i．10ＹＲ6/2灰黄褐	・外面にスス付着
111—105 131—105	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ6/2灰黄褐～ N 1.5/0黒 i．10ＹＲ6/2灰黄褐	
111—106 131—106	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＢ	多/cm					7.5ＹＲ6/2灰褐	・外面にスス付着
111—107 131—107	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						O．５ＹＲ7/4にぶい橙 i．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
111—108 131—108	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
111—109 131—109	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ6/2灰黄～ 2.5Ｙ2/1黒	
111—110 131—110	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ6/2灰黄	

表62　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（11）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部	体部	底部（脚部）	色調	備考
111—111 132—111	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
111—112 132—112	第1トレンチ 4—5杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
111—113 132—113	第1トレンチ 4—5杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
111—114 132—114	第1トレンチ 7—9杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．2.5Ｙ4/1黄灰 ｉ．2.5Ｙ5/1黄灰	
111—115 132—115	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
111—116 132—116	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
111—117 132—117	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．（口唇）スリナデヨコＩＣａ （口頸）押捺Ａ→ スリナデヨコＩＣａ			7.5ＹＲ7/4にぶい橙	
111—118 132—118	第1トレンチ 4—5杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ4/1褐灰	
111—119 132—119	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
111—120 132—120	第1トレンチ 2—3杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．2.5Ｙ4/1黄灰 ｉ．2.5Ｙ5/1黄灰	
111—121 132—121	第1トレンチ 7—9杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			O．10ＹＲ4/1褐灰 ｉ．10ＹＲ5/3にぶい黄褐	・外面にスス付着

表63　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（12）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
111—122 132—122	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
111—123 132—123	第１トレンチ ８—10 杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 5/1 褐灰	・外面にスス付着
111—124 132—124	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ a	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 5/2 灰黄褐～ 10ＹＲ 4/2 灰黄褐	・外面にスス付着
111—125 132—125	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
111—126 132—126	第１トレンチ ８—10 杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 5/2 灰黄褐	
111—127 132—127	第１トレンチ ８—10 杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/3 にぶい褐	・外面にスス付着
111—128 132—128	第１トレンチ ８—10 杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．（口唇）スリナデヨコＩＢ （口縁）スリナデヨコＩＣａ	多／cm					O．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 6/2 灰黄褐	・外面にスス付着
111—129 132—129	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 4/1 褐灰	
111—130 132—130	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ ｉ．押捺A→スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
112—131 132—131	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 3/1 黒褐	・外面にスス付着
112—132 132—132	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ b	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	

表64　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（13）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
112—133 132—133	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
112—134 132—134	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						(口縁)5ＹＲ6/4にぶい (頸)2.5Ｙ5/2暗灰黄	
112—135 132—135	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)スリナデナナメＩＡａ	6/cm					O．10ＹＲ5/2灰黄褐～ 2.5Ｙ3/1黒褐 i．10ＹＲ5/2灰黄褐	・外面にスス付着
112—136 132—136	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ		O．タタキ i．スリナデヨコＩＣａ	30/CM			2.5Ｙ4/1黄灰～ 2.5Ｙ2/1黒	
112—137 132—137	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ6/2灰黄	・外面にスス付着
112—138 132—138	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ5/1黄灰	・外面にスス付着
112—139 132—139	第１トレンチ ５—６間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ4/1褐灰 i．10ＹＲ5/2灰黄褐	
112—140 132—140	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ5/2暗灰黄	・外面にスス付着
112—141 132—141	第１トレンチ 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ		O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＡｂ				O．7.5ＹＲ5/4にぶい褐 i．7.5ＹＲ5/3にぶい褐～ 5ＹＲ6/6橙	
112—142 132—142	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．(口縁)スリナデヨコＩＣａ (頸)タタキ i．スリナデヨコＩＣａ	40/CM					O．10ＹＲ5/2灰黄褐 i．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
112—143 132—143	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・b	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ						7.5ＹＲ6/4にぶい橙	

表65　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（14）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
112—144 132—144	第１トレンチ 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ｂ	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．押捺A→スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
112—145 132—145	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ｂ	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．（口唇）スリナデヨコＩＣａ （口縁）スリナデヨコＩＡｂ						10ＹＲ4/1褐灰	
112—146 132—146	第１トレンチ ５—６間 墳丘盛土内下層	甕 Y	・—・—・ｂ	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		O．左上がりタタキ ｉ．押捺A	40/CM			10ＹＲ7/3にぶい黄橙	
112—147 132—147	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	甕	近江形 受口状口縁甕	—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ7/1灰白	・近江系
112—148 132—148	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	甕	近江形 受口状口縁甕	—	O．スリナデヨコＩＣａ→ 列点文 ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ5/2灰黄褐	・近江系
112—149 132—149	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	2—C—・	B：4.1					O．押捺A→右上がりタタキ ｉ．スリナデＩＣａ	40/CM	O．2.5Ｙ6/1黄灰～ 2.5Ｙ6/2灰黄 ｉ．2.5Ｙ4/1黄灰	・外面にスス付着
112—150 132—150	第１トレンチ墳丘 盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	2—A—a	B：（4.8）					O．右上がりタタキ ｉ．スリナデＩＡｂ	30/CM	O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐～ 7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．10ＹＲ4/2灰黄褐～ 2.5Ｙ2/1黒	・外面にスス付着
112—151 132—151	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	1—C—・	B：4.2					O．右上がりタタキ ｉ．マメツ不明	60/CM	7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
112—152 132—152	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	2—A—a	B：3.8			O．右上がりタタキ→ スリナデＩＣａ ｉ．スリナデＩＡａ	30/CM 4/cm	O．右上がりタタキ ｉ．ケズリＢ	30/CM	O．10ＹＲ5/2灰黄褐 ｉ．2.5Ｙ5/2暗灰黄	
112—153 132—153	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	3—A—a	B：4.1					O．押捺A→タタキ ｉ．押捺A	30/CM	O．10ＹＲ6/2灰黄褐 ｉ．2.5Ｙ6/2灰黄	
112—154 132—154	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	2—A—c	B：（4.0）					O．押捺A→タタキ ｉ．ケズリＢ	30/CM	O．10ＹＲ5/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	

表66　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（15）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
112—155 132—155	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—C—a	B：(4.2)					O．押捺A→タタキ i．押捺A→ケズリB	40/CM	O．10YR 5/2灰黄褐 i．N 3/0暗灰	
112—156 132—156	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—C—b	B：4.0					O．押捺A→右上がりタタキ i．スリナデIAb	40/CM	O．10YR 6/4にぶい黄橙 i．10YR 4/2灰黄褐	
112—157 132—157	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	1—A—c	B：4.1					O．押捺A→右上がりタタキ i．押捺A→スリナデIAb	50/CM	O．2.5Y 5/2暗灰黄～ 2.5Y 4/1黄灰 i．2.5Y 4/1黄灰	
112—158 132—158	第1トレンチ1— 3杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—A—a	B：3.6					O．押捺A→右上がりタタキ i．マメツ不明	40/CM	O．10YR 4/1褐灰～ 10YR 6/3にぶい黄橙 i．10YR 6/3にぶい黄橙	
112—159 132—159	第1トレンチ3— 5杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—B—・	B：3.8					O．押捺A→タタキ i．ケズリB	60/CM	O．10YR 5/3にぶい黄褐 i．10YR 5/2灰黄褐	・外面にスス付着
112—160 132—160	第1トレンチ 8—10杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—C—・	B：4.0					O．タタキ i．ケズリB	40/CM	O．10YR 5/2灰黄褐 i．10YR 6/2灰黄褐	
112—161 129—161	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—A—・	B：3.8					O．右上がりタタキ i．ケズリB	40/CM	O．10YR 4/1褐灰～ 7.5YR 5/3にぶい褐 i．10YR 4/1褐灰	
112—162 130—162	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—A—b	B：(4.8)					O．押捺A→タタキ i．ケズリB	40/CM	O．10YR 6/3にぶい黄橙 ～7.5YR 5/6明褐 i．10YR 4/1褐灰	
112—163 132—163	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—A—a	B：(5.0)					O．押捺A→右上がりタタキ i．押捺A→ケズリB	40/CM	O．10YR 4/1褐灰 i．10YR 6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
112—164 132—164	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	3—C—a	B：(4.1)					O．押捺A→右上がりタタキ i．押捺A→スリナデIAb	30/CM	O．2.5Y 3/1黒褐 i．2.5Y 4/1黄灰	・外面にスス付着
112—165 132—165	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Y）	2—B—a	B：(3.6)					O．押捺A→ スリナデナナメIAa i．押捺A→ケズリB	4/cm	O．2.5Y 5/1黄灰～ 2.5Y 4/1黄灰 i．2.5Y 4/1黄灰	

表67　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（16）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
112—166 132—166	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	３—Ｃ—ａ	Ｂ：（4.7）					Ｏ．タタキ ｉ．押捺Ａ	40/CM	Ｏ．7.5ＹＲ 6/3 にぶい褐 ｉ．10ＹＲ 6/2 灰黄褐	
112—167 132—167	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	２—Ａ—・	Ｂ：5.1					Ｏ．右上がりタタキ ｉ．ケズリＢ	30/CM	10ＹＲ 5/2 灰黄褐～ 10ＹＲ 3/1 黒褐	・外面にスス付着
112—168 132—168	第１トレンチ ８—10 杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	２—Ａ—ｃ	Ｂ：3.9					Ｏ．押捺Ａ→タタキ ｉ．ケズリＢ	20/CM	2.5Ｙ 4/1 黄灰	・外面にスス付着
112—169 132—169	第１トレンチ２— ３杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	２—Ａ—・	Ｂ：4.1					Ｏ．右上がりタタキ ｉ．ケズリＢ	30/CM	Ｏ．7.5ＹＲ 5/4 にぶい褐 ｉ．10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	・二次焼成痕有
112—170 132—170	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	２—Ｃ—ａ	Ｂ：（4.2）					Ｏ．押捺Ａ ｉ．ケズリＢ		Ｏ．10ＹＲ 4/1 褐灰～ 10ＹＲ 5/2 灰黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐	
112—171 132—171	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内下層	底部 （甕Ｙ）	３—Ｃ—ａ	Ｂ：（4.2）					Ｏ．右上がりタタキ ｉ．スリナデＩＡｂ	30/CM	Ｏ．7.5ＹＲ 5/4 にぶい褐 ｉ．2.5Ｙ 5/2 暗灰黄	
112—172 133—172	第１トレンチ ３—５杭間 墳丘盛土内下層	鉢	Ⅰ—Ｅ$_1$—ｂ	Ｃ：（25.2）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 5/2 灰黄褐	
112—173 133—173	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	鉢	Ⅰ—Ｅ$_2$—ｂ	Ｃ：（25.5）	Ｏ．（口唇）板状工具による刺突 （口頸）スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．スリナデヨコＩＢ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	多/cm			7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙	
112—174 133—174	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	鉢	近江形鉢	Ｃ：（16.6）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ 沈線文→列点文 ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．スリナデナナメＩＡａ→ 沈線文→列点文 ｉ．押捺Ａ→スリナデＩＣａ	６/cm			10ＹＲ 8/2 灰白	・近江系
112—175 129—175	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	鉢	Ⅲ—Ｅ$_1$—ａ	Ｃ：（9.1） Ｈ：7.3 Ｗ：7.7 Ｂ：3.1	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．スリナデＩＣａ ｉ．押捺Ａ→スリナデＩＣａ		Ｏ．スリナデＩＣａ ｉ．スリナデタテＩＣａ		10ＹＲ 4/1 褐灰	
112—176 133—176	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	鉢	Ⅲ—Ｅ$_1$—ａ	Ｃ：（8.8）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．右上がりタタキ ｉ．押捺Ａ	40/CM			7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙	

表68　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（17）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
112—177 133—177	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内下層	鉢	・—・—a	—	O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ						O．10YR6/2灰黄褐 i．10YR6/3にぶい黄橙	
112—178 133—178	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内下層	底部 （鉢）	1—B—b	B：（4.6）					O．押捺A i．ケズリB		7.5YR6/4にぶい橙	
112—179 133—179	第1トレンチ 8—10杭間 墳丘盛土内下層	底部 （鉢）	2—B—a	B：（3.8）					O．押捺A i．押捺A→ケズリB		O．10YR6/3にぶい黄橙 i．7.5YR6/4にぶい橙	
112—180 133—180	第1トレンチ3— 5杭間 墳丘盛土内下層	底部 （鉢）	2—A—a	B：（4.0）					O．押捺A i．押捺A		10YR5/3にぶい黄褐～ 10YR6/3にぶい黄橙	
112—181 133—181	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内下層	底部 （鉢）	2—A—・	B：3.6					O．押捺A i．スリナデタテIAb		O．10YR6/3にぶい黄橙 i．10YR6/4にぶい黄橙	
112—182 133—182	第1トレンチ 8—10杭間 墳丘盛土内下層	有孔 底部	2—C—・	B：3.3					O．スリナデIC a i．ケズリB		10YR6/2灰黄褐	・焼成前穿孔
112—183 133—183	第1トレンチ 8—10杭間 墳丘盛土内下層	有孔 底部	2—C—・	B：3.7					O．右上がりタタキ i．ケズリB	20/CM	O．10YR5/1褐灰～ 5Y2/1黒 i．2.5Y5/1黄灰	・焼成前穿孔
112—184 133—184	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内下層	有孔 底部	3—C—a	B：（4.0）					O．スリナデIAb i．押捺A→ケズリB		O．2.5Y6/2灰黄～ 2.5Y4/1黄灰 i．2.5Y5/1黄灰	・焼成前穿孔
112—185 133—185	第1トレンチ 1—3杭間 墳丘盛土内下層	有孔 底部	2—C—・	B：4.0					O．押捺A i．押捺A		10YR6/3にぶい黄橙	・焼成前穿孔
112—186 129—186	第1トレンチ 墳丘盛土内下層	有孔 底部	2—C—・	B：3.9					O．押捺A→右上がりタタキ i．押捺A→スリナデヨコIAb	30/CM	O．10YR6/4にぶい黄橙 ～2.5Y2/1黒 i．10YR5/3にぶい黄褐	・焼成前穿孔
113—187 133—187	第1トレンチ 2—3杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B_5—・—・—・	C：（11.4）	O．ミガキAタテ i．マメツ不明						O．10YR6/4にぶい黄橙 i．2.5Y6/2灰黄	

表69　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（18）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
113—188 133—188	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B_3—・—・—・	C：(12.6)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙	
113—189 133—189	第１トレンチ墳丘 盛土下層	高坏	B_3—・—・—・	C：(16.0)	O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ		O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ				10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
113—190 133—190	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	高坏	E—・—・—・	C：(9.7)	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ i．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ		O．押捺A→ミガキＡタテ i．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ				10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
113—191 133—191	第１トレンチ ８—10 杭間 墳丘盛土内下層	高坏	E—・—・—・	C：(11.1)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ		O．ミガキＡタテ i．ミガキＡタテ				O．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙 i．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
113—192 133—192	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	C：(27.4)	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡヨコ i．ミガキＡタテ						2.5Ｙ 5/2 暗灰黄	
113—193 133—193	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	高坏	E_1—・—・—・	C：(20.0)	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ→ スリナデナナメＩＡａ	6/cm					O．10ＹＲ 5/2 灰黄褐 i．10ＹＲ 6/2 灰黄褐	
113—194 133—194	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	高坏	E—・—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．ミガキＡヨコ		O．ミガキＡタテ i．ミガキＡヨコ				O．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙～ 7.5ＹＲ 4/1 褐灰 i．7.5ＹＲ 6/3 にぶい褐	
113—195 133—195	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．スリナデヨコＩＣａ →ミガキＡタテ						10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
113—196 133—196	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡ i．マメツ不明						5ＹＲ 6/6 橙	
113—197 133—197	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ i．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ						7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙	
113—198 133—198	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ i．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ						O．2.5Ｙ 6/2 灰黄 i．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	

表70　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（19）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
113—199 133—199	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	—	O．（口唇）スリナデヨコＩＣａ （口縁）ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡタテ			O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ5/2灰黄褐	
113—200 133—200	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	高坏	B—・—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ			10ＹＲ5/2灰黄褐～ 10ＹＲ4/1褐灰	・内外面に朱塗布
113—201 133—201	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	1—・—・	B：（10.1）			O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	10ＹＲ6/2灰黄褐	
113—202 133—202	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	4—・—・	B：（10.3）			O．スリナデタテＩＡａ　8/cm （端）スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデナナメＩＡａ　8/cm	10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
113—203 133—203	第１トレンチ ４—５杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	4—A—・	B：（11.2）			O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＡａ　4/cm （端）スリナデヨコＩＣａ	10ＹＲ4/2灰黄褐 （端）10ＹＲ4/1褐灰	
113—204 133—204	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	4—・—・	B：（13.5）			O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ →ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＢ　多/cm	2.5Ｙ5/2暗灰黄	
113—205 133—205	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	4—・—・	B：（20.4）			O．スリナデヨコＩＢ→　多/cm ミガキＡタテ ｉ．マメツ不明	7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
113—206 129—206	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	1—B—c	—		O．押捺A→スリナデタテＩＡａ　8/cm ｉ．スリナデＩＣａ	O．ミガキＡタテ　8/cm ｉ．スリナデヨコＩＡａ	O．7.5ＹＲ7/4にぶい橙～ 10ＹＲ7/4にぶい黄橙 ｉ．（体）75ＹＲ7/4にぶい橙 （脚）10ＹＲ5/1褐灰	
113—207 129—207	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	1—A—a	—		O．スリナデタテＩＡａ　10/cm ｉ．スリナデＩＣａ	O．ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＡｂ	O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ～10ＹＲ5/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ4/1褐灰	
113—208 129—208	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	1—B—c	—			O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
113—209 129—209	第１トレンチ墳丘 盛土下層	脚台 （高坏）	1—B—c	B：（11.1）			O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	7.5ＹＲ6/6橙	・３方スカシ

表71　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（20）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
113—210 129—210	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	４—Ｂ—・	—			Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．マメツ不明	10ＹＲ5/3にぶい黄褐	
113—211 129—211	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	１—Ａ—ａ	—			Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．マメツ不明	10ＹＲ5/4にぶい黄褐	・４方スカシ
113—212 129—212	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	１—Ｂ—・	—		Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．スリナデＩＣａ	Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．マメツ不明	10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
113—213 129—213	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	１—Ａ—ａ	—			Ｏ．押捺Ａ→ミガキＡタテ ｉ．押捺Ａ→スリナデヨコＩＡａ　不明／cm	2.5Ｙ6/2灰黄	・３方スカシ
113—214 129—214	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	４—Ｂ—ｃ	—		Ｏ．（頸）押捺Ａ→ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡ	Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．押捺Ａ	Ｏ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．（坏）75ＹＲ6/4にぶい橙 （脚）10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・３方スカシ
113—215 129—215	第１トレンチ ７—９杭間 墳丘盛土最下層	脚台 （高坏）	２—Ｂ—ｃ	—		Ｏ．マメツ不明 ｉ．スリナデＩＣａ	Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．押捺Ａ	2.5Ｙ6/2灰黄	
113—216 133—216	第１トレンチ ８—10杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	４—・—・	—			Ｏ．（口唇）スリナデヨコＩＣａ （口縁）ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	10ＹＲ6/2灰黄褐	
113—217 133—217	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内下層	脚台 （高坏）	１—・—・	—			Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	7.5ＹＲ6/3にぶい褐～ 10ＹＲ4/2灰黄褐	
113—218 133—218	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	小形 器台	・—C_2—ｂ	Ｃ：（9.6）	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明			10ＹＲ5/4にぶい黄褐	
113—219 133—219	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内下層	小形 器台	・—C_2—ａ	Ｃ：（9.8）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．押捺Ａ→スリナデヨコＩＣａ			Ｏ．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ6/2灰黄褐	
113—220 133—220	第１トレンチ ２—３杭間 墳丘盛土内下層	小形 器台	・—C_3—ａ	Ｃ：（9.6）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ			10ＹＲ6/4にぶい黄橙	

表72　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（21）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
113—221 133—221	第1トレンチ 墳丘盛土内下層	器種不明		—	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙	
113—222 133—222	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	壷	T—A_1—a	C：(16.7)	O．ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						5ＹＲ 6/3 にぶい橙	
113—223 133—223	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内上層	壷	C—・—a	C：(12.1)	O．ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡタテ						10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙	
113—224 133—224	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	壷	C—・—a	C：(8.0)	O．スリナデタテＩＡａ→ ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	5/cm					O．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙 ｉ．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙	
113—225 133—225	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	壷	Ⓝ—A—b	C：(18.2)	O．マメツ不明→円形浮文 ｉ．ミガキＡタテ						O．7.5ＹＲ 5/4 にぶい褐 ｉ．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙～ 10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
113—226 133—226	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	壷	Ⓝ—A_2—b	C：(17.0)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口縁)ミガキＡタテ→ 波状文→竹管文 ｉ．ミガキＡタテ						2.5Ｙ 5/2 暗灰黄	・口唇部に刻み目有
114—227 133—227	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	壷	N—A_2—b	C：(11.9)	O．(口縁)スリナデヨコＩＣａ (口頸)押捺Ａ→ スリナデヨコＩＣａ ｉ．ミガキＡヨコ						10ＹＲ 4/1 褐灰	
114—228 133—228	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—B—b	C：(13.0)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
114—229 133—229	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—B—a	C：(13.6)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)押捺Ａ→ スリナデタテＩＡａ ｉ．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)スリナデヨコＩＡａ	10/cm 10/cm					7.5ＹＲ 7/6 橙	
114—230 133—230	第1トレンチ 11—13杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—C—a	C：(15.0)	O．押捺Ａ→スリナデヨコＩＢ ｉ．スリナデヨコＩＢ	多/cm 多/cm	O．マメツ不明 （スリナデＩＣａ？） ｉ．押捺Ａ→ スリナデナナメＩＣａ				O．10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐 ～10ＹＲ 4/1 褐灰	
114—231 133—231	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—C—b	C：(16.0)	O．ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．5ＹＲ 6/6 橙 ｉ．5ＹＲ 6/4 にぶい橙～ 5ＹＲ 6/6 橙	

表73　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（22）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部	体部	底部（脚部）	色調	備考
114—232 133—232	第１トレンチ ４－５杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—B—f	C：(16.6)	O．(口唇)波状文→円形浮文 (口頸)マメツ不明 i．スリナデＩＡｂ			O．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙 i．10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
114—233 133—233	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—C—e	C：(16.4)	O．(口唇)波状文→竹管文 (口頸)ミガキＡタテ i．ミガキＡ→波状文			10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐	
114—234 134—234	第１トレンチ ９—10 杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—A—b	C：(17.4)	O．ミガキＡタテ i．マメツ不明			O．7.5ＹＲ 6/6 橙 i．7.5ＹＲ 7/6 橙	
114—235 134—235	第１トレンチ 13－15 杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	壷	H—C—b	C：(18.6)	O．ミガキＡタテ i．マメツ不明			O．7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙 i．10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙	
114—236 134—236	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—B—b	C：(19.9)	O．スリナデヨコＩＣａ i．マメツ不明			10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙	
114—237 134—237	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—B—b	C：(22.8)	O．マメツ不明 i．マメツ不明			7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙	
114—238 134—238	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内上層	壷	H—・—・	—	O．スリナデヨコＩＣａ i．(口縁)マメツ不明 (頸)押捺Ａ			O．7.5ＹＲ 6/6 橙 i．10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙	
114—239 134—239	第１トレンチ ９—10 杭間 墳丘盛土内上層	底部（壷）	3—C—a	B：(3.0)			O．マメツ不明 i．ケズリＢ	O．10ＹＲ 6/2 灰黄褐～7.5Ｙ 2/1 黒 i．2.5Ｙ 6/1 黄灰	
114—240 134—240	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	底部（壷）	2—A—a	B：(4.7)			O．スリナデタテＩＡａ i．スリナデヨコＩＡｂ　6/cm	O．10ＹＲ 4/1 褐灰 i．10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐	
114—241 134—241	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	底部（壷）	1—A—・	B：5.7			O．スリナデＩＣａ i．スリナデナナメＩＡａ　5/cm	O．10ＹＲ 6/2 灰黄褐 i．10ＹＲ 5/2 灰黄褐	
114—242 134—242	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	底部（壷）	2—C—・	B：7.4			O．押捺Ａ→スリナデタテＩＡａ　6/cm i．ケズリＢ	O．7.5ＹＲ 7/4 にぶい橙 i．10ＹＲ 7/4 浅黄橙	

表74　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（23）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
114—243 134—243	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	底部 （壺）	2—C—a	B：4.6			O．スリナデタテIAb i．ケズリB	O．10YR 5/2灰黄褐～ 5Y 2/1黒 i．7.5YR 7/4にぶい橙	
114—244 134—244	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （壺）	2—・—・	B：（5.0）			O．マメツ不明 i．マメツ不明	O．10YR 4/1褐灰 i．2.5Y 3/1黒褐	
114—245 134—245	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （壺）	2—C—a	B：（6.1）			O．マメツ不明 i．マメツ不明	O．10YR 5/3にぶい黄褐 i．10YR 5/4にぶい黄褐	
114—246 134—246	第1トレンチ 7—9杭間 墳丘盛土内上層	底部 （壺）	2—C—・	B：4.3			O．押捺A→ スリナデタテIAb i．スリナデIAb	O．10YR 5/1褐灰 i．10YR 6/2灰黄褐	・外面にスス付着
114—247 134—247	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	底部 （壺）	2—A—・	B：2.5			O．ミガキAタテ i．マメツ不明	O．7.5YR 6/6橙 i．10YR 6/4にぶい黄橙	
114—248 134—248	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：（11.1）	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa			10YR 6/4にぶい黄橙	
114—249 134—249	第1トレンチ 13－15杭間砂礫層 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：（12.0）	O．マメツ不明 i．マメツ不明			10YR 6/3にぶい黄橙	
114—250 134—250	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：（12.6）	O．押捺A i．マメツ不明			10YR 4/2灰黄褐	
114—251 134—251	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：（11.9）	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa	O．押捺A→スリナデIC i．スリナデナナメIAa→ スリナデヨコICa	8/cm	10YR 7/4にぶい黄橙	・外面にスス付着
114—252 134—252	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：（12.4）	O．マメツ不明 i．マメツ不明			O．7.5YR 5/4にぶい褐 i．10YR 5/4にぶい黄褐	
114—253 134—253	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：（12.2）	O．押捺A→スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa	O．タタキ i．押捺A→スリナデヨコIAa	40/CM 7/cm	O．10YR 5/3にぶい黄褐 i．10YR 6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着

表75　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（24）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
114—254 134—254	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(12.8)	O．右上がりタタキ→ スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	30/CM					O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
115—255 134—255	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(13.0)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ7/2にぶい黄橙	
115—256 134—256	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(13.2)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．7.5ＹＲ5/3にぶい褐 ｉ．10ＹＲ5/2灰黄褐	
115—257 134—257	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(13.9)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ5/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ5/1褐灰	・外面にスス付着
115—258 134—258	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.3)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ5/3にぶい黄褐	
115—259 134—259	第1トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.5)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						10ＹＲ4/2灰黄褐	
115—260 134—260	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.4)	O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＡａ	7/cm					7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
115—261 134—261	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.3)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明						O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ7/4にぶい黄橙	・外面にスス付着
115—262 134—262	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．押捺A→スリナデヨコＩＣａ						O．7.5ＹＲ5/4にぶい褐 ｉ．7.5ＹＲ5/4にぶい褐～ 10ＹＲ6/2灰黄褐	・外面にスス付着
115—263 134—263	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.6)	O．押捺A→スリナデヨコＩＢ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	多/cm					O．10ＹＲ4/1褐灰 ｉ．10ＹＲ6/2灰黄褐～ 10ＹＲ2/1黒褐	
115—264 134—264	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明						10ＹＲ6/4にぶい黄橙	

表76　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（25）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		調整技法 体部		調整技法 底部（脚部）		色調	備考
115—265 134—265	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.9)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						O．10YR 5/3にぶい黄褐 i．10YR 5/2灰黄褐	・外面にスス付着
115—266 134—266	第1トレンチ 3—5杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．スリナデヨコⅠCa i．ケズリA				10YR 5/4にぶい黄褐	
115—267 134—267	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.6)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠAa	6/cm					O．5YR 5/4にぶい赤褐 i．10YR 5/2灰黄褐	・外面にスス付着
115—268 134—268	第1トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.4)	O．押捺A i．押捺A→スリナデヨコⅠCa						10YR 6/4にぶい黄橙	
115—269 134—269	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(15.8)	O．スリナデヨコⅠB i．スリナデヨコⅠCa	多/cm					10YR 6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
115—270 134—270	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(16.1)	O．スリナデタテⅠAa→ スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa	9/cm					2.5Y 4/1黄灰	
115—271 134—271	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(17.0)	O．スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						O．10YR 5/3にぶい黄橙 i．10YR 6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
115—272 134—272	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(17.4)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．ケズリA				10YR 4/1褐灰	
115—273 134—273	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(18.2)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．10YR 6/3にぶい黄橙 i．10YR 6/2灰黄褐	
115—274 134—274	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(18.0)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10YR 4/1褐灰	
115—275 134—275	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(18.4)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．10YR 6/3にぶい黄橙 i．10YR 7/3にぶい黄橙	

表77　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（26）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
115—276 134—276	第１トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅲ—B—・b	C：(10.2)	O．押捺A→スリナデヨコＩＣａ ｉ．押捺A→スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ3/1黒褐	
115—277 134—277	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅲ—B—・b	C：(10.0)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．2.5Ｙ5/1黄灰 ｉ．2.5Ｙ5/2暗灰黄	・外面にスス付着
115—278 134—278	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(11.4)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明						O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
115—279 134—279	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(11.6)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．10ＹＲ6/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
115—280 134—280	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(11.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
115—281 134—281	第１トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(12.2)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						10ＹＲ5/3にぶい黄褐	・外面にスス付着
115—282 134—282	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(12.6)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						2.5Ｙ5/2暗灰黄	・外面にスス付着
115—283 134—283	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(13.0)	O．タタキ→ スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明	30/CM					10ＹＲ5/3にぶい黄褐	
115—284 134—284	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(12.8)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．マメツ不明						7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
115—285 134—285	第１トレンチ 13—15杭間 砂礫層内 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(13.1)	O．タタキ ｉ．スリナデヨコＩＢ	30/CM 多/cm					10ＹＲ6/2灰黄褐	
115—286 134—286	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・b	C：(12.7)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						O．7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．5ＹＲ6/4にぶい橙	

表78　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（27）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
115—287 134—287	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(13.2)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10YR 6/3にぶい黄橙 i．10YR 7/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
115—288 134—288	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(13.3)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10YR 5/2灰黄褐	・外面にスス付着
115—289 134—289	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(13.5)	O．スリナデヨコⅠCa→タタキ i．スリナデヨコⅠCa	30/CM					7.5YR 5/4にぶい褐	
115—290 134—290	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(13.7)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10YR 5/3にぶい黄褐 i．10YR 5/2灰黄褐	・外面にスス付着
115—291 134—291	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(13.8)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．押捺A→スリナデヨコⅠCa						O．10YR 5/2灰黄褐 i．10YR 7/2にぶい黄橙	・外面にスス付着
116—292 134—292	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.2)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10YR 6/3にぶい黄橙 i．2.5Y 6/3にぶい黄	・外面にスス付着
116—293 134—293	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.2)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10YR 6/3にぶい黄橙 i．10YR 6/2灰黄褐	
116—294 134—294	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.6)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						O．7.5Y 2/1黒 i．10YR 5/3にぶい黄褐	
116—295 135—295	第1トレンチ 13—15杭間 砂礫層内 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.5)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						10YR 6/2灰黄褐	
116—296 135—296	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.6)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．7.5YR 6/4にぶい橙 i．10YR 6/4にぶい黄橙 ～2.5Y 5/1黄灰	
116—297 135—297	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.6)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10YR 4/1褐灰	

表79　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（28）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
116—298 135—298	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.8)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10ＹR 6/3 にぶい黄橙	
116—299 135—299	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.0)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10ＹR 4/1 褐灰	
116—300 135—300	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(14.9)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						10ＹR 6/2 灰黄褐	
116—301 135—301	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						O．10ＹR 5/2 灰黄褐 i．10ＹR 5/1 褐灰	
116—302 135—302	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.2)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10ＹR 5/3 にぶい黄褐	・外面にスス付着
116—303 135—303	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10ＹR 5/3 にぶい黄褐 i．10ＹR 4/1 褐灰	
116—304 135—304	第1トレンチ 11—13杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.4)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						7.5ＹR 6/4 にぶい橙	
116—305 135—305	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						2.5Ｙ 6/1 黄灰	
116—306 135—306	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.7)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10ＹR 5/3 にぶい黄褐	
116—307 135—307	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.8)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10ＹR 5/2 灰黄褐 i．10ＹR 5/3 にぶい黄褐～ 10ＹR 5/2 灰黄褐	
116—308 135—308	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.6)	O．押捺A→左上がりタタキ→ スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa	40/CM	O．マメツ不明 i．押捺A→スリナデヨコⅠAb				O．7.5ＹR 4/2 灰褐 i．10ＹR 5/3 にぶい黄褐	・外面にスス付着

表80　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（29）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
116—309 135—309	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（15.9）	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa→ 左上がりタタキ	40/CM	O．右上がりタタキ i．スリナデヨコⅠAa	40/CM 10/cm			O．2.5Y 4/1 黄灰 i．2.5Y 3/1 黒褐	
116—310 135—310	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（15.8）	O．スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						10YR 5/3 にぶい黄褐	
116—311 135—311	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（16.0）	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						2.5Y 3/1 黒褐	
116—312 135—312	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（16.8）	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．押捺A→スリナデヨコⅠCa						10YR 7/3 にぶい黄橙	
116—313 135—313	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（16.8）	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10YR 7/3 にぶい黄橙	
116—314 135—314	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（17.4）	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10YR 5/2 灰黄褐 i．10YR 6/2 灰黄褐～ 5Y 2/1 黒	
116—315 135—315	第1トレンチ 3—4杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（17.2）	O．押捺A i．押捺A→スリナデヨコⅠB	多/cm					O．5YR 7/4 にぶい橙 i．7.5YR 6/3 にぶい褐	
116—316 135—316	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（17.7）	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10YR 6/4 にぶい黄橙	・外面にスス付着
116—317 135—317	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（17.4）	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠAa→ スリナデヨコⅠCa	5/cm					10YR 4/1 褐灰	・外面にスス付着
116—318 135—318	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（18.0）	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10YR 6/3 にぶい黄橙	
116—319 135—319	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：（19.1）	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						10YR 6/3 にぶい黄橙	

表81　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（30）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
116—320 135—320	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・b	C：(19.0)	O．左上がりタタキ→ スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＡｂ	30/CM					O．7.5ＹＲ7/4にぶい橙 ｉ．7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
116—321 135—321	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	甕 SorY	Ⅰ—C—・d	C：(12.5)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						10ＹＲ4/2灰黄褐	
116—322 135—322	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内上層	甕	讃岐形甕	C：(14.8)	O．スリナデＩＢ ｉ．スリナデＩＢ	多/cm 多/cm	O．(頸)スリナデタテＩＡａ→ スリナデヨコＩＣａ (体)スリナデタテＩＡａ ｉ．(頸)スリナデヨコＩＣａ (体)押捺Ａ→ スリナデタテＩＡｂ	7/cm 7/cm			2.5Ｙ6/2灰黄	・讃岐系
116—323 135—323	第３トレンチＮ区 南～中央部 墳丘盛土内上層	甕	吉備形甕	C：(19.4)	O．(口唇)スリナデヨコＩＣａ (口頸)スリナデＩＡａ→ スリナデＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	8/cm	O．スリナデタテＩＡａ ｉ．ケズリＡ	8/cm			O．10ＹＲ7/3にぶい黄橙 ～10ＹＲ4/1褐灰 ｉ．7.5ＹＲ7/4にぶい橙	・吉備系 ・外面にスス付着
117—324 135—324	第１トレンチ ８—９杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	2—C—a	B：(3.4)					O．押捺Ａ ｉ．ケズリＢ		10ＹＲ6/2灰黄褐	
117—325 135—325	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	1—・—・	B：(4.0)					O．押捺Ａ ｉ．マメツ不明		O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ3/1黒褐	
117—326 135—326	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	2—A—a	B：4.8					O．押捺Ａ ｉ．マメツ不明		O．2.5Ｙ5/1黄灰 ｉ．2.5Ｙ6/2灰黄	
117—327 135—327	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	2—C—a	B：(3.3)					O．押捺Ａ ｉ．ケズリＢ		10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
117—328 135—328	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	2—A—・	B：4.2					O．押捺Ａ ｉ．スリナデＩＡｂ		O．10ＹＲ5/2灰黄褐 ｉ．10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
117—329 135—329	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	2—・—・	B：(5.4)					O．押捺Ａ→右上がりタタキ ｉ．ケズリＢ	20/CM	O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．2.5Ｙ4/1黄灰	
117—330 135—330	第１トレンチ ３—４杭間 墳丘盛土内上層	底部 (甕Ｙ)	3—C—・	B：3.1					O．右上がりタタキ ｉ．スリナデＩＡｂ	30/CM	O．7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．7.5ＹＲ6/6橙	

表 82　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物観察表（31）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
117—331 135—331	第 1 トレンチ 13—15 杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—A—a	B：（5.6）					O．右上がりタタキ i．マメツ不明	30/CM	O．10 Y R 5/2 灰黄褐～ 10 Y R 2/1 黒 i．10 Y R 7/3 にぶい黄橙	
117—332 135—332	第 1 トレンチ 4～5 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—A—・	B：3.8					O．右上がりタタキ i．スリナデⅠAb	30/CM	O．10 Y R 6/4 にぶい黄橙 ～7.5 Y 2/1 黒 i．10 Y R 6/4 にぶい黄橙	
117—333 135—333	第 1 トレンチ 5—6 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—C—b	B：（4.2）					O．タタキ i．スリナデヨコⅠAb	30/CM	O．10 Y R 5/2 灰黄褐～ 10 Y R 5/3 にぶい黄褐 i．10 Y R 5/3 にぶい黄褐	
117—334 135—334	第 1 トレンチ 9—10 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—B—・	B：3.4					O．右上がりタタキ i．スリナデⅠAb	40/CM	O．10 Y R 5/2 灰黄褐～ 10 Y R 4/1 褐灰 i．10 Y R 3/1 黒褐	
117—335 135—335	第 1 トレンチ 9—10 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	1—C—・	B：4.0					O．右上がりタタキ i．スリナデⅠAb	30/CM	O．10 Y R 6/3 にぶい黄橙 i．10 Y R 3/1 黒褐	
117—336 135—336	第 1 トレンチ 13 —15 杭間 砂礫層内 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—・—・	B：（3.6）					O．右上がりタタキ i．マメツ不明	40/CM	O．10 Y R 5/3 にぶい黄褐 i．10 Y R 4/2 灰黄褐	
117—337 135—337	第 1 トレンチ 9—10 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	3—C—a	B：4.1					O．タタキ i．スリナデⅠAb	40/CM	O．10 Y R 6/3 にぶい黄橙 i．10 Y R 3/1 黒褐	
117—338 135—338	第 1 トレンチ 9—10 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—C—a	B：（4.2）					O．タタキ i．マメツ不明	40/CM	O．2.5 Y 5/2 暗灰黄 i．2.5 Y 5/1 黄灰	
117—339 135—339	第 1 トレンチ 11—13 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—C—a	B：（2.8）					O．タタキ i．ケズリB	40/CM	7.5 Y R 6/4 にぶい橙	
117—340 135—340	第 1 トレンチ 9—10 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—C—・	B：3.0					O．右上がりタタキ i．スリナデⅠAa	30/CM 8/cm	2.5 Y 6/2 灰黄	
117—341 135—341	第 1 トレンチ 8—9 杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕 Y）	2—A—・	B：3.9					O．右上がりタタキ i．ケズリB	30/CM	O．10 Y R 5/2 灰黄褐 i．10 Y R 3/2 黒褐	

表83　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（32）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
117—342 135—342	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—A—・	B：5.0					O．タタキ i．ケズリB	30/CM	2.5Y 5/1 黄灰～ 5Y 3/1 オリーブ黒	
117—343 135—343	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—A—a	B：（3.7）					O．右上がりタタキ i．スリナデIAb	30/CM	O．10YR 6/2 灰黄褐～ 7.5YR 6/4 にぶい橙 i．5Y 3/1 オリーブ黒	
117—344 135—344	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—C—a	B：（4.4）					O．右上がりタタキ i．スリナデヨコICa	30/CM	O．2.5Y 5/2 暗灰黄 i．2.5Y 4/1 黄灰	
117—345 135—345	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—A—・	B：（3.6）					O．右上がりタタキ i．スリナデIAb	30/CM	2.5Y 5/2 暗灰黄	
117—346 135—346	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	3—C—・	B：4.3					O．押捺A→タタキ i．ケズリB	20/CM	2.5Y 4/1 黄灰	
117—347 135—347	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—C—a	B：（5.0）					O．右上がりタタキ i．スリナデIAb	40/CM	O．2.5YR 5/2 暗灰黄 i．2.5Y 3/1 黒褐	
117—348 135—348	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—A—・	B：4.1					O．押捺A→右上がりタタキ i．マメツ不明	30/CM	O．10YR 3/1 黒褐～ 10YR 6/3 にぶい黄橙 i．10YR 5/2 灰黄褐	
117—349 135—349	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—C—b	B：（3.6）					O．右上がりタタキ i．ケズリB	30/CM	O．5YR 5/3 にぶい赤褐 i．5Y 2/1 黒	・外面に二次焼成痕有
117—350 135—350	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	1—C—・	B：4.5					O．押捺A→タタキ i．スリナデIAb	20/CM	O．10YR 4/1 褐灰 i．10YR 5/3 にぶい黄褐	
117—351 135—351	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—C—・	B：（4.4）					O．マメツ不明 i．ケズリB		2.5Y 5/2 暗灰黄	
117—352 135—352	第1トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—C—・	B：4.6					O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．10YR 6/3 にぶい黄橙 i．10YR 4/1 褐灰	

表84　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（33）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
117—353 136—353	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （甕Y）	2—C—a	B：(4.2)					O．スリナデナナメIAa i．ケズリB	8/cm	O．10YR 6/2灰黄褐～ 2.5Y 5/1黄灰 i．10YR 6/2灰黄褐	
117—354 136—354	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	鉢	Ⅲ—E_1—a	C：(10.8)	O．マメツ不明 i．スリナデICa		O．タタキ i．スリナデICa	40/CM			7.5YR 3/1黒褐	
117—355 136—355	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	鉢	Ⅲ—F_1—b	C：(10.6)	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa						O．10YR 7/3にぶい黄橙 i．7.5YR 7/4にぶい橙	
117—356 136—356	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	鉢	Ⅲ—A_4—b	C：(12.2)	O．押捺A→スリナデICa i．押捺A→スリナデICa		O．押捺A i．スリナデヨコIAb				O．10YR 6/2灰黄褐～ 10YR 5/2灰黄褐 i．2.5Y 6/1黄灰～ 2.5Y 5/1黄灰	・片口鉢
117—357 136—357	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （鉢）	・—G—・	C：(9.7)	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．ミガキAタテ i．マメツ不明				10YR 7/3にぶい黄橙	
117—358 136—358	第1トレンチ 9—11杭間 墳丘盛土内上層	底部 （鉢）	2—A—・	B：4.2					O．マメツ不明 i．スリナデタテIAb		O．7.5YR 6/4にぶい橙～ 10YR 5/2灰黄褐 i．10YR 5/2灰黄褐	
117—359 136—359	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （鉢）	1—B—c	—					O．押捺A i．押捺A→ スリナデヨコIAb		O．10YR 5/3にぶい黄褐 i．10YR 5/2灰黄褐	
117—360 136—360	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	底部 （鉢）	1—B—b	B：4.0			O．スリナデタテIAb i．スリナデヨコIAa	8/cm	O．押捺A i．押捺A		10YR 5/3にぶい黄褐	
117—361 136—361	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	有孔 底部	1—B—c	B：(4.0)					O．押捺A→ スリナデタテIAa i．押捺A→ケズリB	12/cm	10YR 6/2灰黄褐	・焼成前穿孔
117—362 136—362	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	有孔 底部	3—C—・	B：3.4					O．マメツ不明 i．スリナデタテIAa		10YR 5/3にぶい黄褐	・焼成前穿孔
117—363 136—363	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	高坏	E—・—・—・	C：(8.8)	O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ						7.5YR 6/4にぶい橙	

表85　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（34）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
117—364 136—364	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	高坏	E_1—・—・—・	C：(14.9)	O．押捺A→ミガキAタテ i．ミガキAタテ						10YR 6/3 にぶい黄橙	
117—365 136—365	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B—・—・—・	C：(14.0)	O．スリナデヨコICa→ ミガキAタテ i．スリナデヨコICa→ ミガキAタテ						O．10YR 7/3 にぶい黄橙 i．2.5Y 6/1 黄灰	
117—366 136—366	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B—・—・—・	C：(14.6)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						7.5YR 6/6 橙	
117—367 136—367	第1トレンチ 7－8杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_2—・—・—・	C：(14.6)	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa						10Y 2/1 黒	
117—368 136—368	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_4—・—・—・	C：(15.0)	O．スリナデヨコICa→ スリナデナナメIAa i．スリナデヨコICa→ スリナデナナメIAa	5/cm 5/cm					10YR 6/2 灰黄褐	
117—369 136—369	第1トレンチ 9—11杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_3—・—・—・	C：(15.2)	O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ						10YR 6/3 にぶい黄橙	
117—370 136—370	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_3—・—・—・	C：(15.3)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						7.5YR 6/4 にぶい橙	
117—371 136—371	第1トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	高坏	B_2—・—・—・	C：(15.3)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．7.5YR 6/6 橙～ 2.5YR 5/6 明赤褐 i．2.5YR 6/6 橙	
118—372 136—372	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土上層	高坏	B_2—・—・—・	C：(16.0)	O．スリナデヨコICa→ ミガキAタテ i．ミガキAタテ						10YR 5/3 にぶい黄褐	
118—373 136—373	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_3—・—・—・	C：(16.0)	O．マメツ不明（スリナデIC a→ミガキA？） i．マメツ不明（スリナデIC a→ミガキA？）						10YR 5/3 にぶい黄褐	
118—374 136—374	第1トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	高坏	B_3—・—・—・	C：(16.3)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．2.5Y 4/1 黄灰 i．5YR 6/4 にぶい橙	

表86　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（35）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
118—375 136—375	第1トレンチ 7—9杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_4—・—・—・	—			O．ミガキAタテ i．押捺A→スリナデヨコICa →ミガキAタテ				10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—376 136—376	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_3—・—・—・	—	O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ		O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ				10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—377 136—377	第1トレンチ 杭7—8間 墳丘盛土上層	高坏	B_3—・—・—・	—			O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ				10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—378 136—378	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_4—・—・—・	—	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．5YR 6/4 にぶい橙 i．10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—379 136—379	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_4—・—・—・	—	O．ミガキAタテ→ スリナデヨコICa i．ミガキAヨコ		O．ミガキAタテ i．ミガキAヨコ				O．7.5YR 7/4 にぶい橙～ 10YR 7/4 にぶい黄橙 i．7.5YR 7/4 にぶい橙	
118—380 136—380	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_4—・—・—・	—	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—381 136—381	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B—・—・—・	—	O．スリナデタテIAa i．ミガキA	6/cm	O．マメツ不明 i．ミガキA				7.5YR 6/4 にぶい橙	
118—382 136—382	第1トレンチ 6—7杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B—・—・—・	—	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．5YR 6/6 橙 i．7.5YR 7/4 にぶい橙	
118—383 136—383	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	高坏	B_3—・—・—・	—	O．押捺A→ミガキAタテ i．ミガキAタテ						O．10YR 4/1 褐灰 i．10YR 5/2 灰黄褐	
118—384 129—384	第1トレンチ 8—9杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	1—B—b	—			O．ミガキAタテ i．マメツ不明		O．ミガキAタテ i．マメツ不明		O．10YR 6/2 灰黄褐～ 10YR 6/1 褐灰 i．10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—385 136—385	第1トレンチ 9—10杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	1—A—c	—			O．ミガキAタテ i．ミガキA		O．ミガキAタテ i．マメツ不明		5YR 7/6 橙	・3方スカシ

表87　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（36）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
118—386 129—386	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	4—B—・	—		O．スリナデタテＩＡａ ｉ．ミガキＡタテ　5/cm	O．ミガキＡタテ ｉ．マメツ不明	7.5ＹＲ6/4にぶい橙	・３方スカシ
118—387 129—387	第１トレンチ ７—８杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	1—B—c	—			O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ6/2灰黄褐	
118—388 129—388	第１トレンチ ９—10杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	3—A—・	—			O．ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＣａ	O．10ＹＲ6/3にぶい黄橙 ｉ．10ＹＲ6/2灰黄褐	・３方スカシ
118—389 136—389	第１トレンチ 13—15杭間 暗茶褐色土 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	・—A—a	—			O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	10ＹＲ6/4にぶい黄橙	
118—390 136—390	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	1—A—c	—		O．ミガキＡ ｉ．ミガキＡ	O．ミガキＡ ｉ．押捺Ａ	10ＹＲ5/3にぶい黄褐	
118—391 129—391	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	4—B—c	—		O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	O．スリナデタテＩＡａ ｉ．マメツ不明	O．7.5ＹＲ6/6橙 ｉ．10ＹＲ5/2灰黄褐	
118—392 129—392	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	1—B—・	—		O．（頸部）スリナデタテＩＡａ ｉ．マメツ不明　8/cm	O．押捺Ａ→ミガキＡタテ ｉ．スリナデＩＣａ	7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
118—393 129—393	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	1—A—・	—		O．マメツ不明 ｉ．ケズリＢ	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明	O．7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．（体）7.5ＹＲ6/4にぶい橙 （脚）5ＹＲ7/4にぶい橙	
118—394 136—394	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	4—・—・	B：（13.1）			O．マメツ不明 ｉ．ミガキＡタテ	7.5ＹＲ7/6橙	
118—395 136—395	第１トレンチ ５—６杭間 墳丘盛土内上層	小形 器台	Ⅱ—C_2—a	C：（9.3）	O．ミガキＡ ｉ．ミガキＡタテ			7.5ＹＲ5/4にぶい褐	
118—396 136—396	第１トレンチ ６—７杭間 墳丘盛土内上層	小形 器台	・—C_2—a	C：（9.6）	O．ミガキＡ ｉ．ミガキＡ			7.5ＹＲ6/4にぶい橙	

表88　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（37）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
118—397 136—397	第1トレンチ 5—6杭間 墳丘盛土内上層	脚台（小形器台）	Ⅱ—・—・	—			O．マメツ不明 i．ケズリB		O．押捺A i．押捺A		10YR 6/3 にぶい黄橙	・外面頸部に爪痕有
118—398 136—398	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	壷	Ⓝ—D_2—c	C：(20.2)	O．(口唇)竹管文 (口頸)マメツ不明 i．波状文						O．10YR 7/2 にぶい黄橙 i．10YR 7/2 にぶい黄橙 ～5YR 6/6 橙	
118—399 136—399	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	壷	C—・—a	C：(8.6)	O．スリナデヨコIB→ スリナデタテIB i．スリナデヨコIB→ スリナデタテIB	多/cm 多/cm 多/cm 多/cm					5YR 6/6 橙	
118—400 136—400	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	壷	C—・—a	C：(10.8)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						10YR 6/3 にぶい黄橙	
118—401 136—401	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	壷	H—B—b	C：(14.3)	O．スリナデヨコICa i．マメツ不明						O．10YR 6/2 灰黄褐 i．10YR 5/2 灰黄褐	
119—402 136—402	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅲ—B—・a	C：(10.4)	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa						O．7.5Y 2/1 黒 i．10YR 5/2 灰黄褐	
119—403 136—403	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅱ—B—・a	C：(11.6)	O．マメツ不明 i．マメツ不明						O．2.5Y 6/2 灰黄～ 2.5Y 4/1 黄灰 i．2.5Y 6/2 灰黄	
119—404 136—404	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅱ—B—・a	C：(11.8)	O．スリナデヨコICa i．押捺A→スリナデヨコICa						7.5YR 6/3 にぶい褐	・外面に二次焼成痕有
119—405 136—405	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅰ—B—・a	C：(14.8)	O．スリナデヨコIB i．スリナデヨコIB	多/cm 多/cm					10YR 6/3 にぶい黄橙	・外面にスス付着
119—406 136—406	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅱ—B—・b	C：(13.0)	O．スリナデタテIAa→ スリナデヨコIB i．スリナデヨコICa	6/cm 多/cm					O．7.5YR 7/3 にぶい橙 i．10YR 4/1 褐灰	
119—407 136—407	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.4)	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa						10YR 6/2 灰黄褐	

表89　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（38）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
119—408 136—408	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.4)	O．押捺A→スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明						10YR 5/2 灰黄褐	
119—409 136—409	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅰ—B—・b	C：(15.8)	O．押捺A→右上がりタタキ→スリナデヨコⅠCa i．押捺A→スリナデヨコⅠCa	30/CM					O．10YR 6/2 灰黄褐 i．7.5YR 7/4 にぶい橙	
119—410 136—410	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕Y	Ⅰ—B—・b	C：(16.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa						O．10YR 5/1 褐灰 i．10YR 6/1 褐灰	
119—411 136—411	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部（甕Y）	3—A—a	B：(3.6)					O．タタキ i．マメツ不明	40/CM	O．7.5YR 6/4 にぶい橙 i．2.5Y 3/1 黒褐	
119—412 136—412	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部（甕Y）	3—C—a	B：(4.7)					O．タタキ i．押捺A	40/CM	O．10YR 6/2 灰黄褐 i．2.5Y 6/1 黄灰	
119—413 136—413	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部（甕Y）	1—A—c	B：(5.6)			O．右上がりタタキ i．マメツ不明	30/CM	O．押捺A→スリナデヨコⅠB i．マメツ不明	多/cm	O．10YR 6/3 にぶい黄橙 i．10YR 4/1 褐灰	
119—414 136—414	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部（甕Y）	1—A—a	B：(4.8)					O．スリナデタテⅠAb i．ケズリB		10YR 7/2 にぶい黄橙	
119—415 136—415	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部（甕Y）	2—A—a	B：4.1					O．スリナデタテⅠAb i．スリナデⅠAb		10YR 6/3 にぶい黄橙	
119—416 136—416	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	鉢	Ⅲ—A—b	C：(11.0)	O．押捺A i．押捺A						10YR 6/3 にぶい黄橙	
119—417 137—417	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部（鉢）	1—B—a	B：(3.0)			O．スリナデタテⅠAa i．ケズリB	8/cm	O．押捺A i．押捺A		5YR 6/6 橙	
119—418 137—418	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	小形器台	・—C_3—b	C：(11.1)	O．マメツ不明 i．スリナデヨコⅠCa						5YR 6/6 橙	

表90　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（39）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
119—419 137—419	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	高坏	B_2—・—・ー・	C：(15.4)	O．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡタテ						10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
119—420 137—420	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	脚台 (高坏)	4—・—・	B：(13.2)					O．ミガキＡタテ ｉ．マメツ不明		O．5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．2.5ＹＲ5/1黄灰	
119—421 137—421	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	脚台 (高坏)	4—・—・	B：(14.1)					O．マメツ不明 ｉ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡ		10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
119—422 137—422	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	脚台 (高 坏？)	1—・—・	B：(10.2)					O．スリナデタテＩＡａ (端)スリナデヨコＩＣａ ｉ．押捺A→スリナデナナメＩＡａ (端)スリナデヨコＩＣａ→ スリナデナナメＩＡａ	6/cm 6/cm 6/cm	10ＹＲ6/2灰黄褐	
119—423 129—423	第2トレンチN区 墳丘盛土内上層	脚台 (高坏)	3—B—・	—			O．ミガキＡ ｉ．ミガキＡ		O．ミガキＡ ｉ．マメツ不明		O．7.5ＹＲ5/4にぶい褐 ｉ．(坏)7.5ＹＲ5/4にぶい褐 (脚)7.5ＹＲ7/4にぶい橙	・3方スカシ
119—424 137—424	第4トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅱ—B—・a	C：(12.4)	O．マメツ不明 ｉ．押捺Ａ						O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．10ＹＲ6/2灰黄褐	・外面にスス付着
119—425 137—425	第4トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(13.2)	O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明						10ＹＲ6/3にぶい黄橙	
119—426 137—426	第4トレンチN区 墳丘盛土内上層	甕 Y	Ⅰ—B—・a	C：(17.8)	O．押捺Ａ ｉ．マメツ不明		O．マメツ不明 ｉ．押捺Ａ				O．10ＹＲ5/3にぶい黄褐 ｉ．(口唇)7.5Ｙ2/1黒 (口頸) 10ＹＲ5/3にぶい黄褐	
119—427 137—427	第4トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部 (甕Y)	2—A—・	B：(5.2)					O．押捺A→タタキ ｉ．スリナデＩＡｂ	40/CM	10ＹＲ5/2灰黄褐	
119—428 137—428	第4トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部 (甕Y)	2—A—・	B：(4.3)					O．右上がりタタキ ｉ．マメツ不明	30/CM	O．7.5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．10ＹＲ5/2灰黄褐	
119—429 137—429	第4トレンチN区 墳丘盛土内上層	底部 (甕Y)	3—A—a	B：(3.2)					O．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		O．5ＹＲ6/4にぶい橙 ｉ．10ＹＲ4/1褐灰	

表91　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物観察表（40）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法 口縁部	体部	底部（脚部）	色調	備考
119—430 137—430	第４トレンチＮ区 墳丘盛土内上層	高坏	B_4—・—・—・	—	O．マメツ不明 i．ミガキＡタテ	O．マメツ不明 i．マメツ不明		10ＹＲ7/3にぶい黄橙	
119—431 129—431	第４トレンチＮ区 墳丘盛土内上層	脚台 （高坏）	4—B—・	—			O．押捺Ａ→ミガキＡタテ i．押捺Ａ→スリナデＩＡａ　8/cm	10ＹＲ6/3にぶい黄橙	・３方スカシ
119—432 137—432	第４トレンチＳ区 ＳＸ—1001	土師器 皿		C：(9.2)	O．回転ナデ i．回転ナデ		O．回転ナデ i．未調整（指頭圧痕）	10ＹＲ7/4にぶい黄橙	
119—433 137—433	第４トレンチＳ区 ＳＸ—1001	土師器 皿		C：(9.5)	O．回転ナデ i．回転ナデ		O．回転ナデ i．未調整（指頭圧痕）	7.5ＹＲ7/6橙	
119—434 129—434	第４トレンチＳ区 ＳＸ—1001	土師器 皿		C：11.7	O．回転ナデ i．回転ナデ		O．回転ナデ i．未調整（指頭圧痕）	O．10ＹＲ7/4にぶい黄橙 ～10ＹＲ7/6明黄褐 i．10ＹＲ7/4にぶい黄橙	
119—435 137—435	第４トレンチＳ区 ＳＸ—1001	土師器 鍋		C：(23.0)	O．回転ナデ i．回転ナデ		O．回転ナデ i．未調整	7.5ＹＲ6/4にぶい橙	
119—436 137—436	第４トレンチＳ区 ＳＸ—1001	土師器 羽釜		C：(27.8) W：(33.2)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．ナデ （羽）回転ナデ i．ナデ		O．10ＹＲ8/3浅黄橙～ 10ＹＲ6/2灰黄褐 i．10ＹＲ8/4浅黄橙	
120—437 137—437	第５トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～ 上層	土師器 埦	埦ＡＩ	C：(13.4)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．ヘラケズリ i．回転ナデ		5ＹＲ6/6橙～ 10ＹＲ7/3にぶい黄橙	
120—438 137—438	第５トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～ 上層	土師器 埦	埦ＡＩ	C：(13.4)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．ヘラケズリ i．回転ナデ		5ＹＲ6/6橙	
120—439 137—439	第５トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～ 上層	土師器 埦	埦ＡＩ	C：(13.7)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．未調整（指頭圧痕） i．回転ナデ		O．10ＹＲ7/4にぶい黄橙 i．5ＹＲ6/6橙	
120—440 137—440	第５トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～ 上層	土師器 埦	埦ＡＩ	C：(14.0)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．ヘラケズリ i．回転ナデ		O．5ＹＲ6/6橙 i．5ＹＲ7/6橙	

表92　纒向石塚古墳第8次調査出土遺物観察表（41）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元） cm	調整技法 口縁部	調整技法 体部	調整技法 底部（脚部）	色調	備考
120—441 137—441	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	土師器 皿	皿AⅡ	C：(16.2)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．ヘラケズリ i．回転ナデ		O．5YR 6/6 橙 i．5YR 7/6 橙	
120—442 137—442	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	土師器 皿	皿AⅠ	C：(19.2)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．ヘラケズリ i．回転ナデ		5YR 6/6 橙	
120—443 137—443	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	土師器 甕	甕A	C：(23.6)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．回転ナデ i．板ナデ		O．10YR 6/3 にぶい黄橙 i．10YR 7/3 にぶい黄橙 ～ 10YR 5/2 灰黄褐	
120—444 137—444	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	黒色 土器 埦	A類	C：(21.5)	O．回転ナデ i．ヘラミガキ	O．ヘラケズリ i．ヘラミガキ	O．ヘラケズリ i．ヘラミガキ→螺旋状暗文	O．2.5Y 6/2 灰黄～ 10YR 7/3 にぶい黄橙 i．5Y 2/1 黒	
120—445 137—445	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	須恵器 坏	坏A	C：(11.9)	O．回転ナデ i．回転ナデ			2.5Y 8/1 灰白	
120—446 137—446	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	須恵器 蓋	坏B蓋	C：(16.1)	O．回転ナデ i．回転ナデ	O．回転ナデ i．回転ナデ	〈天井部〉 O．未調整 i．回転ナデ	N 6/0 灰	
120—447 137—447	第5トレンチ 前方部南 周濠埋土最上層～上層	須恵器 平瓶				O．回転ナデ (把手)ヘラケズリ i．回転ナデ		O．5Y 6/1 灰～N 4/0 灰 i．5Y 6/1 灰	

図番号 図版番号	地区 層位	種類	全長（残存）	幅（残存）	厚さ（残存）	重量	色調	備考
120—448 137—448	第1トレンチ 7—8杭間 墳丘盛土内下層	摺石	9.5cm	6.6cm	2.0cm	191 g	2.5Y 6/1 黄灰 ～2.5Y 5/1 黄灰	・朱付着
120—449 137—449	第1トレンチ 墳丘盛土内上層	砥石	(13.9) cm	(9.2) cm	3.8cm	856 g	N 8/0 灰白～N 7/0 灰白	・研磨面3面

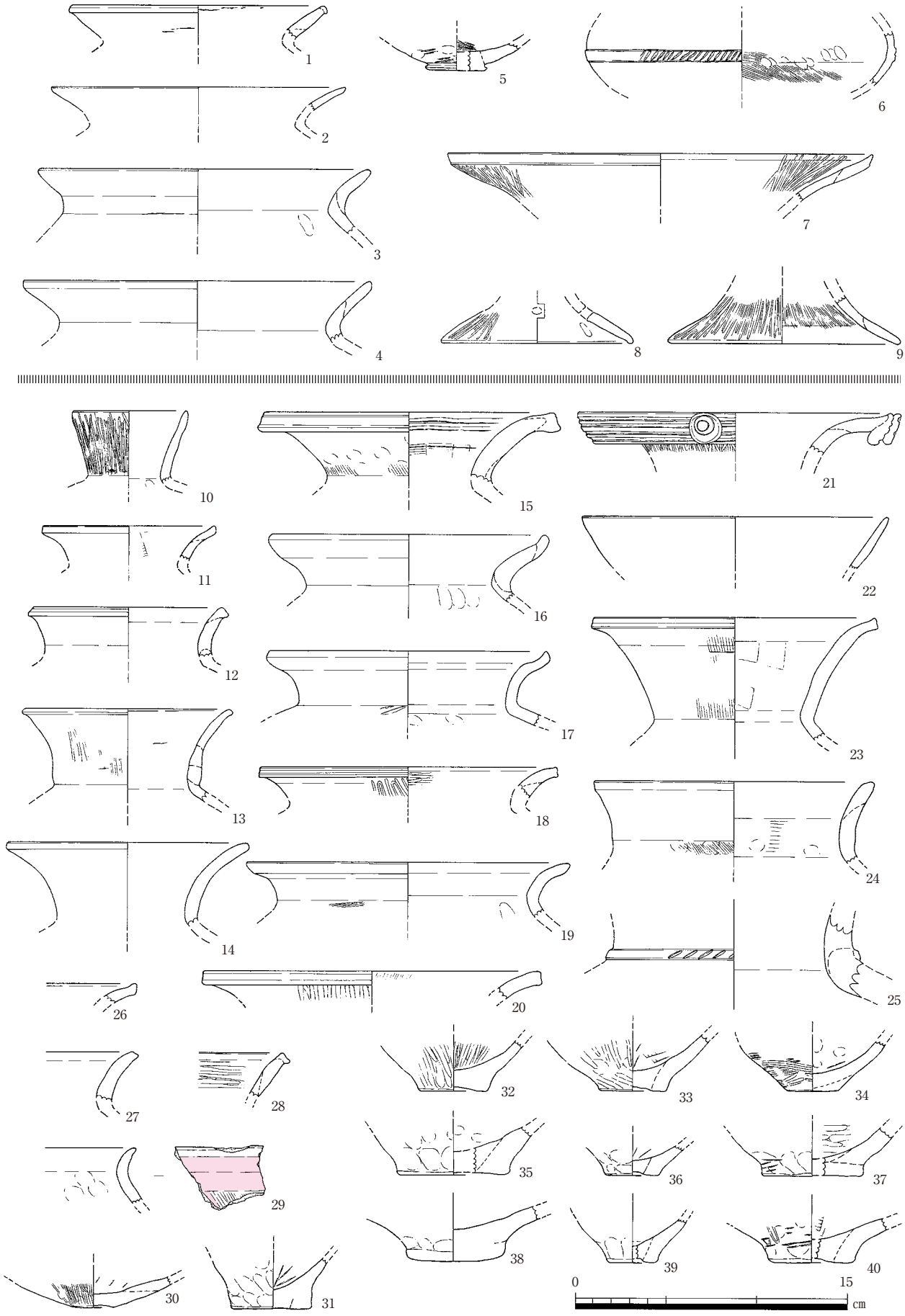


図109　纒向石塚古墳第８次調査出土遺物実測図１（１／３）
第１トレンチ：１～９　墳丘下湿地　10～40 墳丘盛土内下層

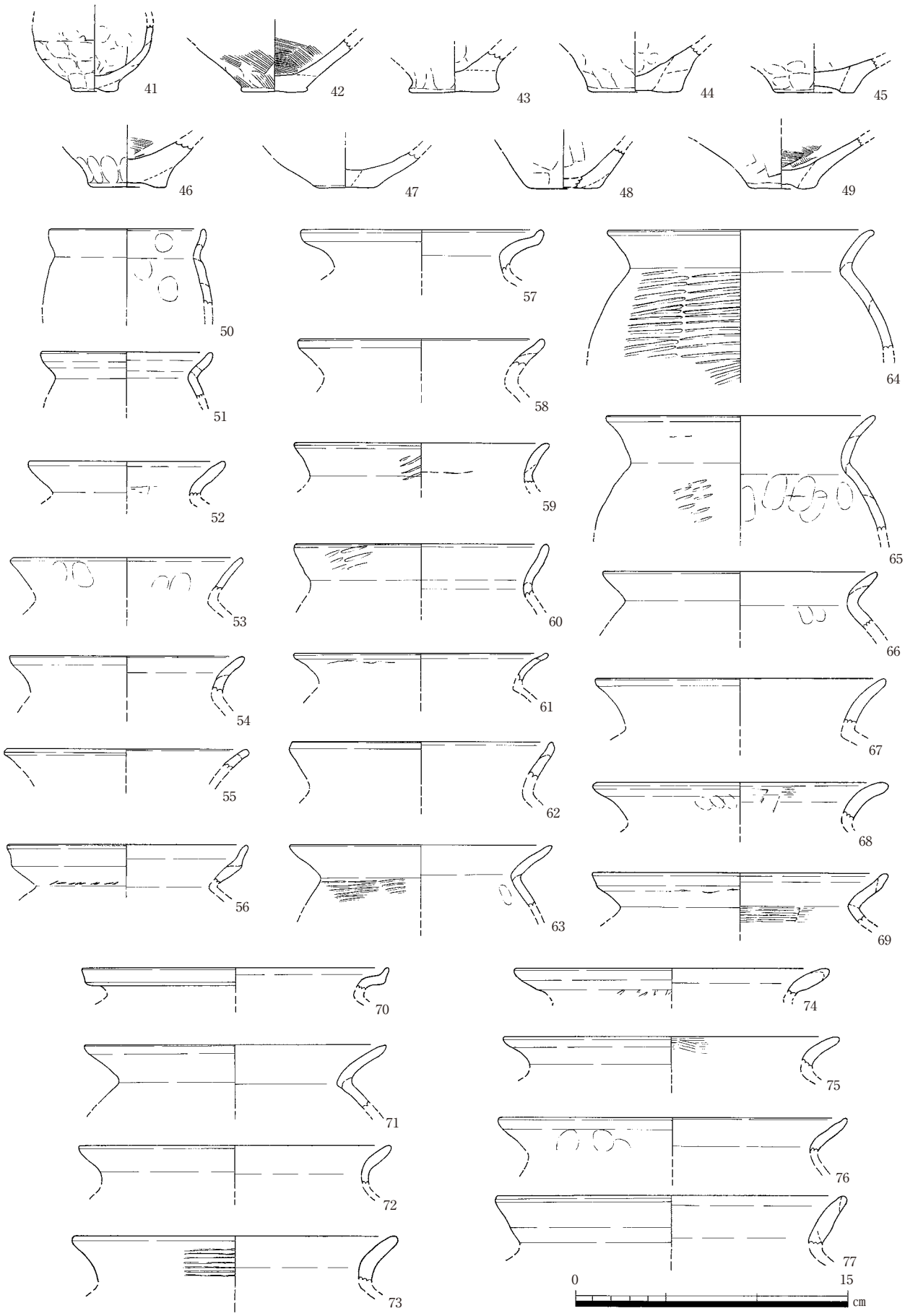


図110　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 2 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：41～77 墳丘盛土内下層

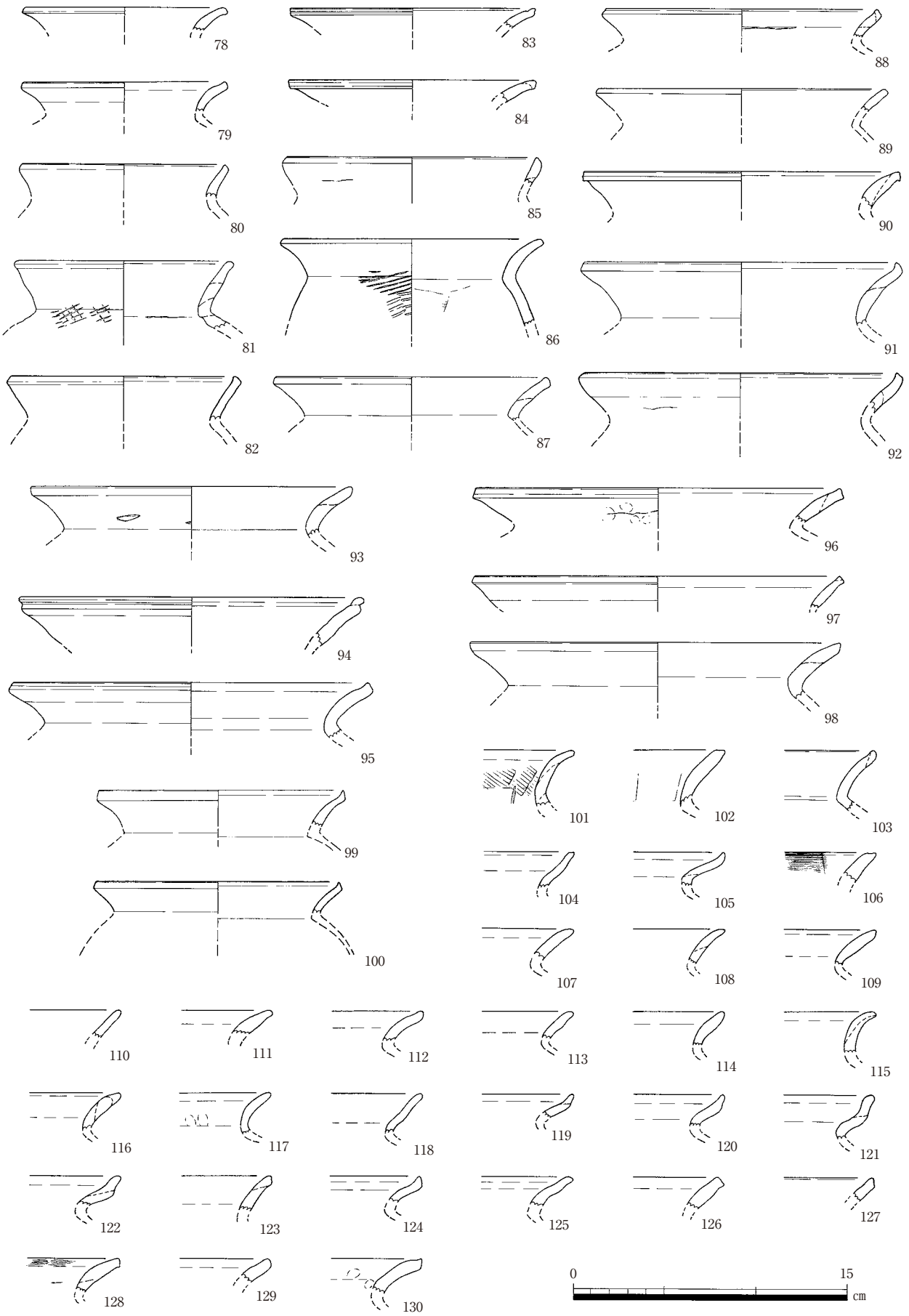


図111　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 3 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：78～130 墳丘盛土内下層

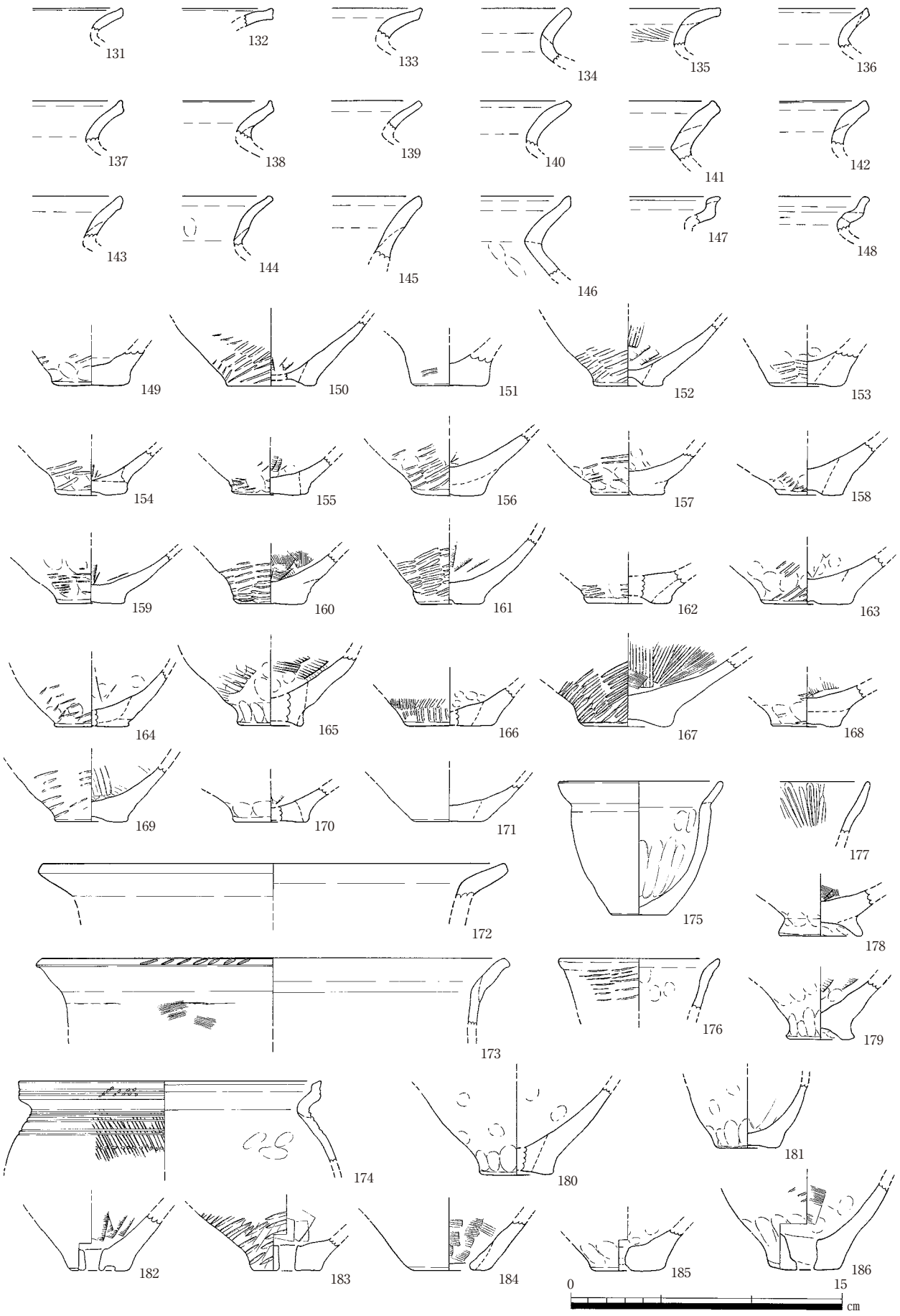


図112　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 4 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：131～186 墳丘盛土内下層

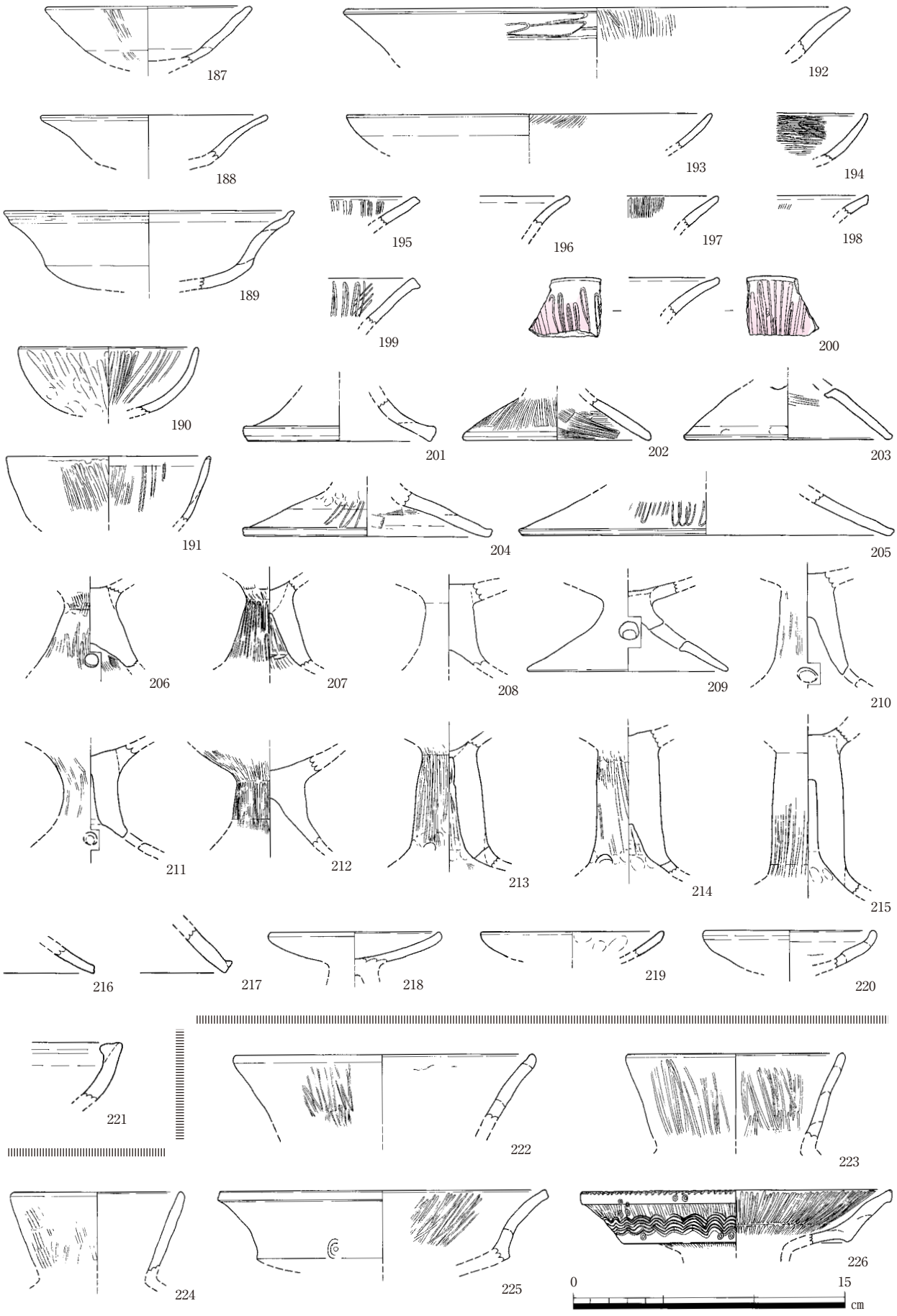


図113　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 5 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：187～221 墳丘盛土内下層　222～226 墳丘盛土内上層

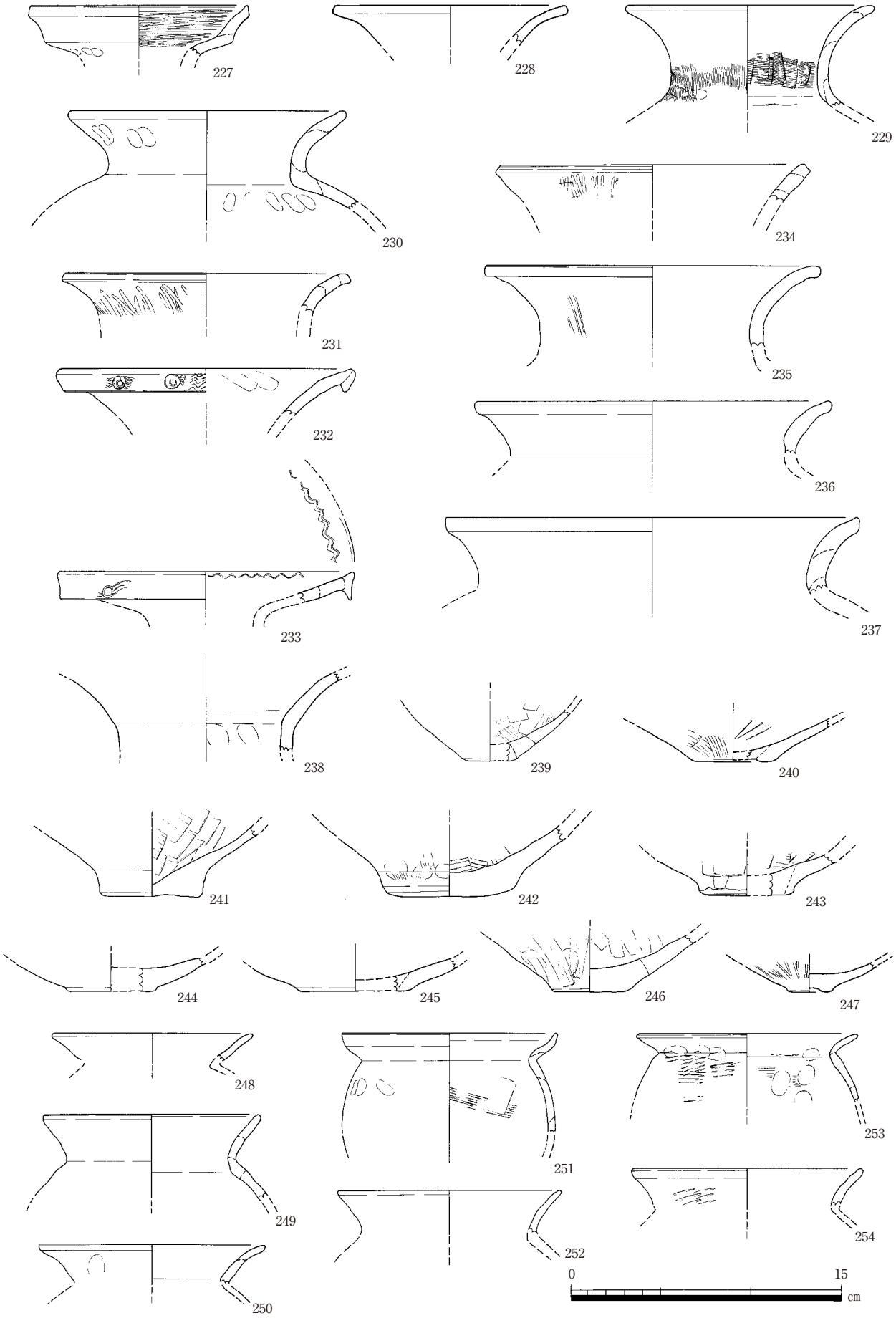


図114　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 6 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：227～254 墳丘盛土内上層

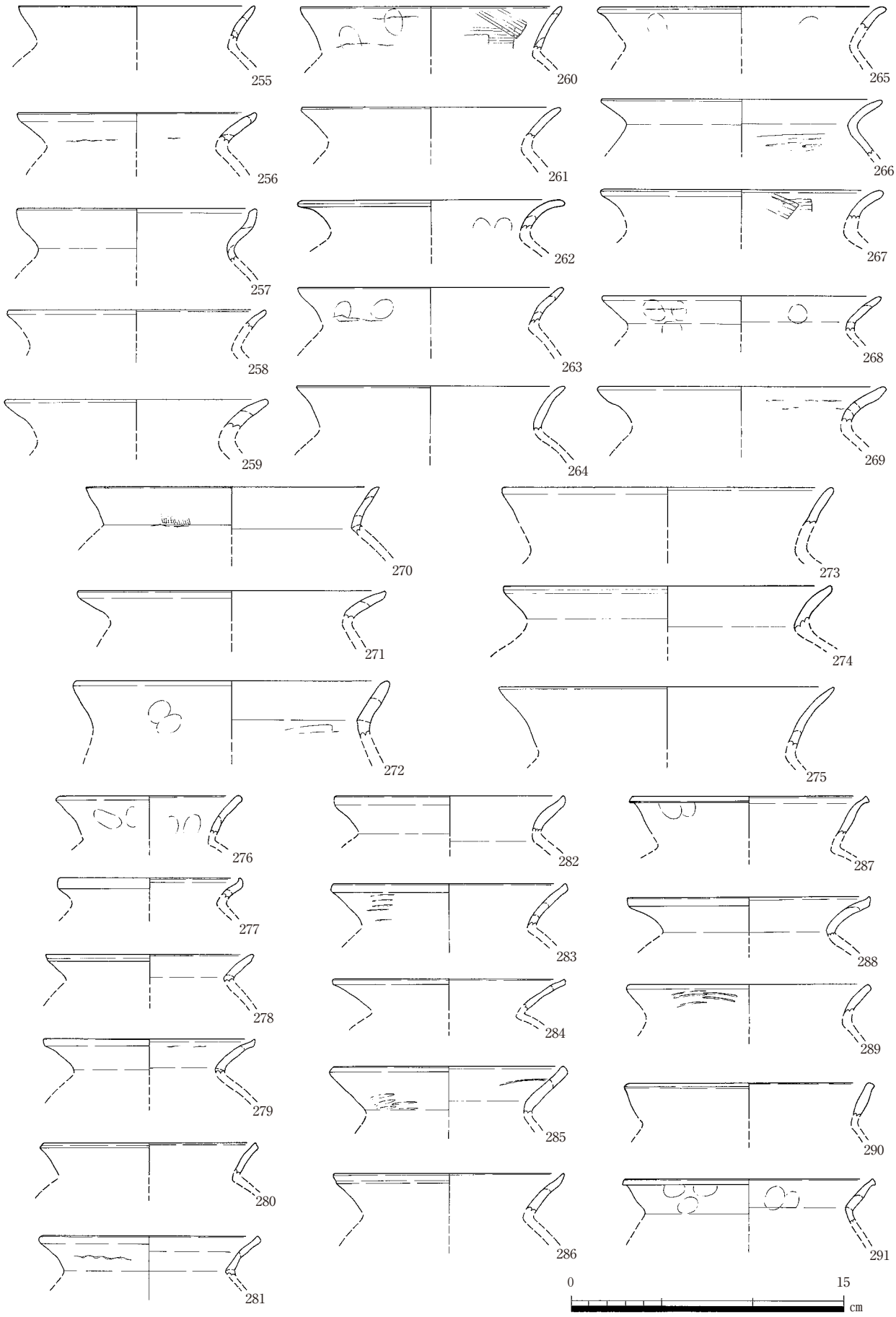


図115　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 7 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：255～291 墳丘盛土内上層

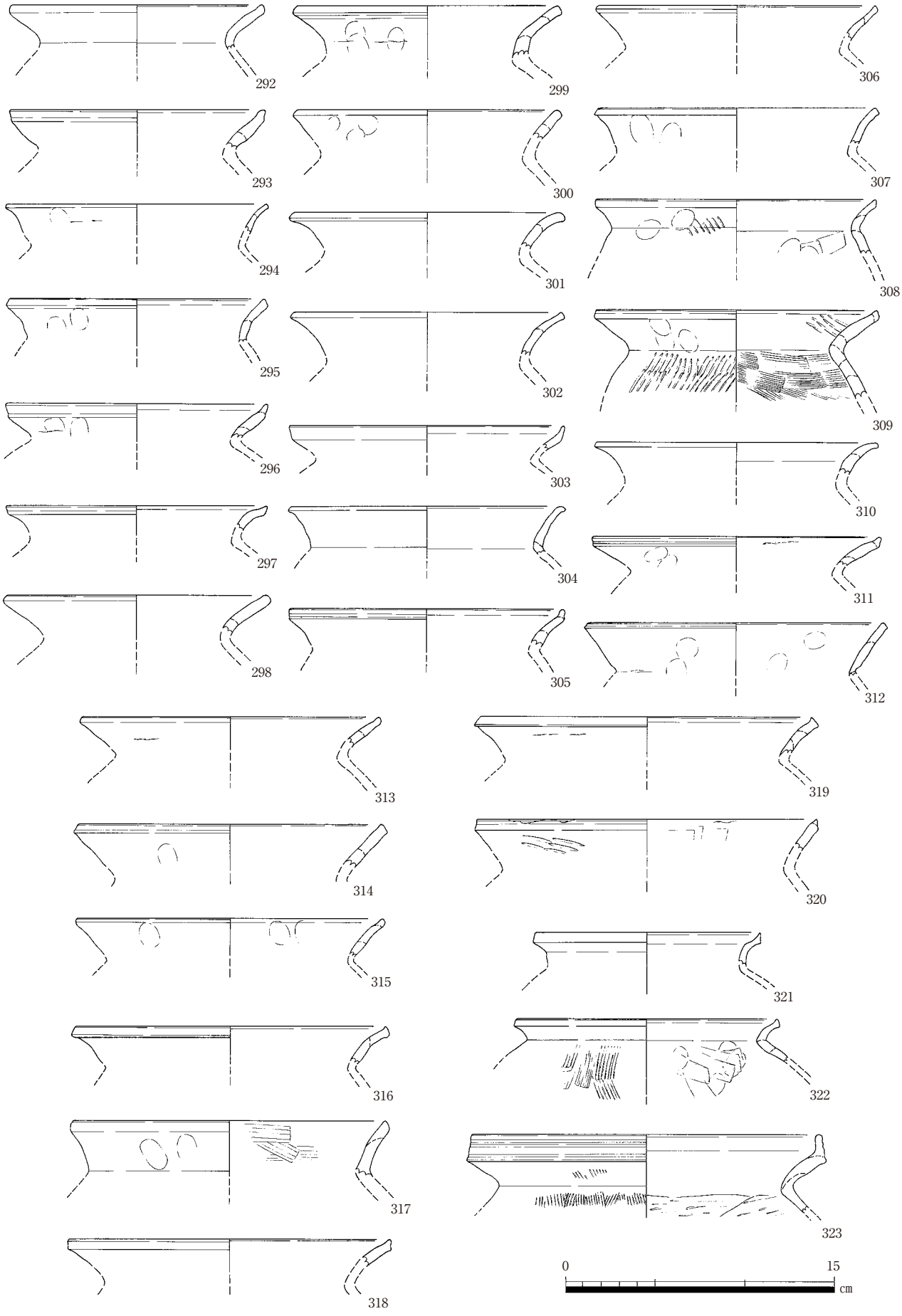


図116　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 8 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：292～323 墳丘盛土内上層

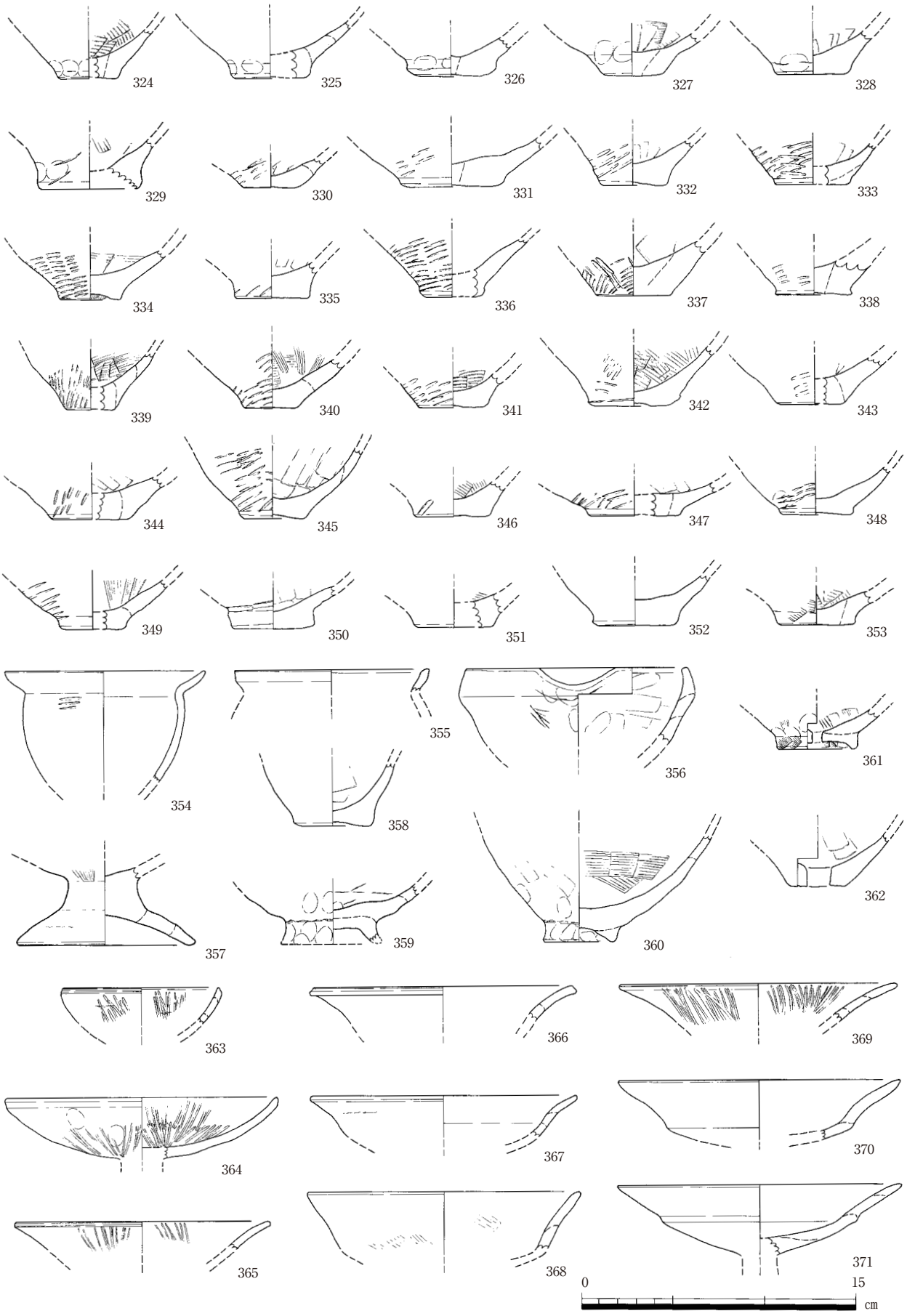


図117　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図 9 （1 ／ 3）
第 1 トレンチ：324～371 墳丘盛土内上層

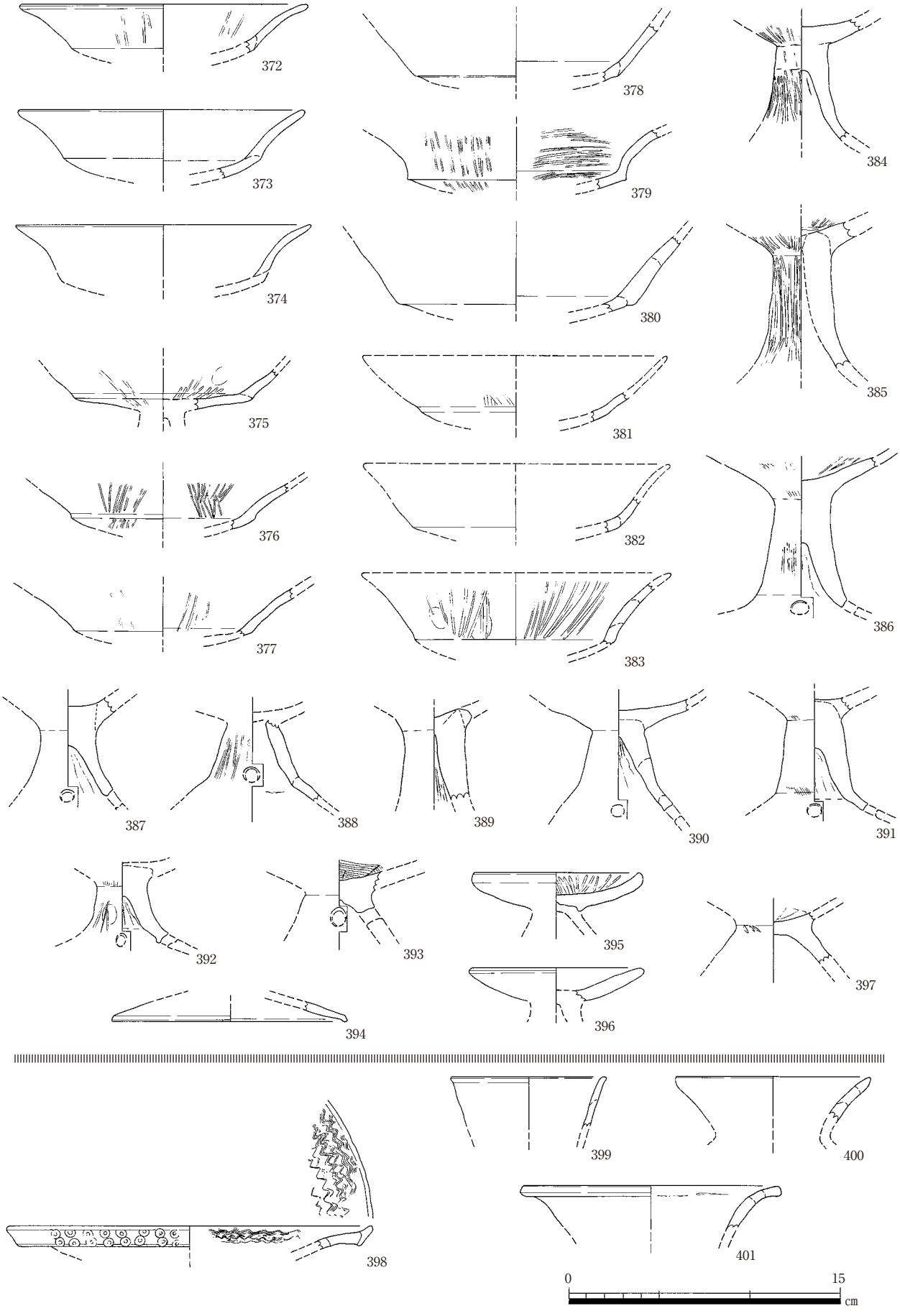


図118　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図10（1 ／ 3）
第 1 トレンチ：372～397 墳丘盛土内上層　第 2 トレンチ：398～401 墳丘盛土内上層

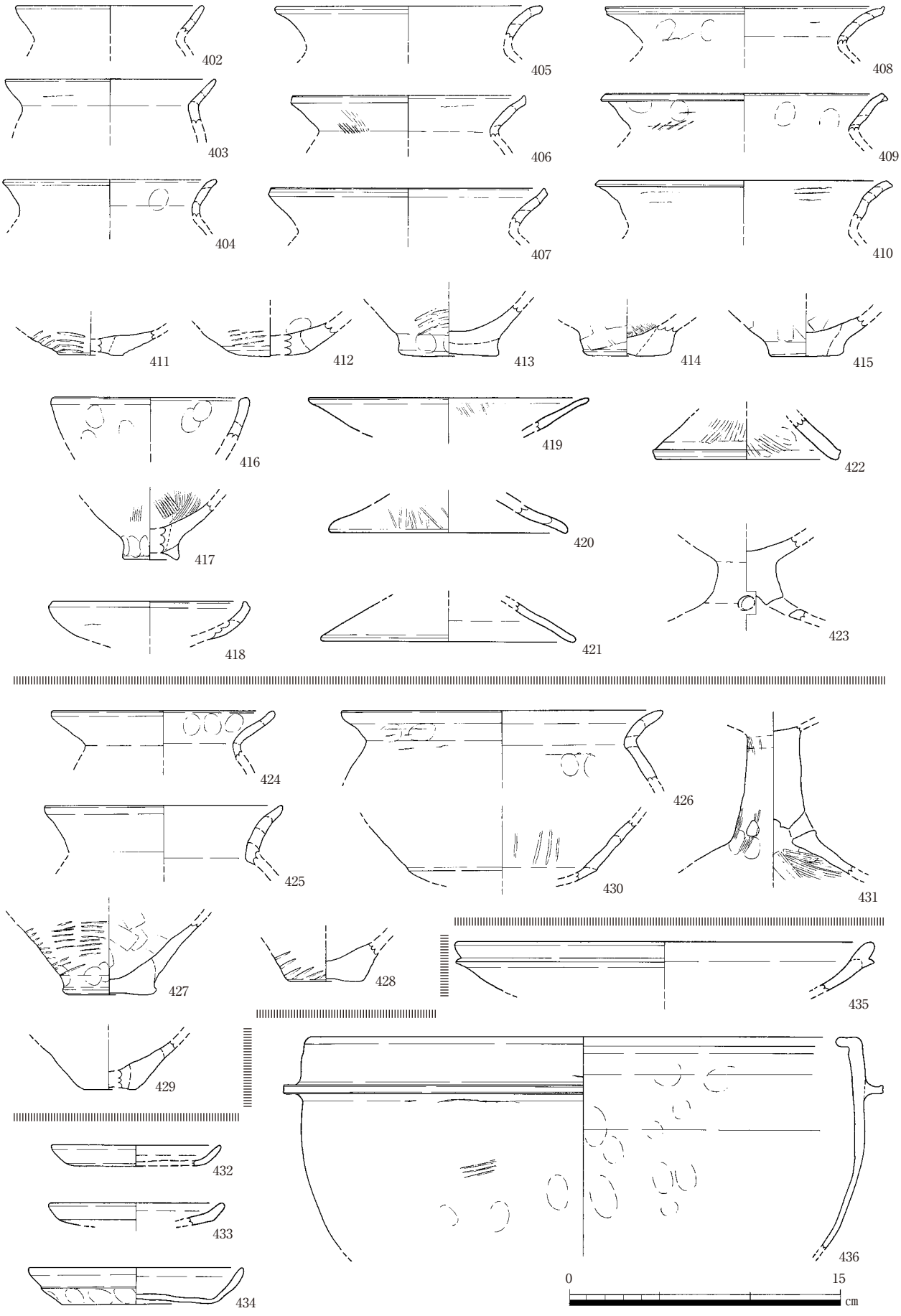


図119　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図11（１／３）
第 2 トレンチ：402～423 墳丘盛土内上層
第 4 トレンチ：424～431 墳丘盛土内上層　432～436 SX－1001

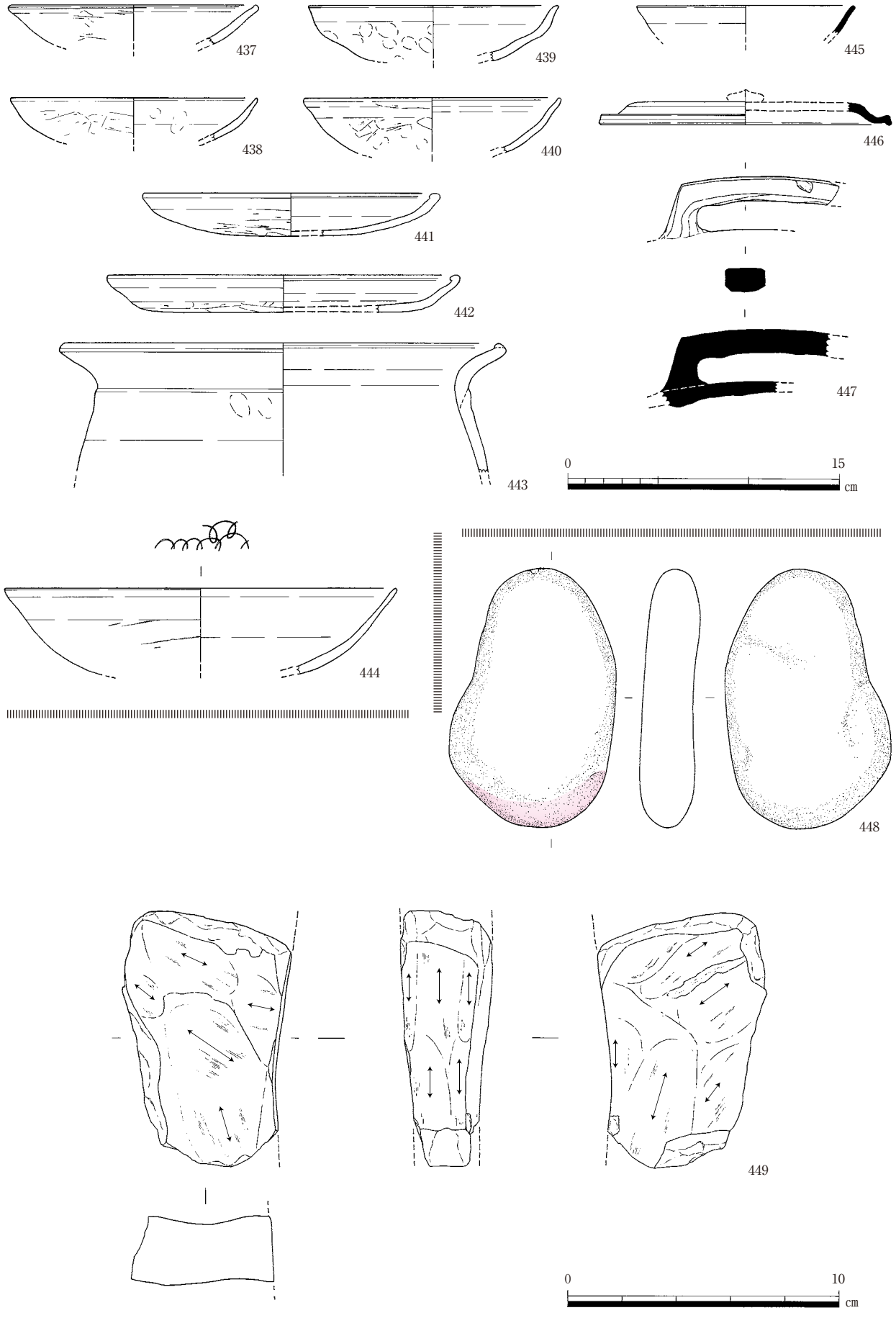


図120　纒向石塚古墳第 8 次調査出土遺物実測図12（437～447：１／３、448・449：１／２）
第 5 トレンチ：437～447 前方部南 周濠埋土最上層～上層
第 1 トレンチ：448 墳丘盛土内下層　449 墳丘盛土内上層

第11章　纒向石塚古墳第９次調査報告

(纒向遺跡第144次調査報告)

第１節　はじめに

第９次調査は纒向石塚古墳のクビレ部北東側における周濠外肩の形状を確認する目的で行われた。これまで、古墳の周濠の範囲確認調査は、墳丘の調査と併行して行われており、北側を中心にその範囲が確認されている。その中でも、クビレ部北東側付近の周濠の確認調査は、４－２・４トレンチ及び５－１・５・６トレンチで行われている。そのうち、４－２トレンチ及び５－５・６トレンチでは周濠

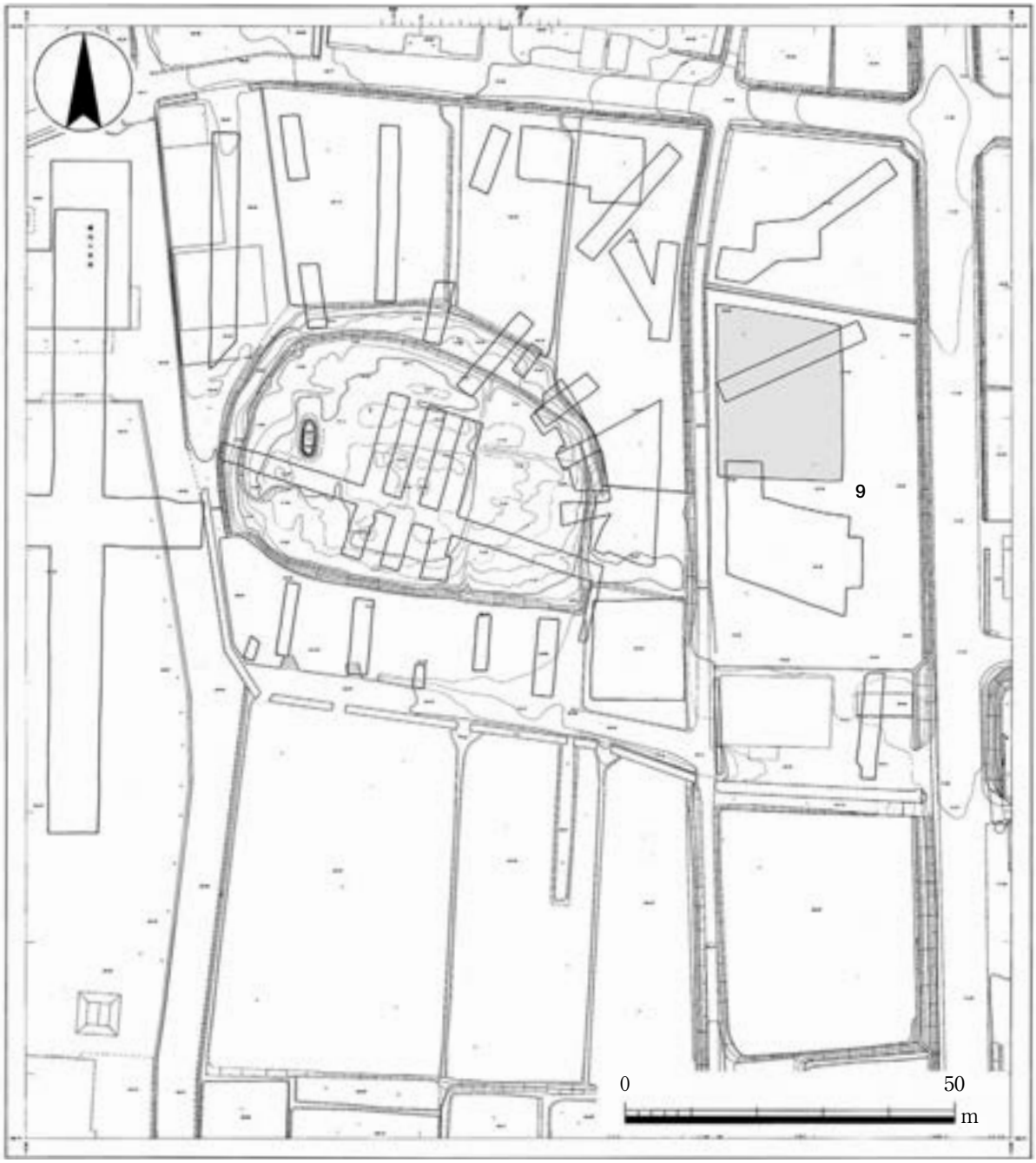


図121　纒向石塚古墳第９次調査地位置図（1/1,000）

と思われる落ち込みが検出された。これらの調査の成果から復元される周濠の形態は、後円部では墳丘に沿うように円形を描くが、クビレ部付近で外側に張り出す形となる形状が復元された（図156）。このような周濠の形状は類例もなく、非常に特異な形態となった。特に第４次調査では、遺構の保存も考慮され上面検出での確認にとどめられており、そのような状態で、長い期間（おそらく平安時代ごろまで）オープンな状態であった古墳の周濠を、上面検出のみで形態を確定するには、疑問が残ることとなった。

そのような理由で今回の調査は第４次調査の２及び４トレンチの間を面的に調査するように、東西19m及び南北は最大長26mの台形状をした計477㎡のトレンチを設定し、クビレ部付近の周濠の外側の形状を確定することを目標とした。調査期間は平成17年12月27日～平成18年３月31日で、３月25日には現地説明会を催している。

第２節　調査の成果

（１）検出された遺構

調査地は近年まで耕作が行われており、耕土が厚く堆積していた（層厚約70㎝）。まず、バックホーによりそれらを除去した。調査区の北東部分では標高70m付近で地山層である灰黄褐色粗粒砂層（図123－73層など）を確認した。この地山層は南西方向に向かって低く傾斜していることもあって、調査区の北西隅、南東隅、中央付近では標高約69.5mの高さになる。この地山層の標高の低くなっていく、調査区の中央付近から南西隅にかけては、中世～平安時代の遺物を含む包含層が、もっとも厚いところで約50㎝にわたって堆積していた。包含層は大きく分けて、褐色砂質土（15層など）と褐灰色シルト（31層など）の２層に分けることができ、このうち、この褐灰色シルト層の上面からは平安時代だと思われる遺構が多数検出されたため、遺構検出は褐灰シルト層上面と地山層上面で行った。

遺構検出を計２面で行った結果、本調査では大きく分けて近現代（第二次世界大戦時）、中世～平安時代、古墳時代中期後半、庄内～布留式期に属する遺構を検出した。今回の報告では、纒向石塚古墳に関連すると思われる古墳時代前期（庄内～布留式期）の遺構の報告を中心として、それ以外については、別途、正式報告することとして、概要にとどめたい。

１．太平洋戦争時の遺構（図124）

調査区北西隅で、現代耕作土を除去時に直径20cm前後の丸太材を使用した打ち込み杭24本が対角長約4.7mの規模をもち、ほぼ正十二角の形状で、規則的に並んだ状態でみつかった。杭の先端は斜めに切断された跡があり、農地として利用する際に耕作の妨げとなる部分を切断したと思われる。調査地周辺では、太平洋戦争末期に天理市の柳本飛行場から兵隊が来て対空用の高射砲陣地を設営したという話が残っており[1)]、今回検出した杭は対空砲火用の機銃などのコンクリート製の台座の基礎を支えるものであったと思われる。ただ、これに関連すると思われるコンクリート片などはみつかっておらず、実際にコンクリートが敷設されたかどうかは不明である。なお、高射砲陣地の跡は１－１トレンチでもコンクリートの基礎が確認されており[2)]、纒向石塚古墳の墳頂部も陣地設営のため削平されたといわ

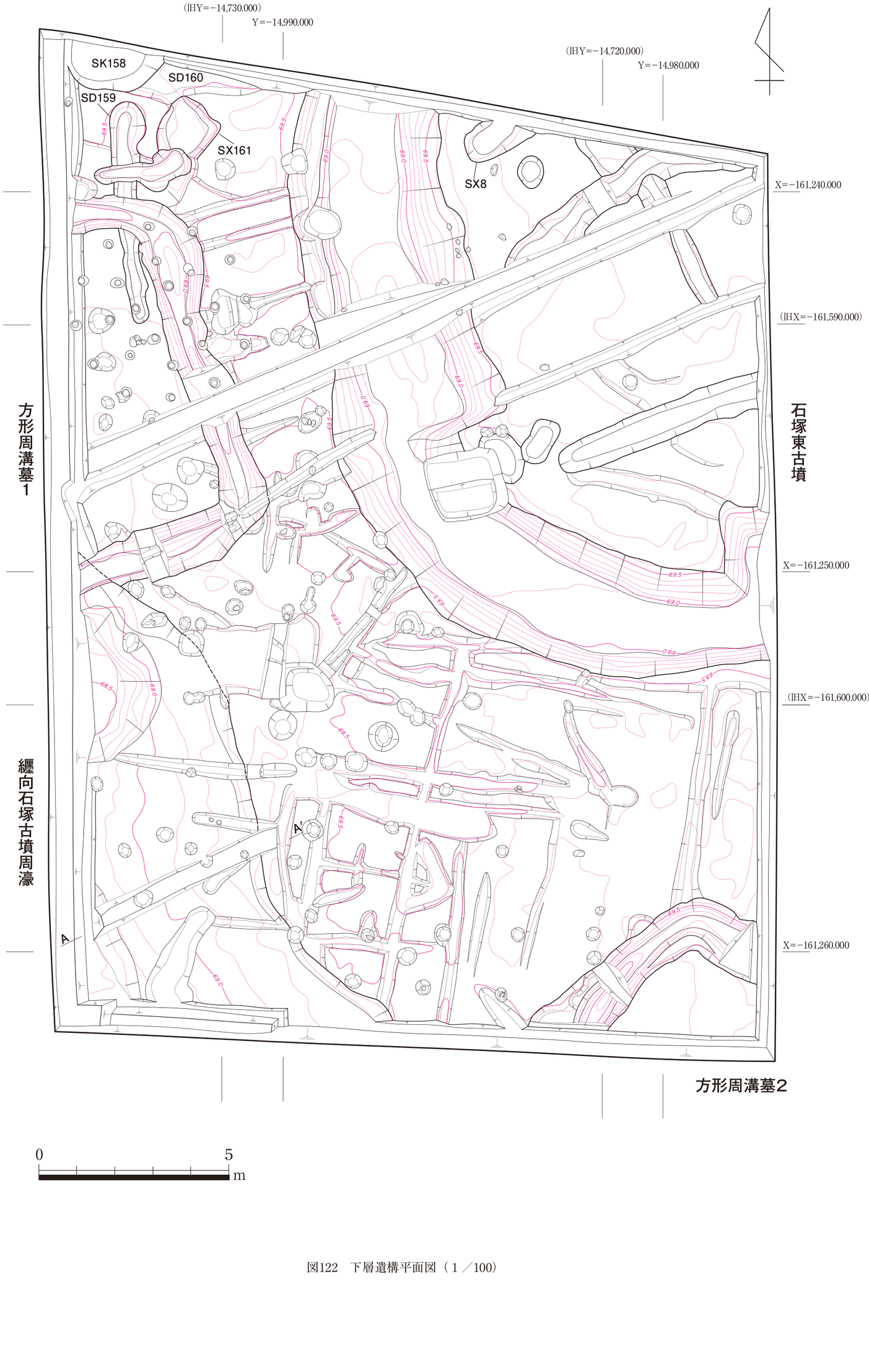
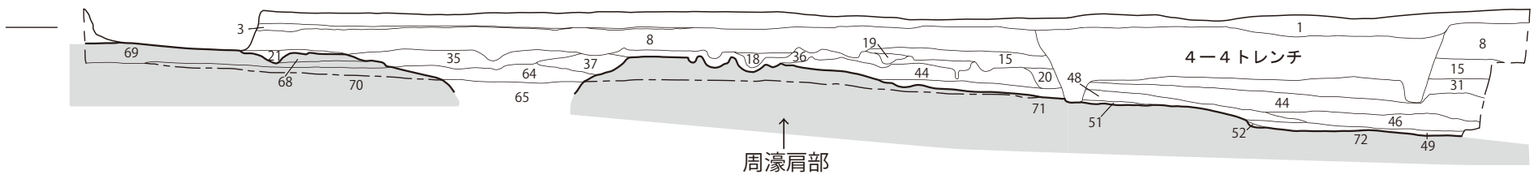


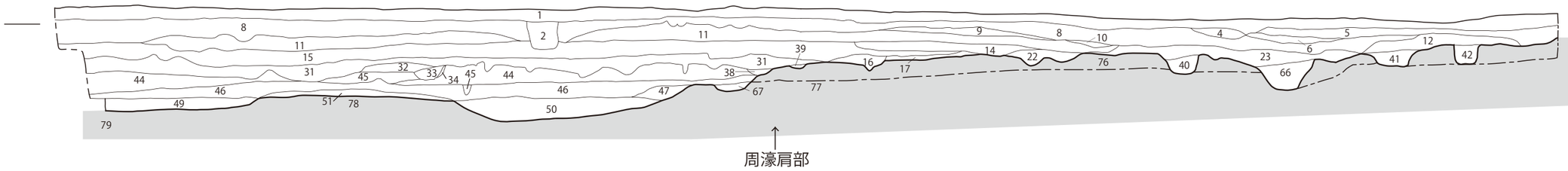
図122　下層遺構平面図（1／100）

南壁断面



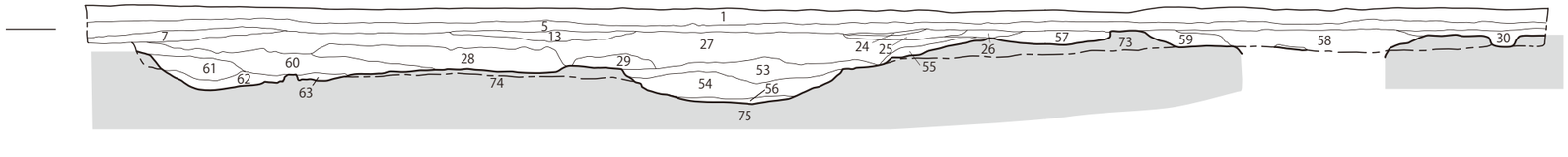
L＝70.00m

西壁断面



L＝70.00m

北壁断面



L＝70.00m

0　5 m

1　暗オリーブ灰（2.5Y4/1）土
2　黄橙（10YR7/8）シルト～砂質土（礫少量混じる）
3　橙（7.5YR6/8）土（鉄分）
4　褐灰（10YR5/1～4/1）シルト～粘質土（炭が多く混じる）
5　明黄褐（10YR7/8）～褐灰（10YR6/1）シルト～砂質土
6　褐灰（10YR5/1～4/1）シルト～粘質土（炭が混じる）
7　にぶい褐色（7.5YR5/4）砂質土
8　オリーブ灰（2.5GY4/1）土（鉄分沈着）
9　明黄褐（7.5YR5/6）砂質土（鉄分沈着）
10　黄橙（7.5YR5/8）砂質土
11　明黄褐（7.5YR5/8）砂質土（鉄分沈着）
12　明褐（7.5YR5/8）砂質土
13　灰白（7.5YR8/2）シルト～砂質土
14　にぶい黄（2.5Y6/4）シルト～砂質土
15　褐（7.5YR4/4）砂質土 ——— 包含層
16　褐灰（7.5YR4/1）～灰褐（7.5YR4/2）シルト
17　褐灰（8.5YR4/1）シルト～細粒砂
18　にぶい黄橙（10YR7/2）シルト～粘質土
19　褐灰（10YR6/1）シルト（鉄分沈着）
20　褐灰（10YR5/1）シルト～粘質土
21　褐灰（7.5YR4/1）シルト
22　にぶい黄橙（10YR7/2）シルト～粘質土
23　灰褐（7.5YR4/2）砂質土
24　浅黄（2.5Y7/3）シルト～砂質土
25　灰黄褐（10YR4/2）シルト～砂質土
26　灰黄褐（10YR4/2）シルト
27　灰黄（2.5Y7/2）シルト～砂質土（鉄分沈着）
28　灰黄褐（10YR4/2）シルト～砂質土
29　褐灰（7.5YR4/1）粗粒砂
30　にぶい黄（2.5Y6/4）シルト～細粒砂
31　褐灰（10YR4/1）～灰（N4/）シルト質砂質土（炭混じる）
32　褐灰（10YR4/1）～灰黄褐（10YR5/2）シルト
33　褐灰（10YR4/1）シルト
34　褐灰（10YR4/1）シルト（灰黄褐シルト混じる）
35　にぶい黄橙（10YR7/2）シルト～粘質土
36　灰黄褐（10YR5/2）シルト～粘質土
37　褐灰（10YR5/1）～灰黄褐（10YR5/2）シルト～粘質土
38　褐灰（7.5YR5/1）シルト～細粒砂
39　褐灰（7.5YR5/1）シルト～細粒砂
40　褐灰（10YR4/1）シルト～細粒砂
41　褐灰（10YR4/1）シルト～粘質土
42　灰黄褐（10YR4/1）シルト
43　灰黄褐（10YR5/2）シルト～粘質土
44　暗灰黄（2.5Y5/2）シルト質砂質土
45　暗灰黄（2.5Y5/2）シルト質砂質土
46　暗灰黄（2.5Y5/2）砂質土
47　灰（N4/1）細～中粒砂
48　灰（5Y6/1）シルト～細粒砂（小礫混じる）
49　暗青灰（10BG4/1）シルト～粘質土
50　暗青灰（10BG4/1）シルト～粘質土
51　黒褐（10YR3/1）粘質土に浅黄（2.5Y7/4）細粒砂
52　灰白（2.5GY8/1）粗粒砂
53　灰（N5/）シルト～粘質土
54　灰（N5/）粘土
55　灰黄褐（10YR4/2）砂に黒褐色ブロック混じる
56　灰黄褐（10YR4/2）砂
57　褐灰（10YR4/1）シルト ——— SX8埋土
58　にぶい黄（2.5Y6/3）シルト～砂質土
59　淡黄（2.5Y8/4）シルト～細粒砂
60　灰黄褐10YR4/2）シルト～砂質土 ——— SD160埋土
61　灰褐（7.5YR4/2）シルト
62　褐灰（10YR4/1）シルト～中粒砂
63　にぶい黄橙（10YR7/2）～褐灰（10YR6/1）シルト～中粒砂 — SX161埋土
64　灰褐（7.5YR4/2）シルト～粘質土
65　灰褐（7.5YR5/2）シルト
66　褐灰（10YR4/1）～灰黄褐（10YR4/2）シルト中粒砂
67　黒褐（10YR3/1）砂質土（径～1cm程度の礫混じる）
68　にぶい橙（7.5YR7/3）細～中粒砂
69　にぶい褐（7.5YR5/3）中粒砂
70　灰黄褐（10YR4/2）～黒褐（10YR3/2）シルト～粘土
71　黒褐（10YR3/1）粘土（黄色砂混じる）
72　暗青灰（10BG4/1）シルト～粘質土
73　灰黄褐粗砂～砂礫層
74　にぶい黄褐（10YR4/3）中粒～粗粒砂
75　灰黄（2.5Y7/2）砂礫層
76　灰褐砂礫層
77　にぶい黄褐（10YR4/3）中粒～粗粒砂
78　黒褐（10YR3/1）シルト～粘土
79　浅黄（5Y7/4）シルト～粘土

包含層1か
包含層2
現代耕作土に関連する堆積土
纒向石塚古墳周濠埋土
石塚東古墳周濠埋土
SK158埋土
方形周溝墓2埋土
方形周溝墓1埋土
地山

図123　調査区断面図（1／80）

れている。

2．中世～平安時代の遺構（図124）

包含層上面では、井戸２基と柱穴約120基、土坑、素掘溝などの遺構を検出している。

井戸２基のうちSE11は、一辺約1.8mの方形の井戸で、深さは検出面から約2.1mある。井戸枠などは残存していなかった。調査区南西に位置するSE163は、約1.5m×1.3mの楕円形の掘形で深さが約1.3mある。井戸の埋土から曲物が出土しているが、掘形の底から50㎝浮いた状態で出土しており、井戸枠として機能していたものではない。井戸枠として使用していたものか、もしくは他で不要になったものを廃棄したものだと思われる。曲物内やその周辺から土師器皿や横櫛が出土している。土師器皿の中には「吉」とみられる墨書が書かれているものもあった。出土土器から、９世紀後半～10世紀頃のものだと思われる。また、11世紀以降のものと考えられる柱穴を約120基検出した。この中から、少なくとも２棟の掘立柱建物と、塀または柵と考えられる柱列を約12m分確認している。柱列は建物の南北軸と平行に設置されており、２棟の掘立柱建物などに伴う柵列の可能性がある。平安時代に属する土器には時期幅があり古墳周辺では長い期間居住していたと思われる。遺構の詳細な時期については別途報告したい。

3．古墳時代中期後半の遺構（図122・125）

調査区北東では、平安時代の包含層を除去した段階で新たに古墳の周濠を確認した。墳丘は完全に削平されていたが、周濠の形状から、円丘に短小な突出部がとりつく帆立貝形古墳であったことがわかった。当該地に「塚東」という小字が残るため石塚東古墳と命名している。なお、第４次調査の第2トレンチで確認された纒向石塚古墳の周濠外肩と推定した落ち込みは、この石塚東古墳の墳丘側の周濠の肩であることが確認された。外肩が認識できなかったのは、地山層である淡黄褐灰色砂質土（図57－21層）までも纒向石塚古墳の周濠埋土と誤認したためだと思われる[3)]。

石塚東古墳周濠（図125） 周濠は幅２～４m、深さ0.5～0.8m程度で、周濠からは葺石に使用された石材と円筒埴輪などが多数出土している。石材は墳丘側からの崩落土に多く含まれ原位置を保っているものがないため、基底部には葺石はなく、墳丘１段目テラスより上から葺かれていたと思われる。一方、周濠外側からの流入土からは、円筒埴輪が多量に出土している。この層から出土した円筒埴輪は、完形に復元できる個体が多く、周濠外肩に並べてあったものが転落したものと思われる。周濠は比較的早く埋没したようで、埋土中に古墳時代を下る遺物は確認できていない。なお、墳丘部分にあたる場所では、瓦器が出土するような素掘溝が確認されておらず、周濠が完全に埋没した段階にはおそらく墳丘はまだ存在しており、大規模な削平は中世以降にうけたものと考えられる。

周濠から出土した遺物として、埴輪、須恵器・土師器などの土器類、木製品があげられる。円筒埴輪が大半を占めており、とくに前方部周濠の外側から転落したものは残存状況が非常に良い。その他では、朝顔形埴輪が確認できるが、形象埴輪と思われるものはみられなかった。土器はわずかであるが、須恵器、土師器が出土している。そのうち、廻がほぼ完形で出土しており、田辺編年のＴＫ23～47型式期[4)]にあたるものとみている。木製品は用途不明の木片も含め多数出土したが、古墳に樹立した

図124　包含層上面検出遺構（１／140）

図125　石塚東古墳周濠遺物出土状況（1／80）

と考えられるものとして笠形木製品と鳥形木製品が各１点ある。このほか、竪杵、櫂形や棒状の木製品などが出土している。５－１トレンチで石塚東古墳に関連する遺構が検出されていないことから、全長19m程度の墳丘が復元できる。纒向遺跡内では、近年の発掘調査により５世紀後半以降の古墳の様子が少しずつ明らかになってきた[5]が、今回みつかった石塚東古墳のように帆立貝形の墳丘形態や葺石を備える古墳は今まで確認されておらず、当時この地域でつくられた古墳の一様相を新たに示したといえるだろう。詳細な内容については別途報告を行いたい。

４．庄内～布留式期の遺構（図122・126～130）

３世紀代の遺構として当初の目的であった纒向石塚古墳の周濠をはじめとし、方形周溝墓と思われる溝や、土坑などが検出されている。主な遺構について詳述する。

纒向石塚古墳周濠　調査区の南西隅で南西方向に傾斜する落ち込みを長さ16mにわたって検出している。深さは検出面から調査区内の最深部まで約95㎝を測る。全体的になだらかな傾斜で、傾斜の角度は約８°～10°である。落ち込みの底は今回の調査区よりさらに西側にあるため、落ち込みの東側の傾斜面を検出したにすぎない。落ち込みの埋土は大きく３層に分かれ、上から順に暗灰黄シルト質砂質土（上層　図126－１層）及び暗灰黄砂質土（中層　２層）、黒褐粘質土（下層　３層）となる。上・中層からは平安時代と思われる土師器皿の小片が、下層からは須恵器の小片が出土している。しかしながら、いずれも数が少なく図化できないような破片のため堆積時期を明確に示すものではないが、おそらく、平安時代以降の堆積と思われる上・中層は過去の調査で検出されている最上層～上層に該当すると思われる[6]。良好な遺物には恵まれなかったが、落ち込みの外肩に明確な傾斜変換点があることや、４－４トレンチと５－５トレンチで検出されている周濠外側のラインをほぼ直線的に結んだ箇所に該当していることなどから、纒向石塚古墳の周濠の外肩にあたるものと認めて良いと思われる。そうした場合、纒向石塚古墳の周濠の形状は後円部では墳丘に沿うようにつくられ、クビレ部から前方部に向かって直線的に細くなる馬蹄形に近い形に復元することができる。

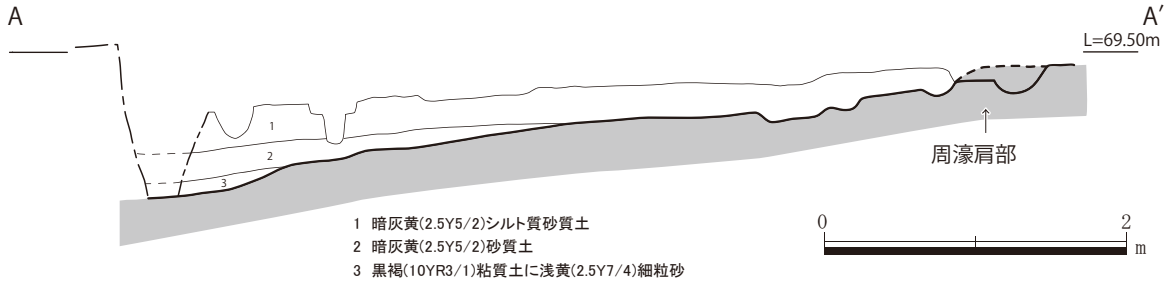


図126　纒向石塚古墳周濠横断面（１／50）

方形周溝墓１　調査区北西部で、「コ」の字状に溝を検出した。東辺は長さ約９ｍ分、北辺約1.5m分、南辺約４ｍ分検出した。南辺及び北辺の溝はさらに西へ続くようである。溝が方形に周ることが想定されることから、この溝は方形周溝墓に伴うものだと思われる。そうした場合、墳丘規模は一辺約7.8

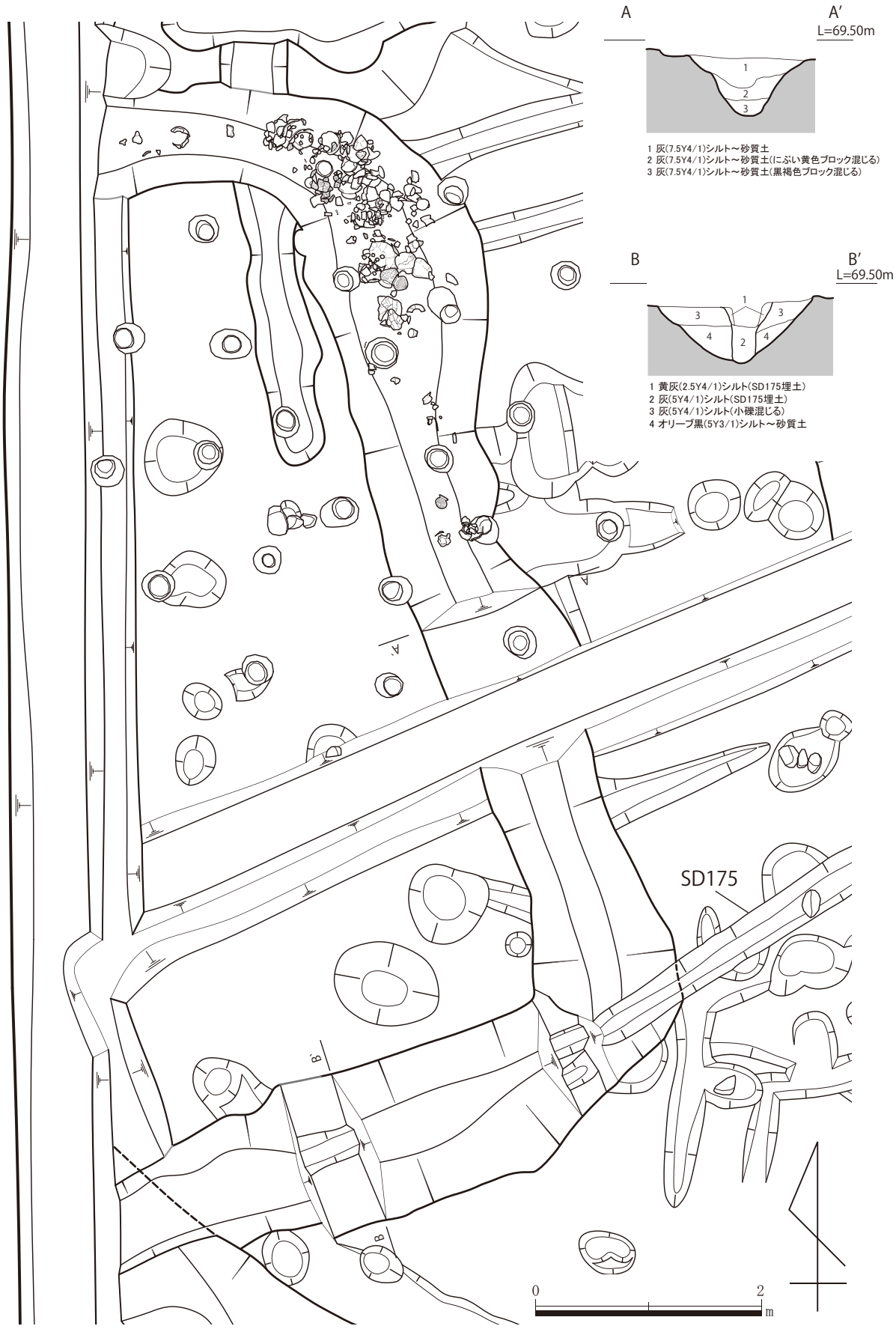


図127　方形周溝墓１　平面図及び断面図（１／50）

図128　方形周溝墓１　遺物出土状況（１／30）

mに復元できる。溝の規模は、幅0.9～1.8m、深さ0.3～0.4mである。北東隅付近の溝内から集中して土器が出土しているのが特徴的である。この土器群は、溝の検出面とほぼ同レベルから出土しはじめることから溝の上部は後世にある程度削平を受けているものと考えられる。溝の埋土は東辺で3層、南辺で2層に分層できるが、東辺の上層と中層は明確に区別できないところもあり、出土した土器も上・中層（図127－1・2）に集中していることから、上・中層の堆積時期の差などは考慮しなくてよいと思われる。一方、下層からの土器は非常に少ないことから、溝掘削後、下層が堆積したのち、土器が溝内に投棄されたのであろう。上・中層の土器群と下層の土器とのレベル差は10㎝程度ある。北東隅以外では、東辺の溝の中ほどに土器が少しみられるくらいで、南東隅付近や南辺の溝では破片を含めて遺物はほとんど出土していない。

出土した器種は、甕・壺が中心で、その他、器台・高坏・鉢などが出土している。高坏や器台の脚付の器種は北東隅の土器群の中でも北半にやや集中している。溝内から出土した土器は後述するように庄内3式期頃と思われ、溝の最終堆積もその時期であろう。また、南辺の溝の西側約1m分は纒向石塚古墳の周濠と思われる落ち込みの一部と重複しているが、落ち込みの上層が平安時代以降の堆積土のため、南辺の溝が当然のことながら落ち込みに切られる形となっている。

方形周溝墓2　調査区東南隅で「L」字状に溝を検出した。検出した長さは、西北辺約6.5m、北東辺約2.4m分である。溝の規模は、幅1.4m前後、深さは検出面から50～70㎝である。埋土は灰褐色シルトとほぼ同じ土質であるが、上下2層に分層できる。遺物はこの下層上面から上層にかけて出土しており、溝がある程度埋没した後で土器が投棄されたものと考えられる。西北の溝内からは、口縁を打ち欠いている甕の胴部が出土している。溝がL字状に曲がることや遺物の出土状況などから方形周溝墓と思われる。今回の調査区の南側で行われた4－4トレンチで、この溝の続きが検出されていないため、最大でも1辺5m前後の墳丘をもつ方形周溝墓と推測される。

その他の遺構　その他、土坑や溝状の遺構が多数見つかっている。その中でも調査区北東隅付近からは、比較的、出土遺物に恵まれた古墳時代前期を中心とした遺構が検出されている。SK158は直径1.4m、深さは検出面から約40㎝の円形の土坑である。この土坑の上には、SD160が存在しており、かなり上部は削平を受けたものと考えられる。埋土は上・下層の2つに分層することができ、上層の北半から、甕及び壺などの土器が比較的まとまって出土している。

SD159は幅0.4～0.8m、長さ約6m、深さ30㎝の溝状の遺構である。中央付近では方形周溝墓1の北辺の溝が通るが、遺構の切り合い及び出土土器からもSD159の方が新しい。溝の北端からは北近畿系と思われる高坏（図138－83）が出土している。また、溝の中ほどからも土器破片が集中して出土している。

SX161は長さ1.5m以上、最大幅約1.5m、深さ約40㎝の不定形な溝状の遺構である。南北両側は溝状の遺構（いずれも時期不明）に削平されており、本来の規模は不明である。埋土の上層（図130－1・2層）から甕、壺、鉢などの土器の小片が出土している。

上記に挙げた遺構以外では、平安時代の包含層がない北西周辺のものが特に所属時期を決めがたい。

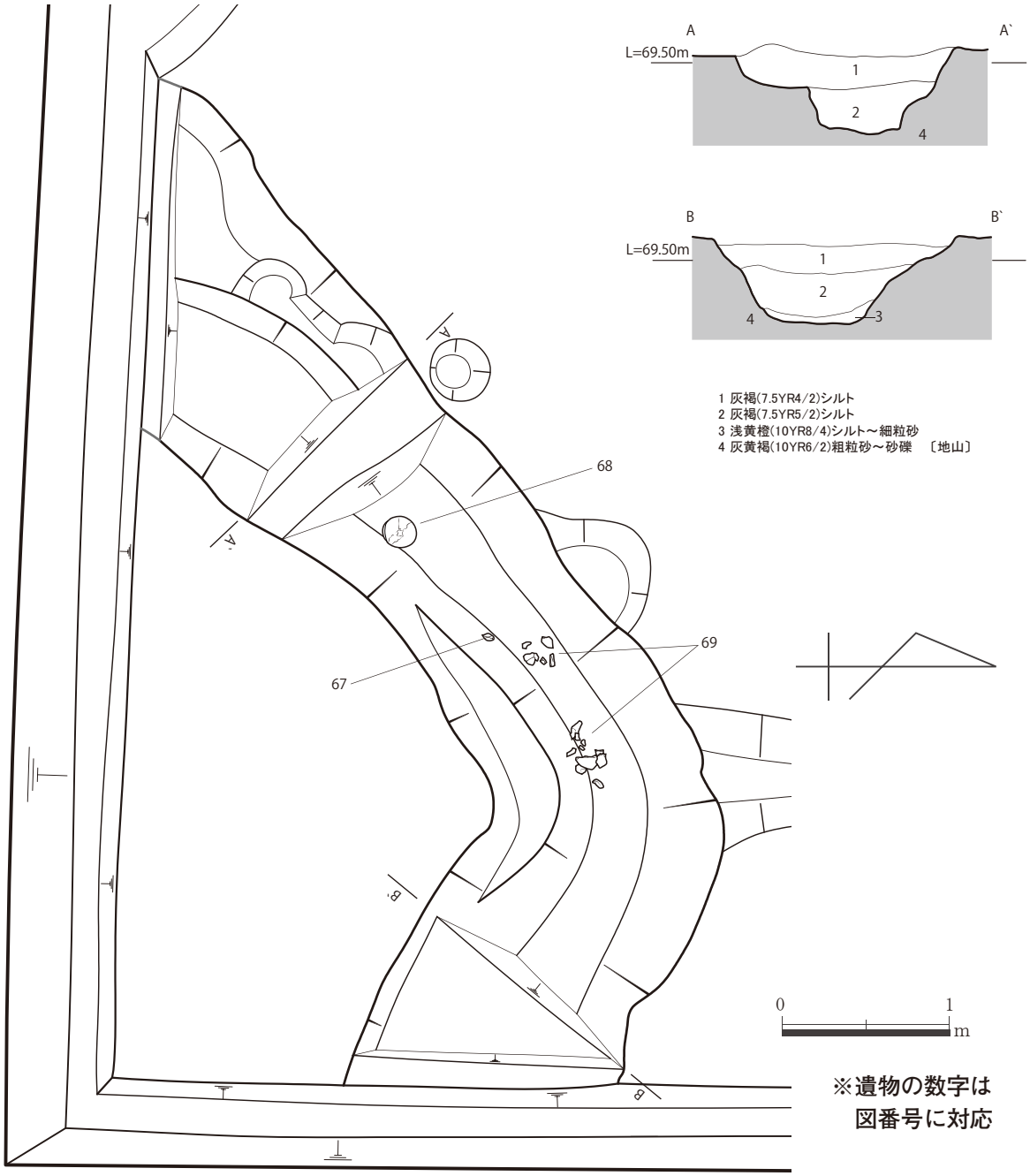


図129　方形周溝墓２　遺物出土状況及び断面図（１／40）

先述したように石塚東古墳の墳丘部分からは瓦器などが出土する中世の素掘溝とするものがみられないことから、石塚東古墳の墳丘が中世以降まで存在していたことも想定が可能である。そうした場合、墳丘部にある溝状の遺構などは、庄内～布留式期までさかのぼる可能性は残されるが、遺物がほとんど出土しなかったため時期は不明である。唯一、遺構の形状は不明であるが、SX8（図122）から小片が出土しており、図137で図示している。

（２）出土遺物

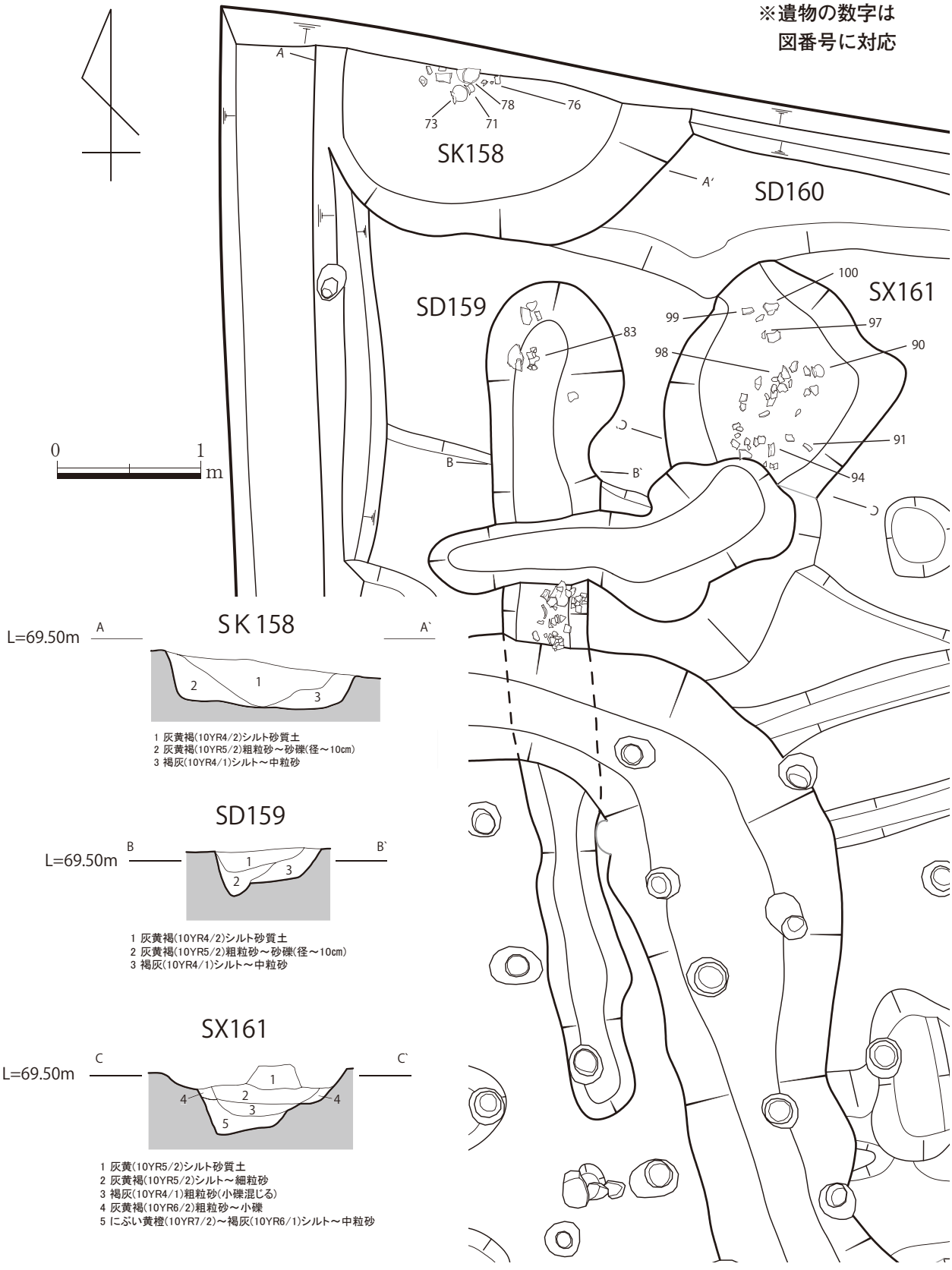


図130　SD159・SX161・SK158　平面図及び断面図　（1／40）

第９次調査ではコンテナケース約70箱の遺物が出土しているが、大半は古墳時代中期末ごろの石塚東古墳の円筒埴輪が占めている。今回報告する庄内～布留式期では方形周溝墓１からの出土量が一番多く、その概要を以下に述べていきたい。なお、各個体の詳細な法量、調整等は観察表（表93～101）を参照していただきたい。

方形周溝墓１　方形周溝墓１から出土した土器の大半は上・中層である。層位の状況や出土状況からも特に区別する必要はないと考える。下層からは遺物はほとんどなく、図示できたのは鉢１の１点のみである。その鉢１は内面の底部から口縁付近まで朱が一面に付着しており、朱が中に入れられたことが推察できる。上・中層から出土したもののうち、完形に近いものは５・８・11・13・14・17・20・21・42・43・45・47・48・56・57・64などである。しかしながら、溝の上部が後世に削平されたことを考慮しても、破片が多いことや、不自然にその一部を欠いている土器も多くみられることから、すべてのものが完形の状態で溝に廃棄されたわけではないと思われる。器種としては、鉢、壺、器台、高坏、甕など多様なものが出土しており、その中でも、甕が一番多い割合を占める。鉢は、小型で丸底の小形丸底鉢と呼ばれるもの１～４と、へこみ底をもつ鉢５、脚付の鉢６などがある。大型品の範疇に入るものは63と64である。５は口径18.1㎝で小型品と大型品の中間的な存在で、内外面に丁寧なミガキが施されているのが特徴である。壺は、器高が15㎝に満たない小型のものから、30㎝を越えるものも含まれる。その中でも61は複合口縁をもつもので、口縁部のみしか残存していないため全容は不明だが、大型のものになるであろう。比較的大型の壺の中では59が全体の約80％残存している。小形器台は４点図示している。すべて器高が10㎝に満たない小型のものである。４点のうち13のみが受部と脚部の接合部を孔で貫通させている。高坏は坏部が椀状のもの15、口縁部が外反するもの16、直線的なもの17・20・21などが出土しており、法量も器高が10㎝程度のものから15㎝を越えるものなど多様である。甕の大半は庄内形甕が占める。その他、弥生時代の第五様式の影響が残っているもの（42・57など）、東海系の影響を受けているもの（39～41）などがみられる。

方形周溝墓１から出土した土器は庄内式期のものが中心であり、その形態から新相段階のものだと思われる。ただし、甕のうち25は、口唇部がg手法で布留形甕の可能性が高く、新しい様相がみられる。ただ、図示していない破片資料でも、布留形の胴部破片は見られないことや、25が小片で溝の埋土の最上部から出土していることなどから、調査の過程で上部の層の堆積土を完全に除去できなかった可能性も残される。拙い調査手法により断定はできないが、一つの小片を根拠にするよりかは、全体の土器の様相から方形周溝墓の出土土器は、布留形甕を含まない庄内３式期頃と理解した方がよいと思われる。

方形周溝墓２　方形周溝墓１と比べ、出土遺物は非常に少ない。図示できるものは甕３点である。甕69は吉備系のもので、約80％残存している。体部の形状は肩がほとんど張らず、球形に近くなっている。68は、体部はほぼ完存しているが、口縁部はほとんど欠いている。外面は、刷毛目調整が行われたあと体部下半はケズリ調整をおこなうことや、体部の最大径が中心よりやや下半よりにあるなど在地でつくられる土器とは特徴が異なる。このように、出土量が少ないながらも特徴的な土器がみられ

る。在地の土器が少なく時期の判断は難しいが、69の特徴などから、布留０式期併行のものと考えられる。

その他の遺構から出土した土器　方形周溝墓以外では、調査区の北西隅で検出した遺構からの出土土器が比較的多い。ＳＤ158から出土した土器のうち71・73は完形に近い形で出土している。72は瓢形壺の形状をしており、東海系の影響をうけたものであろうか。底部に凹みがあり脚部を接合した跡がある。その他、高坏、壺、器台の破片が出土しているが、いずれも小片である。布留形甕がみられることから、布留０式期のものだと思われる。

ＳＤ159から出土した土器は全体的に小片が多い中で、83のみ全体の90％残存している。83は脚台付の高杯で、北近畿やその周辺の影響が考えられるものである。その他では小片であるが東海系の甕の口縁などが出土している。小片が多いため時期の判別は難しいが、布留形甕などが含まれ布留０式期だと思われる。

ＳＸ161から出土したものでは90がほぼ完形に復元できたほかは小片が多い。甕は布留形甕が主体となる。その他の遺構では、出土量が極端に少なく遺構の時期判定としてはこころもとないが、本調査でよく見られる円筒埴輪や平安時代のものが出土していないＳＸ８やＳＤ160などが古墳時代前期に属する可能性がある。いずれも布留式期に属する遺物が出土している。

このように今回の調査では、庄内３式期の土器が出土している方形周溝墓１以外は、布留式期に属する遺物が中心となる。

第３節　小結－第９次調査の成果－

今回の調査では、太平洋戦争中のものから古墳時代前期まで、それぞれの時代で、予想外の大きな成果を得る事ができた。本報告ではその中でも当初の目的であった纒向石塚古墳の周濠に関わる落ち込みとそれに近接する方形周溝墓についてまとめることにしたい。

纒向石塚古墳周濠　今回検出した纒向石塚古墳の周濠外肩の平面形と過去の調査成果と合わせて考えると、馬蹄形に近い形に復元できた（図157）。今回検出した周濠の最深部は標高68.7ｍ付近で、４－４トレンチで検出されているクビレ部付近の周濠底（標高67.3ｍ）と、約1.2ｍの比高差がある。今回調査範囲とした周濠外肩の傾斜角が10°前後の非常に緩やかなものであるが、この比高差を考えると墳丘に近づくに従って、傾斜がきついものとなりさらに周濠の落ち込みは明確なものになると思われる。纒向石塚古墳の周濠は、おそらく墳丘盛土のための土取りや墳丘範囲の明確化の要素が強く[7]、箸墓古墳の周堤などにみられるような周濠そのものを整備するといった意識は低いと思われる。ただ、後円部に大規模な周濠を持ち、前方部を区画溝的な周濠で陸部と切断していることや、馬蹄形に近い形を整えているということは前段階のものより、後の大型前方後円墳がもつ整備された「周濠」に近づくものと位置づけることができよう[8]。各地域の発生期の前方後円墳を比較する場合、これまでどちらかといえば墳丘の形状中心に研究が進んできたわけだが、今後、周濠の形状や構造も含めて検討する必要があるだろう。

方形周溝墓　もう一つの成果として、纒向石塚古墳に近接した形で、方形周溝墓だと考える遺構が2基検出されている。特に、方形周溝墓1からは庄内3式期だと思われる多量の土器が出土している。纒向石塚古墳の周濠と重複しているため、その先後関係をつかめれば纒向石塚古墳の上限がおさえられる可能性があった。しかしながら、前述したように平安時代頃まで落ち込みとして存在していた事を示す纒向石塚古墳周濠の最上層が、方形周溝墓の溝の上に堆積しているという結果を得ただけで、築造当初の前後関係は土層の堆積状況からは判断できなかった[10)]。一方、方形周溝墓2に関しては4－4トレンチからその溝が検出されていないことなどから、周濠とは重ならない。方形周溝墓の主軸の方向を見れば、周濠の外肩のラインと平行しており、周濠を意識して築造されたようにみえる。また、出土土器は布留0式期と思われ、このことからも纒向石塚古墳の築造後に構築された可能性が高い。

これまで方形周溝墓をはじめとした小規模墳墓は、纒向遺跡の居住域である微高地の縁辺部を中心に検出されたものが多く、遺跡そのものの外縁部に築かれている前方後円墳と墓域が異なることが指摘されてきた。一方、前方後円墳に近接して築かれた小規模墳墓の例は東田大塚古墳周濠肩部の土器棺墓などで、この二者の立地のあり方の違いは前方後円墳の被葬者との関係の違いを表しているのだと考えられている[11)]。今回の調査では、全長100mに近い規模の古墳に隣接した形で方形周溝墓が初めて検出されたが、そのうち、方形周溝墓2に関しては纒向石塚古墳よりも後出する可能性が高く、古墳の被葬者に対して従属的な性格を考えることも可能であろう。一方、方形周溝墓1に関してはその先後関係の結果によって、纒向石塚古墳の被葬者との関係は異なる可能性があり、慎重な評価が必要になるであろう。これらの遺構の状況は、纒向石塚古墳の築造年代を含めて大きな課題である。

（丹羽）

【註記】

1）以下の文献によれば、調査地周辺に12センチ高角砲6門あったと記されている。
高野眞幸「太平洋戦争と天理」『山辺の歴史と文化』天理大学文学部編 2006

2）石野博信・関川尚功『纒向』桜井市教育委員会 1976

3）本書第6章を参照。

4）田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981

5）近隣の5世紀後半以降の古墳として、ヤナイタ古墳群、トリイノ前古墳、勝山東古墳、高塚古墳群、堀川古墳などがあげられる。
橋本輝彦『纒向へいこう!』桜井市立埋蔵文化財センター 2003

6）本書第6章を参照。

7）これまでの調査において確認されているように、後円部と周濠の前方部の幅や深さの規模が異なっている。これらは、後円部に比べ、前方部は低いため、後円部と前方部では、大きく盛土量が異なるものが原因であろう。周濠掘削する上で、一瀬氏がいうように、後円部と前方部の集合は、異なった原理で掘られているのかもしれない。おそらく、クビレ部付近で、周濠の規模が変化すると思われる。
一瀬和夫「前方後円形墳丘の周溝掘削パターンと区画性－前方後円形成立に関する覚え書き－」『古代学研究』112 古代学研究会1986
一瀬和夫「周濠」『古墳時代の研究』第7巻　雄山閣 1992

8）福辻氏の指摘するように今回検出された落ち込みや纒向石塚古墳でこれまで確認された「周濠」は「土取り」の跡であって、一瀬氏（註7）文献）の定義されたような「周濠」が未成立の段階のもので、「周濠」と呼ぶのは適切ではない可能性がある。既往の調査と混乱が生じないように、便宜的に周濠という表現を用いる。今後、定義の問題を含めて検討したい。
福辻淳「纒向遺跡第142次発掘調査報告」『桜井市平成16年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会 2005

10）方形周溝墓１の規模（１辺８ｍ前後）を考えると、南西側の墳丘は明らかに纒向石塚古墳の周濠内に復元することになる。方形周溝墓１の築造が古墳より後出するものであるならば、周濠に造り付けるように築造され、その平面形もいびつなものであったと想定しなければならず、素直にみれば纒向石塚古墳の周濠を掘削する際に削平されたと考えられる。断面で検証できない以上、早急な結論は差し控えるべきだが、方形周溝墓１の扱いは、纒向石塚古墳の築造年代を検討する上でも、一つの重要な要素となる。

11）橋本輝彦「纒向遺跡の墳墓について～小規模な埋葬施設の検討から」『東田大塚古墳』（財）桜井市文化財協会 2006

表93　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（1）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法						色調	備考
					口縁部		体部		底部（脚部）			
131—1 138—1	方形周溝墓1 北東隅下層	小形丸底鉢	Ⅰ－A_1－a	C：9.8	O．スリナデヨコⅠB i．スリナデヨコⅠB	多/cm 多/cm	O．スリナデタテⅠAa i．ケズリA	8/cm	O．スリナデタテⅠAa i．スリナデタテⅠAa	8/cm 10/cm	O．7.5YR6/6橙 ～7.5YR6/4にぶい橙 i．5YR6/6橙	・外面にスス付着 ・内面に朱塗布
131—2 138—2	方形周溝墓1 南溝	小形丸底鉢	Ⅰ－A_2－a	C：(9.6) H：7.5	O．スリナデナナメⅠAa i．スリナデヨコⅠCa	10/cm	O．スリナデナナメⅠAa i．押捺A→スリナデⅠAb	10/cm	O．右上がりタタキ→スリナデタテⅠAa i．押捺A→スリナデⅠAb	40/CM 5/cm	O．7.5YR5/3にぶい褐 ～N3/暗灰 i．7.5YR5/3にぶい褐	
131—3 146—3	方形周溝墓1 東溝	小形丸底鉢	Ⅱ－A_1－b	C：(9.0)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．マメツ不明 i．ケズリA				O．10YR4/2灰黄褐 i．10YR3/1黒褐	
131—4 138—4	方形周溝墓1 東溝	小形丸底鉢	Ⅱ－A_1－a	C：10.4 H：5.6	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．ミガキAヨコ i．マメツ不明		O．ケズリA i．マメツ不明		O．7.5YR7/4にぶい橙 ～5YR6/6橙 i．7.5YR7/4にぶい橙	
131—5 138—5	方形周溝墓2 北東隅	鉢	Ⅱ－E_2－a	C：18.1 H：8.9 B：2.5	O．スリナデヨコⅠCa→ミガキAヨコ i．ミガキAヨコ		O．スリナデナナメⅠAa→ミガキAタテ i．スリナデナナメⅠAa→ミガキAヨコ	5/cm 8/cm	O．ミガキAタテ i．ミガキAタテ		7.5YR7/6橙	
131—6 138—6	方形周溝墓1 東溝	底部（鉢）	1－B－・	B：5.0			O．押捺A i．押捺A→スリナデⅠAb		O．押捺A i．押捺A		O．10YR6/3にぶい黄橙 ～N3/暗灰 i．10YR6/2灰黄褐	
131—7 146—7	方形周溝墓1 東溝	底部（甕Y）	3－C－・	B：3.0					O．スリナデタテⅠAa i．スリナデタテⅠAb	8/cm	10YR4/2灰黄褐	・外面にスス付着
131—8 138—8	方形周溝墓1 北東隅	壷	T－A_2－a	C：9.8 H：11.1 W：13.5	O．スリナデヨコⅠCa→ミガキAタテ i．スリナデヨコⅠAa→ミガキAヨコ	5/cm	O．（肩）スリナデタテⅠAb （胴）スリナデⅠC i．スリナデヨコⅠCa		O．スリナデⅠCa i．押捺A→スリナデⅠCa		O．10YR7/4にぶい黄橙 ～5YR5/6明赤褐～N2/黒 i．10YR7/4にぶい黄橙	
131—9 138—9	方形周溝墓1 北東隅	壷	T－A_1－a	C：(6.6) W：(13.6)	O．スリナデヨコⅠC i．スリナデヨコⅠCa		O．ミガキA i．押捺A→スリナデⅠCa		O．押捺A→マメツ不明 i．押捺A→スリナデⅠCa		O．10YR7/3にぶい黄橙 ～5YR5/6明赤褐 ～N2/黒 i．7.5YR6/4にぶい橙 ～7.5YR4/2灰褐	
131—10 138—10	方形周溝墓1 北東隅	壷	C－・－・	W：16.3			O．マメツ不明 i．スリナデタテⅠCa		O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．5YR5/4にぶい赤褐 ～5YR6/4にぶい橙 i．N4/灰	・外面にスス付着
131—11 138—11	方形周溝墓1 東溝	小形器台	Ⅱ－C_3－a	C：9.0 H：8.2 B：10.2	O．ミガキAヨコ i．ミガキAヨコ		O．ケズリA→ミガキAヨコ i．ミガキAヨコ		O．（上半）ケズリAタテ→ミガキAヨコ （下半）ミガキAヨコ i．スリナデヨコⅠAa	10/cm	O．5YR5/6明赤褐 i．7.5YR6/3にぶい褐	・4方スカシ

表94　纒向石塚古墳第９次調査出土遺物観察表（２）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） ｃｍ	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
131—12 138—12	方形周溝墓１ 北東隅	脚台 （小形器台）	Ⅱ－・－・	Ｂ：12.0					Ｏ．ミガキＡヨコ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．5Ｙ Ｒ5/4にぶい赤褐 ～N3/暗灰 ｉ．5Ｙ Ｒ5/4にぶい赤褐	
131—13 138—13	方形周溝墓１ 北東隅	小形 器台	Ⅰ－C_2－ｂ	Ｃ：10.2 Ｈ：9.1 Ｂ：10.6	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		5Ｙ Ｒ5/6明赤褐 ～5Ｙ Ｒ6/3にぶい橙	・３方スカシ
131—14 138—14	方形周溝墓１ 北東隅	小形 器台	Ⅱ－C_3－ａ	Ｃ：8.9 Ｈ：8.6 Ｂ：13.0	Ｏ．ミガキＡ ｉ．マメツ不明		Ｏ．ミガキＡ ｉ．マメツ不明		Ｏ．ミガキＡヨコ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	9/cm	5Ｙ Ｒ5/4にぶい赤褐	・４方スカシ
131—15 146—15	方形周溝墓１ 東溝	高坏		Ｃ：（12.8）	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡヨコ ｉ．ミガキＡヨコ		Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡタテ				5Ｙ Ｒ5/6明赤褐 ～10Ｙ Ｒ6/3にぶい黄橙 ～7.5Ｙ Ｒ5/2灰褐	
131—16 146—16	方形周溝墓１ 北東隅	高坏	Ｂ$_4$－・－・－・	Ｃ：（21.0）	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明				10Ｙ Ｒ7/4にぶい黄橙	
131—17 138—17	方形周溝墓１ 北東隅	高坏	Ｂ$_4$－１－Ａ－ｃ	Ｃ：14.0 Ｈ：11.2 Ｂ：9.4	Ｏ．スリナデタテＩＡａ→ ミガキＡヨコ→ ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＢ→ ミガキＡタテ	10/cm 多/cm	Ｏ．ケズリＡ ｉ．ミガキＡタテ		Ｏ．（上半）ケズリＡ→ ミガキＡヨコ （下半）スリナデタテＩＡａ→ ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	10/cm 10/cm	5Ｙ Ｒ5/6明赤褐	・２方スカシ
131—18 138—18	方形周溝墓１ 北東隅	脚台 （高坏）	１－Ａ－ｃ	Ｂ：14.4					Ｏ．（上半）ケズリＡ→ スリナデタテＩＡａ→ ミガキＡヨコ （下半）ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	10/cm 10/cm	5Ｙ Ｒ6/6橙	
131—19 138—19	方形周溝墓１ 北東隅	脚台 （高坏）	４－Ｂ－ａ	—					Ｏ．ケズリＡ→マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．7.5Ｙ Ｒ5/4にぶい褐 ｉ．7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙	
131—20 138—20	方形周溝墓１ 北東隅	高坏	Ｂ$_5$－２－Ａ－ｃ	Ｃ：17.3 Ｈ：11.4 Ｂ：11.7	Ｏ．スリナデタテＩＡａ ｉ．ミガキＡタテ	6/cm	Ｏ．スリナデタテＩＡａ ｉ．ミガキＡタテ	6/cm	Ｏ．（上半）ケズリＡ→ ミガキＡヨコ （下半）スリナデタテＩＡａ →ミガキＡタテ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	10/cm 10/cm	7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙 ～5Ｙ Ｒ6/6橙～N3/暗灰	・２方スカシ
131—21 139—21	方形周溝墓１ 北東隅	高坏	Ｂ$_5$－４－Ａ－・	Ｃ：22.8 Ｈ：16.4 Ｂ：14.2	Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．ミガキＡタテ		Ｏ．ミガキＡタテ ｉ．スリナデＩＣａ		Ｏ．（上半）ケズリＡ→ ミガキＡヨコ （下半）ミガキＡタテ （端）スリナデナナメＩＡａ ｉ．スリナデＩＡａ	6/cm 6/cm	Ｏ．5Ｙ Ｒ6/6橙 ｉ． （坏）10Ｙ Ｒ6/4にぶい黄橙 ～2.5Ｙ3/1黒褐 （脚）5Ｙ Ｒ6/6橙	・３方スカシ
132—22 146—22	方形周溝墓１ 北溝	甕	近江形 受口状口縁甕	Ｃ：（13.0）	Ｏ．（口唇）スリナデヨコＩＣａ （口頸）右上がりタタキ→ スリナデタテＩＡａ ｉ．マメツ不明	40/CM 8/cm					7.5Ｙ Ｒ5/3にぶい褐	・近江系

表95　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（3）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
132—23 146—23	方形周溝墓1	甕 SY	Ⅱ－C－b	C：(12.6)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．マメツ不明 i．ケズリA				O．10YR6/3にぶい黄橙 i．10YR6/4にぶい黄橙	
132—24 146—24	方形周溝墓1 東溝	壷	T－A_1－b	C：(16.4)	O．(口唇) 刻目 スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．ハクリ不明 i．ケズリA→ スリナデヨコⅠCa				5YR5/4にぶい赤褐 ～5YR5/6明赤褐	
132—25 146—25	方形周溝墓1 北東隅	甕 F	Ⅰ－C－5g	C：(16.8)	O．マメツ不明 i．スリナデヨコⅠCa		O．スリナデタテⅠAa i．ケズリA	8/cm			7.5YR7/3にぶい橙 ～7.5YR7/4にぶい橙	
132—26 146—26	方形周溝墓1 東溝	甕 Y	Ⅰ－・－・b	C：(19.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明		O．不明 i．マメツ不明				O．10YR6/3にぶい黄橙 i．7.5YR6/4にぶい橙	
132—27 146—27	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅱ－C－・d	C：(15.6)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠAb		O．タタキ i．ケズリA	40/CM			O．10YR6/1褐灰 ～N4/灰 i．10YR6/2灰黄褐 ～10YR6/3にぶい黄橙	
132—28 146—28	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅱ－C－・d	C：(14.0)	O．スリナデヨコⅠB i．スリナデヨコⅠCa	多/cm	O．タタキ i．ケズリA	40/CM			7.5YR6/4にぶい橙	
132—29 139—29	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅱ－C－5e_1	C：16.0	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．マメツ不明 i．ケズリA				7.5YR6/4にぶい橙	
132—30 146—30	方形周溝墓1 北溝	甕 Y	Ⅰ－C－・a	C：(16.2)	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．左上がりタタキ i．ケズリA	50/CM			O．7.5YR7/6橙 ～7.5YR7/3にぶい橙 i．10YR7/2にぶい黄橙	
132—31 146—31	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅰ－C－5e_1	C：(15.6)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．スリナデタテⅠAa→ スリナデヨコⅠAa i．ケズリA	6/cm 6/cm			7.5YR7/6橙	
132—32 139—32	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅰ－C－・d	C：(15.0)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．左上がりタタキ→ スリナデタテⅠCa i．ケズリA	40/CM			O．7.5YR6/3にぶい褐 ～7.5YR4/2灰褐 i．7.5YR6/4にぶい橙	・外面にススト付着
132—33 146—33	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅱ－C－・a	C：(13.0)	O．スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明		O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM			10YR6/3にぶい黄橙	

表96　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（4）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法						色調	備考
					口縁部		体部		底部（脚部）			
132—34 139—34	方形周溝墓1 東溝	甕 SK	Ⅰ－C－・d	C：(17.4)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．右上がりタタキ i．ケズリA	60/CM			O．7.5YR5/3にぶい褐 ～7.5YR5/4にぶい褐 i．7.5YR6/3にぶい褐	
132—35 139—35	方形周溝墓2 北溝	甕 SY	Ⅰ－C－・d	C：(15.8)	O．左上がりタタキ→ スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa	30/CM	O．左上がりタタキ i．ケズリA	30/CM			O．7.5YR7/4にぶい橙 ～5Y5/1灰 i．10YR6/2灰黄褐 ～5Y5/1灰	
132—36 146—36	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅰ－C－・a	C：(17.6)	O．左上がりタタキ→ スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa	40/CM	O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM			O．7.5YR5/4にぶい褐 i．10YR6/2灰黄褐 ～N3/暗灰	
132—37 139—37	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅱ－C－・e_1	C：(14.8)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM			7.5YR6/4にぶい橙 ～7.5YR4/1褐灰 ～5YR5/2灰褐	・外面にスス付着
132—38 139—38	方形周溝墓1 北東隅	甕 Y	Ⅰ－C－5e_1	C：13.4	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠAa	7/cm	O．スリナデタテⅠAa i．ケズリA	5/cm			7.5YR6/4にぶい橙 ～7.5YR4/1褐灰	・外面にスス付着
132—39 139—39	方形周溝墓1 東溝	甕	Ⅰ－C－・d	C：(13.2)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．スリナデタテⅠAa i．押捺A→ケズリA				O．7.5YR6/3にぶい褐 ～7.5YR3/1黒褐 i．7.5YR6/3にぶい褐	・外面にスス付着
132—40 139—40	方形周溝墓1 北東隅	脚台 （甕）	東海形 S字口縁甕	—					O．スリナデタテⅠAa i．（甕）スリナデナナメⅠAa （脚）押捺A	4/cm 6/cm	O．7.5YR7/4にぶい橙 ～10YR7/2にぶい黄橙 ～10YR6/2灰黄褐 i．10YR6/2灰黄褐 ～10YR5/2灰黄褐	・東海系
132—41 139—41	方形周溝墓1 北東隅	脚台 （甕）	東海形 S字口縁甕	B：7.6					O．スリナデタテⅠAa i．押捺A	5/cm	O．5YR6/4にぶい橙 ～7.5YR4/3褐 i．10YR6/2灰黄褐	・東海系
133—42 139—42	方形周溝墓1 北東隅	甕 Y	Ⅲ－C－1a	C：12.6 H：9.6 B：3.6	O．スリナデタテⅠAa→ スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠAa→ スリナデヨコⅠCa	4/cm 4/cm	O．右上がりタタキ→ スリナデⅠCa i．ケズリA	30/CM	O．右上がりタタキ i．ケズリA	30/CM	O．7.5YR6/4にぶい橙 ～7.5YR4/1褐灰 i．7.5YR6/4にぶい橙	
133—43 139—43	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅲ－C－1d	C：11.7 H：11.9 W：12.3	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデナナメⅠAb		O．左上がりタタキ i．ケズリA	50/CM	O．左上がりタタキ→ スリナデタテⅠAa i．ケズリA	50/CM 8/cm	O．5YR6/6橙～N2/黒 i．5YR6/6橙	
133—44 139—44	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅱ－C－4・	W：15.4			O．右上がりタタキ→ スリナデタテⅠAa i．ケズリA	8/cm			O．5YR5/4にぶい赤褐 ～5YR4/1褐灰 i．5YR6/4にぶい橙 ～5YR4/1褐灰	・外面にスス付着

表97　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（5）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法						色調	備考
					口縁部		体部		底部（脚部）			
133—45 140—45	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅱ－C－1c	C：14.5 H：15.4 W：15.4	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	30/CM	O．左上がりタタキ i．ケズリA	30/CM	O．10YR5/1褐灰 ～10YR4/3にぶい黄褐 （底）10YR3/3暗褐 i．2.5Y4/1黄灰 ～2.5Y3/1黒褐	・体部に1ヶ所穿孔有 焼成後穿孔（外→内）
133—46 140—46	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅱ－C－4e1	C：(14.2) H：16.1 W：16.1	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	40/CM 4/cm	O．左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．押捺A→ケズリA	40/CM 4/cm	O．7.5YR6/4にぶい橙 ～10YR6/3にぶい黄橙 i．7.5YR6/4にぶい橙	
133—47 140—47	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅱ－C－1d	C：13.8 H：16.4 W：16.0	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM	O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM	O．5YR6/6橙～N3/暗灰 i．5YR6/6橙	・外面にスス付着
133—48 140—48	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅱ－C－1e1	C：14.2 H：16.7 W：16.4	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	30/CM	O．左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	30/CM 4/cm	O．2.5Y6/3にぶい黄 ～7.5YR6/4にぶい （底）N2/黒 i．7.5YR6/4にぶい橙 ～10YR6/2灰黄褐	
133—49 140—49	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	Ⅲ－C－1d	C：15.6 H：17.0 W：18.6	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM	O．右上がりタタキ i．ケズリA	40/CM	O．2.5Y6/2灰黄 i．10YR7/3にぶい黄橙	
133—50 140—50	方形周溝墓1 東溝	甕 SY	Ⅱ－C－1e1	C：(13.4) H：16.4 W：17.3	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がり矢羽状タタキ i．ケズリA		O．タタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA→スリナデICa	40/CM 8/cm	O．10YR6/2灰黄褐 ～10YR5/2灰黄褐 ～N2/黒 i．10YR6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
133—51 141—51	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－e1	C：(16.0) W：(21.2)	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	40/CM			O．7.5YR6/6橙 ～5YR6/6橙 i．7.5YR6/4にぶい橙 ～10YR7/4にぶい黄橙	・外面にスス付着
133—52 141—52	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－・a	C：17.0 W：22.1	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコIAa→ スリナデヨコICa	8/cm	O．左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	40/CM 4/cm			10YR7/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
134—53 141—53	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－1b	C：14.0 H：20.4 W：19.6	O．スリナデヨコICa i．マメツ不明		O．右上がりタタキ i．ケズリA	40/CM	O．右上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	40/CM 5/cm	O．7.5YR7/4にぶい橙 ～7.5YR6/2灰褐 ～7.5YR3/1黒褐 i．7.5YR6/3にぶい褐	・外面にスス付着
134—54 141—54	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－4d	C：15.6 H：21.9 W：20.1	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．左上がりタタキ i．ケズリA	50/CM	O．左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	50/CM 5/cm	O．10YR7/2にぶい黄橙 ～10YR7/3にぶい黄橙 ～N2/黒 i．10YR7/3にぶい黄橙	・外面にスス付着
134—55 141—55	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－4e1	C：15.3 H：20.6 W：20.2	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．右上がりタタキ i．ケズリA	40/CM	O．右上がりタタキ→ スリナデICa i．ケズリA	40/CM	O．7.5YR7/3にぶい橙 ～10YR6/6にぶい黄橙 i．10YR7/2にぶい黄橙	

表98　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（6）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法						色調	備考
					口縁部		体部		底部（脚部）			
134—56 141—56	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－1e$_1$	C：17.6 H：23.6 W：23.0	O．左上がりタタキ→ スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa	40/CM	O．（肩）左上がりタタキ （胴）左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	40/CM 40/CM 9/cm	O．左上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．ケズリA	40/CM 9/cm	O．5YR6/6橙 ～7.5YR5/4にぶい橙 i．10YR6/3にぶい黄橙 ～10YR5/3にぶい黄褐	・外面にスス付着
134—57 142—57	方形周溝墓1 北東隅	甕 Y	I－C－3a	C：17.4 H：26.6 W：23.6 B：5.2	O．スリナデヨコIB i．スリナデヨコIB	多/cm 多/cm	O．（肩）右上がりタタキ→ スリナデICa （胴）右上がりタタキ→ スリナデタテIAa i．（肩）ケズリA→スリナデICa （胴）ケズリA	30/CM 30/CM 4/cm	O．右上がりタタキ i．ケズリA	30/CM	10YR5/3にぶい黄褐	・外面にスス付着
134—58 142—58	方形周溝墓1 北東隅	甕 SY	I－C－5e$_1$	C：(14.5) H：19.8 W：19.6	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．スリナデICa i．ケズリA		O．スリナデICa i．押捺A		O．10YR6/3にぶい黄橙 ～5YR6/4にぶい橙 i．10YR6/3にぶい黄橙	・外面にスス付着 ・外面肩部に刺突文有
135—59 142—59	方形周溝墓1 北東隅	壷	TC－D－a	C：14.8 H：30.6 W：27.2 B：5.1	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．ミガキAタテ i．マメツ不明		O．ミガキAタテ i．マメツ不明		O．7.5YR6/4にぶい橙 ～N3/暗灰 i．7.5YR6/4にぶい橙	
135—60 143—60	方形周溝墓1 北東隅	壷	TC－C－a	C：(14.0) W：(30.9)	O．スリナデヨコIB i．スリナデヨコIB	多/cm 多/cm	O．スリナデタテIAa i．（肩） スリナデヨコICa （胴）ケズリA	7/cm			O．10YR5/3にぶい黄褐 i．N2/黒～N4/灰	
135—61 142—61	方形周溝墓1 北溝	壷	N－F$_2$－b	C：(27.2)	O．スリナデタテIAa→ スリナデヨコICa i．（口縁） スリナデヨコICa→ スリナデヨコIAa （受）スリナデヨコIAa	7/cm 4/cm 7/cm					O．2.5Y6/3にぶい黄 ～2.5Y5/2暗灰黄 i．2.5Y2/1黒	
136—62 143—62	方形周溝墓1 北東隅	壷	T－A$_2$－a	C：11.4 W：(20.1)	O．ミガキAヨコ i．マメツ不明		O．（肩）ミガキAヨコ （胴）マメツ不明 i．ケズリA				O．7.5YR7/4にぶい橙 i．7.5YR7/4にぶい橙 ～10YR7/2にぶい黄橙	
136—63 146—63	方形周溝墓1 東溝	鉢	I－E$_2$－b	C：(25.0)	O．マメツ不明 i．スリナデヨコIAa→ スリナデヨコICa	7/cm	O．左上がりタタキ i．スリナデヨコIAa→ スリナデヨコICa	40/CM 7/cm			10YR3/2黒褐	
136—64 143—64	方形周溝墓1 北東隅	鉢	I－E$_1$－b	C：24.4 H：15.2 B：6.2	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコIAa	5/cm	O．スリナデタテIAa→ ヨコIAa→ ミガキAタテ i．スリナデヨコIAb	5/cm	O．押捺A→ スリナデタテIAa i．スリナデナナメIAa→ マメツ不明	5/cm 5/cm	O．10YR7/3にぶい黄橙 ～10YR6/3にぶい黄橙 ～N2/黒 i．10YR7/3にぶい黄橙 ～10YR6/3にぶい黄橙	・片口鉢
136—65 143—65	方形周溝墓1 北東隅	壷	H－C－b	C：(16.8)	O．スリナデタテIAa→ スリナデヨコICa i．マメツ不明	8/cm	O．スリナデタテIAa i．押捺A→マメツ不明	8/cm			O．7.5YR6/4にぶい橙 i．5YR6/4にぶい橙 ～N3/暗灰	
136—66 143—66	方形周溝墓1 北東隅	底部 （壷）	2－C－b	B：8.4					O．ケズリA i．スリナデタテIAa	9/cm	O．5YR6/4にぶい橙 ～10YR6/2灰黄褐 ～2.5Y3/1黒褐 i．10YR4/1褐灰	

表99　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（7）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量（復元）cm	調整技法						色調	備考
					口縁部		体部		底部（脚部）			
136—67 143—67	方形周溝墓2	壷	H－C－a	C：(14.8)	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．マメツ不明 i．押捺A				O．7.5YR8/4浅黄橙 i．10YR8/6黄橙	
136—68 144—68	方形周溝墓2	壷		W：21.0			O．(肩) スリナデタテIAa→スリナデタテIAb (胴) スリナデタテIAa→スリナデタテIAb i．ケズリA	8/cm 8/cm	O．ケズリA i．ケズリA		O．10YR7/2にぶい黄橙～N2/黒 i．10YR7/2にぶい黄橙～N4/灰	
136—69 144—69	方形周溝墓2	甕	吉備形甕	C：14.8 H：25.0 W：22.5	O．櫛状スリナデヨコIAa i．スリナデヨコICa	8/cm	O．(肩) スリナデタテIAa (胴) スリナデナナメIAa→スリナデICa i．ケズリA	8/cm 8/cm	O．スリナデナナメIAa→スリナデICa i．押捺A→ケズリA	8/cm	10YR6/3にぶい黄橙	・吉備系 ・外面にススス付着
137—70 146—70	SK158	脚台 (小形器台)	II－・－・	B：(9.1)					O．ミガキAタテ i．マメツ不明		O．7.5YR7/4にぶい橙 i．7.5YR8/6浅黄橙	・スカシ有（個数不明）
137—71 144—71	SK158	小形丸底鉢	II－A_2－a	C：10.8 W：6.7	O．ミガキAヨコ i．ミガキAヨコ		O．ミガキAヨコ i．押捺A→ミガキAヨコ		O．ケズリA i．スリナデヨコIAb→ミガキAヨコ		O．7.5YR6/4にぶい橙～N3/暗灰 i．7.5YR6/4にぶい橙	
137—72 144—72	SK158	壷	東海形甕形壷	W：12.9			O．(上半) スリナデタテIAa (下半) スリナデナナメIAa i．ケズリA→スリナデICa	10/cm 10/cm			O．7.5YR6/4にぶい橙～N3/暗灰 i．7.5YR6/4にぶい橙	・東海系
137—73 144—73	SK158	甕 F	III－C－5e_1	C：10.2 H：11.4 W：12.4	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．スリナデタテIAa i．ケズリA	10/cm	O．スリナデタテIAa i．押捺A→ケズリA	6/cm	O．10YR6/3にぶい黄橙～7.5YR6/4にぶい橙～N3/暗灰 i．10YR6/3にぶい黄橙～10YR6/4にぶい黄橙	・2ヶ所穿孔？有焼成後穿孔（外→内）
137—74 144—74	SK158	高坏	B_5－・－・－・	—	O．ミガキAヨコ i．マメツ不明		O．ミガキAヨコ i．マメツ不明				7.5YR6/6橙	
137—75 146—75	SK158	甕 F	I－C－5f	C：(17.2)	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa						10YR7/4にぶい黄橙	
137—76 144—76	SK158	甕 F	II－C－5e_1	C：13.0 W：17.1	O．スリナデヨコICa i．スリナデヨコICa		O．スリナデナナメIAa i．ケズリA	10/cm			7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR6/4にぶい橙	
137—77 146—77	SK158	底部 (壷)	3－A－c	B：(5.3)					O．ケズリA i．スリナデIAb		O．7.5YR5/4にぶい褐 i．10YR6/4にぶい黄褐	

表100　纒向石塚古墳第9次調査出土遺物観察表（8）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） cm	調整技法						色調	備考
					口縁部		体部		底部（脚部）			
137—78 145—78	SK158	甕 F	Ⅰ－C－5e$_1$	C：17.0 W：24.8	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．スリナデタテⅠAa→ スリナデヨコⅠAa i．ケズリA	8/cm 8/cm			O．5YR6/4にぶい橙 ～10YR6/3にぶい黄橙 i．5YR6/4にぶい橙	
137—79 146—79	SX8	小形丸 底鉢	Ⅱ－A$_2$－a	C：(9.3)	O．マメツ不明 i．スリナデヨコⅠB	多/cm	O．マメツ不明 i．押捺A→マメツ不明				O．5YR5/6明赤褐 i．5YR6/6橙	
137—80 146—80	SX8	甕 F	Ⅱ－C－5e$_1$	C：(12.6)	O．マメツ不明 i．スリナデヨコⅠCa		O．マメツ不明 i．ケズリA				7.5YR6/6橙	
137—81 146—81	SX8	甕 F	Ⅱ－C－5g$_1$	C：(13.7)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．マメツ不明 i．ケズリA				O．7.5YR6/4にぶい橙 i．7.5YR6/6橙	
137—82 144—82	SD160	高坏	B$_5$－・－・－・	C：(23.0)	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．マメツ不明 i．マメツ不明				10YR7/3にぶい黄橙	
138—83 145—83	SD159	高坏	北近畿形？ 高坏	C：(7.9) H：13.3 B：9.8	O．マメツ不明 i．(上半) スリナデヨコⅠAb (下半) スリナデヨコⅠAa	10/cm	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．スリナデタテⅠAa i．スリナデヨコⅠAb	8/cm	O．10YR6/3にぶい黄橙 i．10YR5/3にぶい黄褐 ～10YR5/1褐灰	・北近畿系？
138—84 145—84	SD159	底部 (鉢)	1－B－・	B：4.0					O．押捺A i．マメツ不明		10YR6/4にぶい黄橙	
138—85 146—85	SD159	甕	東海形 S字口縁甕	C：(18.0)	O．スリナデヨコⅠCa i．スリナデヨコⅠCa		O．櫛状スリナデナナメⅠA a i．マメツ不明	6/cm			O．10YR6/2灰黄褐 ～10YR4/2灰黄褐 i．2.5Y6/2灰黄	・東海系
138—86 146—86	SD159	甕 F	Ⅰ－C－5g$_1$	C：(16.0)	O．マメツ不明 i．マメツ不明		O．マメツ不明 i．マメツ不明				7.5YR6/4にぶい橙	
138—87 146—87	SD159	甕 Y	Ⅰ－C－・a	C：(16.0)	O．スリナデヨコⅠCa→ スリナデタテⅠAa i．スリナデヨコⅠCa	10/cm	O．右上がりタタキ→ スリナデタテⅠAa i．ケズリA	40/CM 10/cm			O．10YR4/3にぶい黄褐 ～10YR3/1黒褐 i．7.5YR5/4にぶい褐 ～7.5YR4/1褐灰	・外面にスス付着
138—88 145—88	SD159	甕 Y	Ⅰ－C－5b	C：(21.0)	O．スリナデヨコⅠCa i．マメツ不明		O．スリナデタテⅠAa i．ケズリA	6/cm			O．10YR8/4浅黄橙 i．10YR7/6明黄褐	

表101　纒向石塚古墳第９次調査出土遺物観察表（９）

図番号 図版番号	地区 層位	器種	形式	法量 （復元） ｃｍ	調整技法 口縁部		体部		底部（脚部）		色調	備考
138—89 145—89	SD159	甕 Ｙ（Ｆ）	Ｉ－Ｃ－・ｂ	Ｃ：(21.8)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＡａ→ スリナデヨコＩＣａ	5/cm	Ｏ．スリナデタテ・ナナメＩ Ａａ ｉ．ケズリＡ	5/cm			7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙	
138—90 145—90	SX161	小形丸 底鉢	Ⅱ－Ａ１－ｅ１	Ｃ：8.8 Ｈ：7.4 Ｗ：9.3	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡヨコ ｉ．マメツ不明		Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ ミガキＡヨコ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．ケズリＡ→ スリナデＩＣａ ｉ．押捺Ａ→スリナデＩＣａ		7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙 ～7.5Ｙ Ｒ6/6橙	
138—91 146—91	SX161	壷	Ｔ－Ｂ－ｂ	Ｃ：(9.4)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＡｂ						10Ｙ Ｒ6/4にぶい黄橙	
138—92 146—92	SX161	甕 Ｆ	Ⅱ－Ｃ－５ｆ	Ｃ：(12.1)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				Ｏ．10Ｙ Ｒ6/4にぶい黄橙 ｉ．7.5Ｙ Ｒ7/4にぶい橙	
138—93 146—93	SX161	甕 Ｆ	Ｉ－Ｃ－５ｇ２	Ｃ：(15.1)	Ｏ．マメツ不明 ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				Ｏ．7.5Ｙ Ｒ7/6橙 ～7.5Ｙ Ｒ6/6橙 ｉ．7.5Ｙ Ｒ7/6橙	
138—94 145—94	SX161	甕 Ｆ	Ⅱ－Ｃ－５ｇ１	Ｃ：(13.8)	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙	
138—95 146—95	SX161	甕 Ｆ	Ⅱ－Ｃ－５ｅ１	Ｃ：(11.9)	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				Ｏ．5Ｙ Ｒ6/6橙 ｉ．7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙 ～7.5Ｙ Ｒ7/4にぶい橙	
138—96 146—96	SX161	甕 Ｆ	Ｉ－Ｃ－５ｆ	Ｃ：(15.8)	Ｏ．マメツ不明 ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				Ｏ．7.5Ｙ Ｒ6/6橙 ｉ．10Ｙ Ｒ5/2灰黄褐	
138—97 146—97	SX161	甕 Ｆ	Ｉ－Ｃ－５ｆ	Ｃ：(16.2)	Ｏ．マメツ不明 ｉ．マメツ不明		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				Ｏ．10Ｙ Ｒ7/4にぶい黄橙 ｉ．10Ｙ Ｒ8/4浅黄橙	
138—98 145—98	SX161	甕 Ｆ	Ｉ－Ｃ－５ｅ１	Ｃ：(14.8)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ		Ｏ．マメツ不明 ｉ．ケズリＡ				5Ｙ Ｒ6/6橙	
138—99 146—99	SX161	鉢	Ｉ－Ｆ１－ｂ	Ｃ：(27.4)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ→ スリナデタテＩＡａ ｉ．スリナデヨコＩＡａ	7/cm 7/cm	Ｏ．タタキ→ スリナデタテＩＡａ ｉ．スリナデナナメＩＡｂ	30/CM 7/cm			Ｏ．7.5Ｙ Ｒ7/4にぶい橙 ～2.5Ｙ5/1黄灰 ｉ．2.5Ｙ6/1黄灰 ～2.5Ｙ3/1黒褐	
138—100 146—100	SX161	壷	Ｎ－Ｆ２－ｂ	Ｃ：(27.0)	Ｏ．スリナデヨコＩＣａ ｉ．スリナデヨコＩＣａ						Ｏ．10Ｙ Ｒ7/4にぶい黄橙 ｉ．7.5Ｙ Ｒ5/2灰褐	

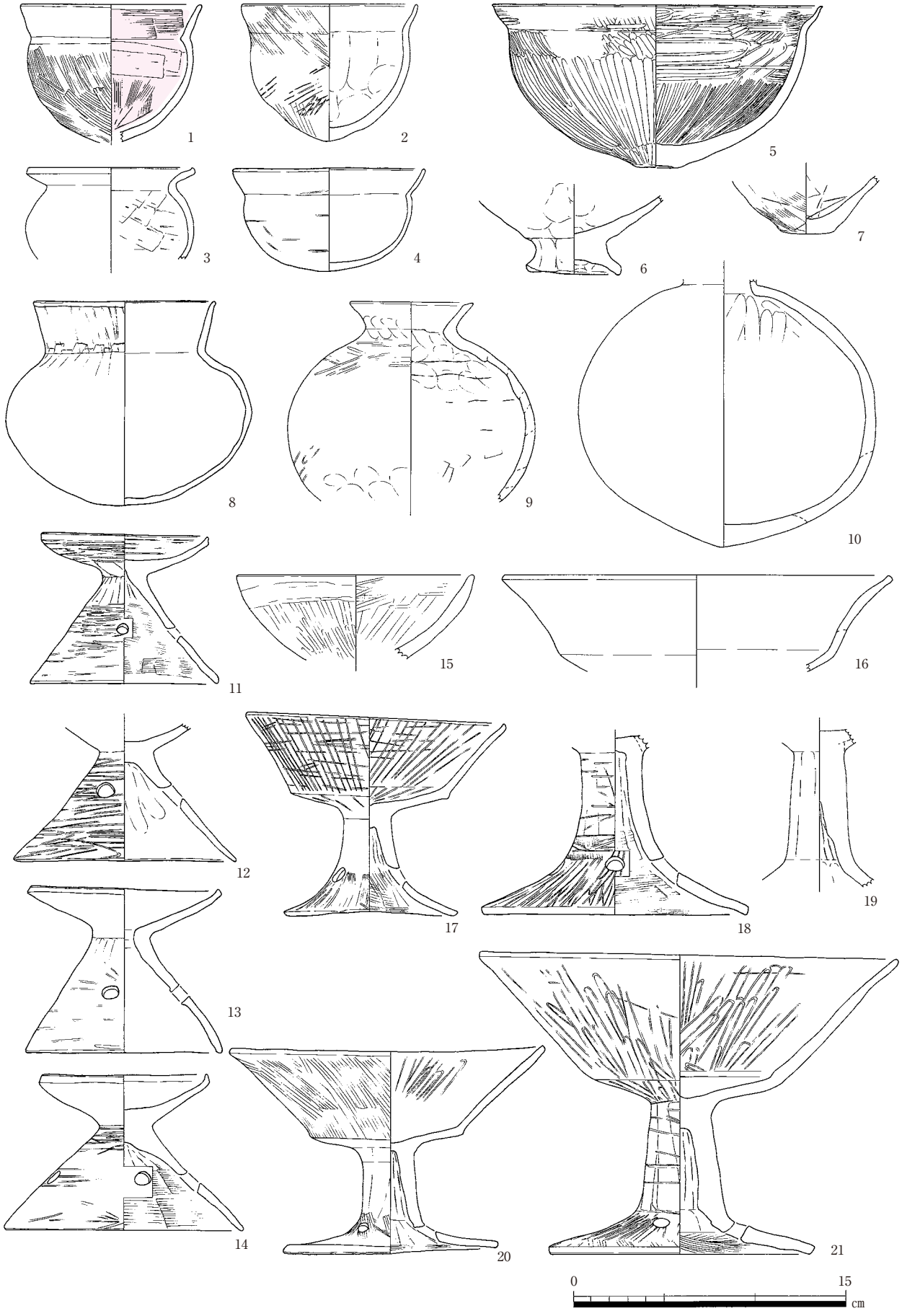


図131　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 1 （1 ／ 3）
1 ～21：方形周溝墓 1

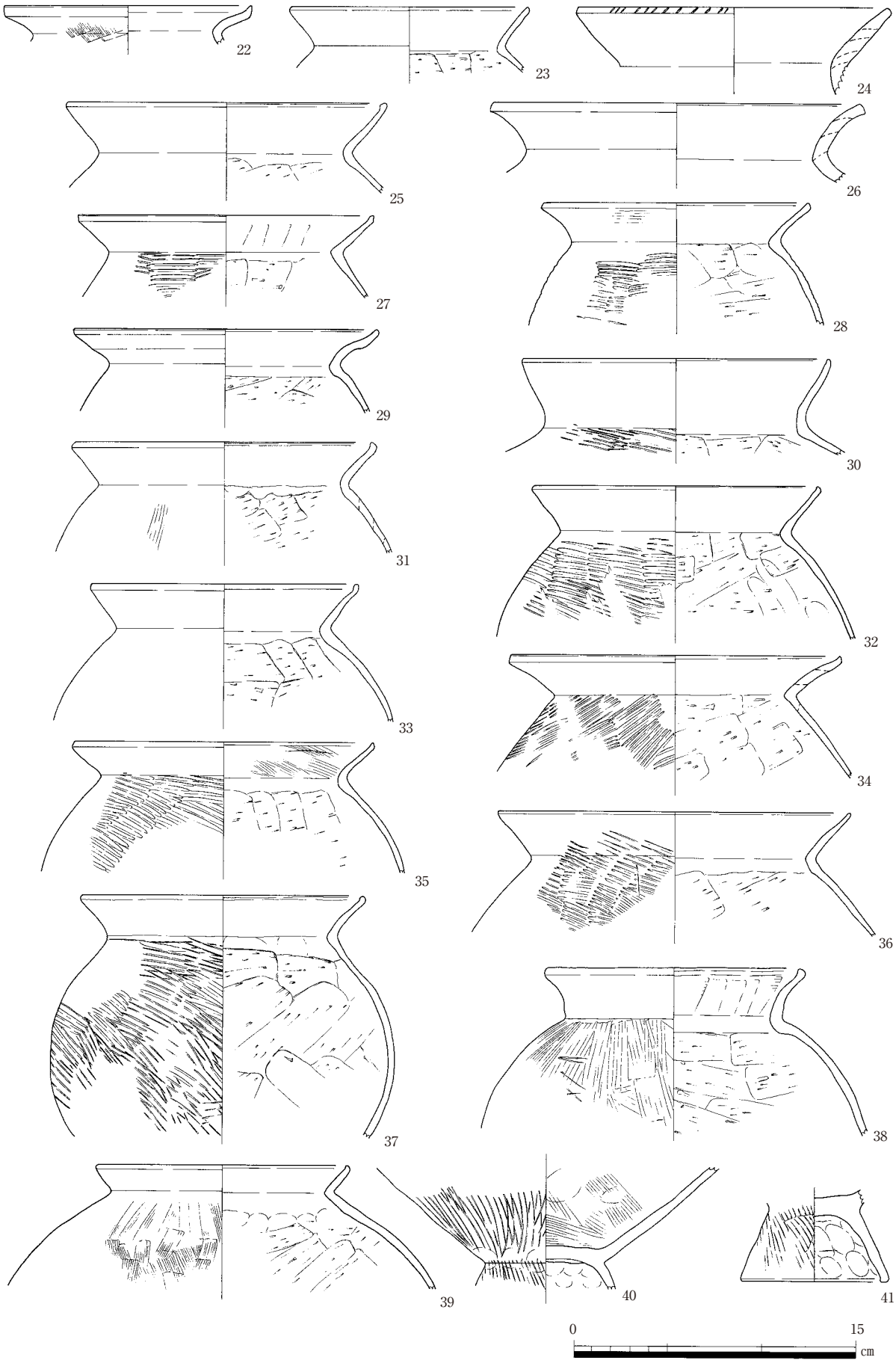


図132　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 2 （1 ／ 3）
22～41：方形周溝墓 1

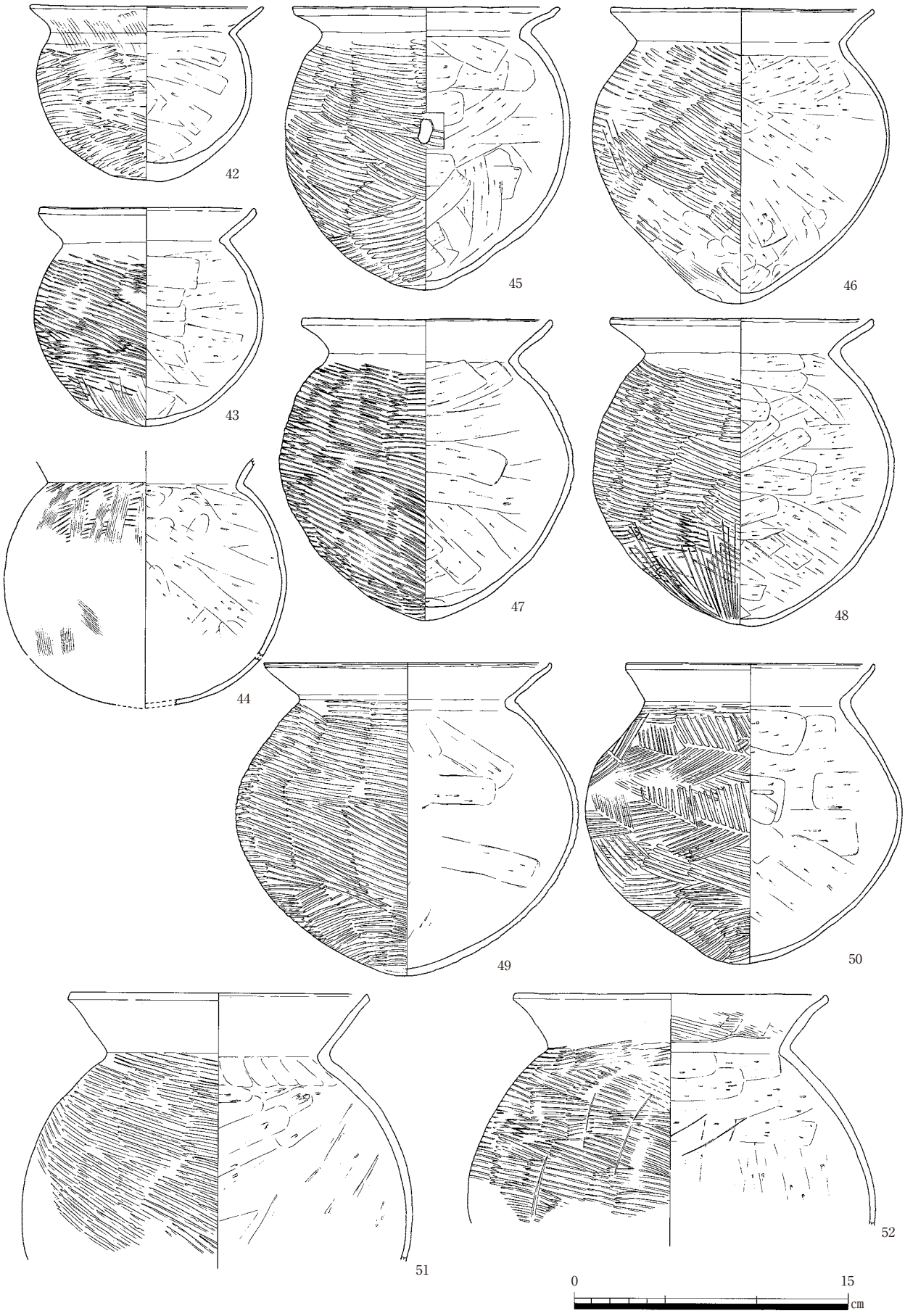


図133　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 3 （1 ／ 3）
42～52：方形周溝墓 1

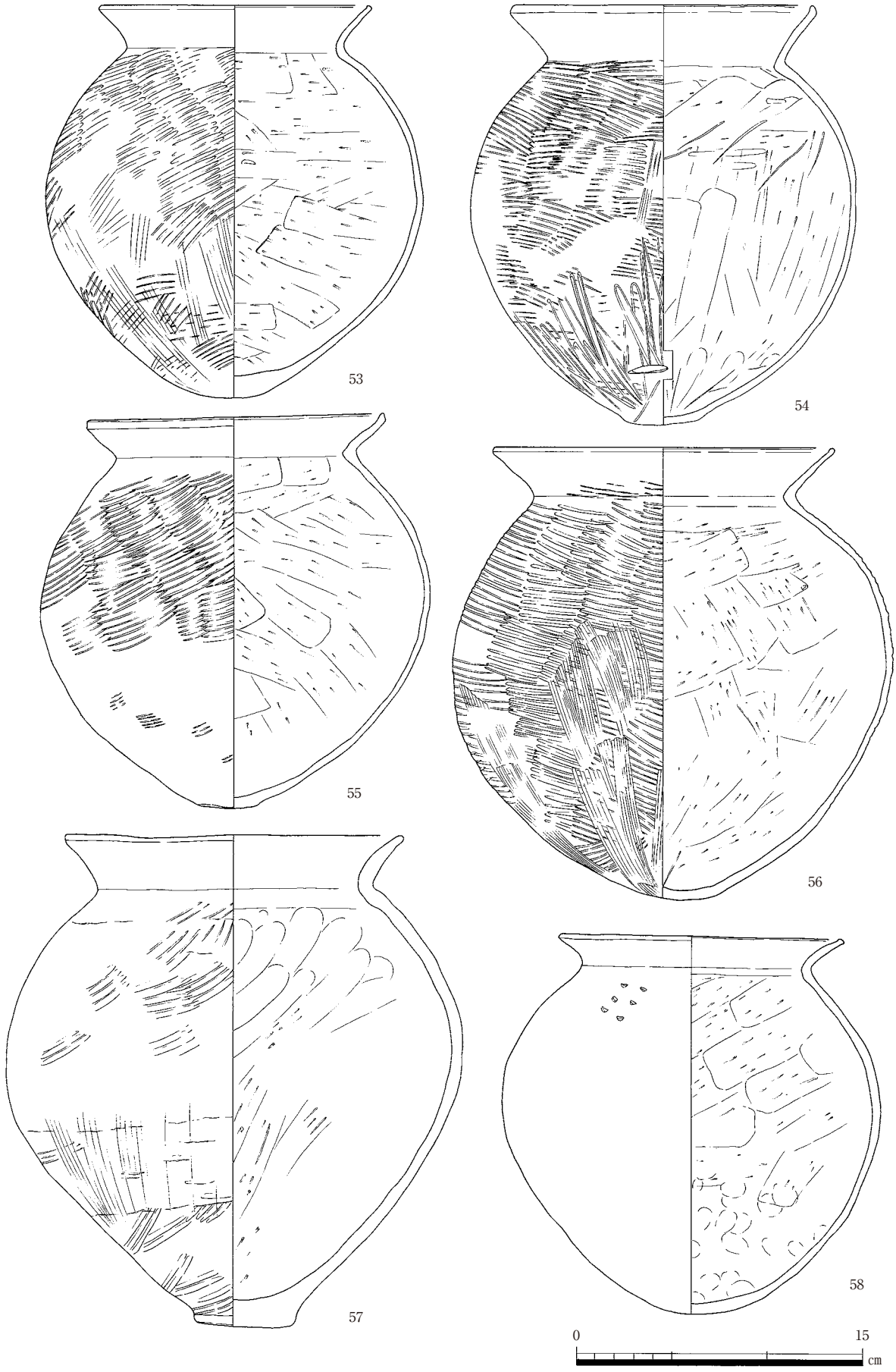


図134　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 4 （1 ／ 3）
53～58：方形周溝墓 1

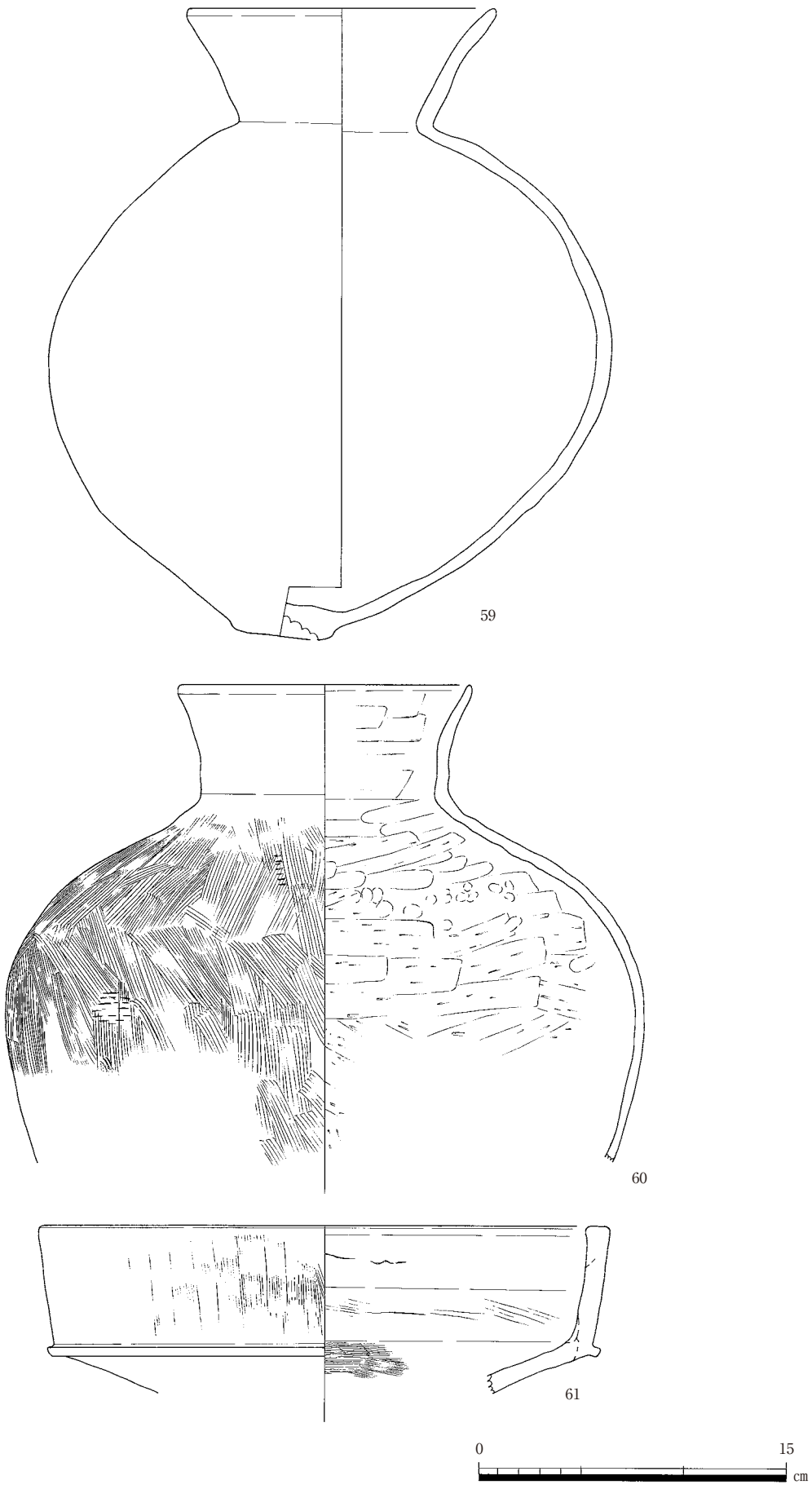


図135　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 5 （1 ／ 3）
59～61：方形周溝墓 1

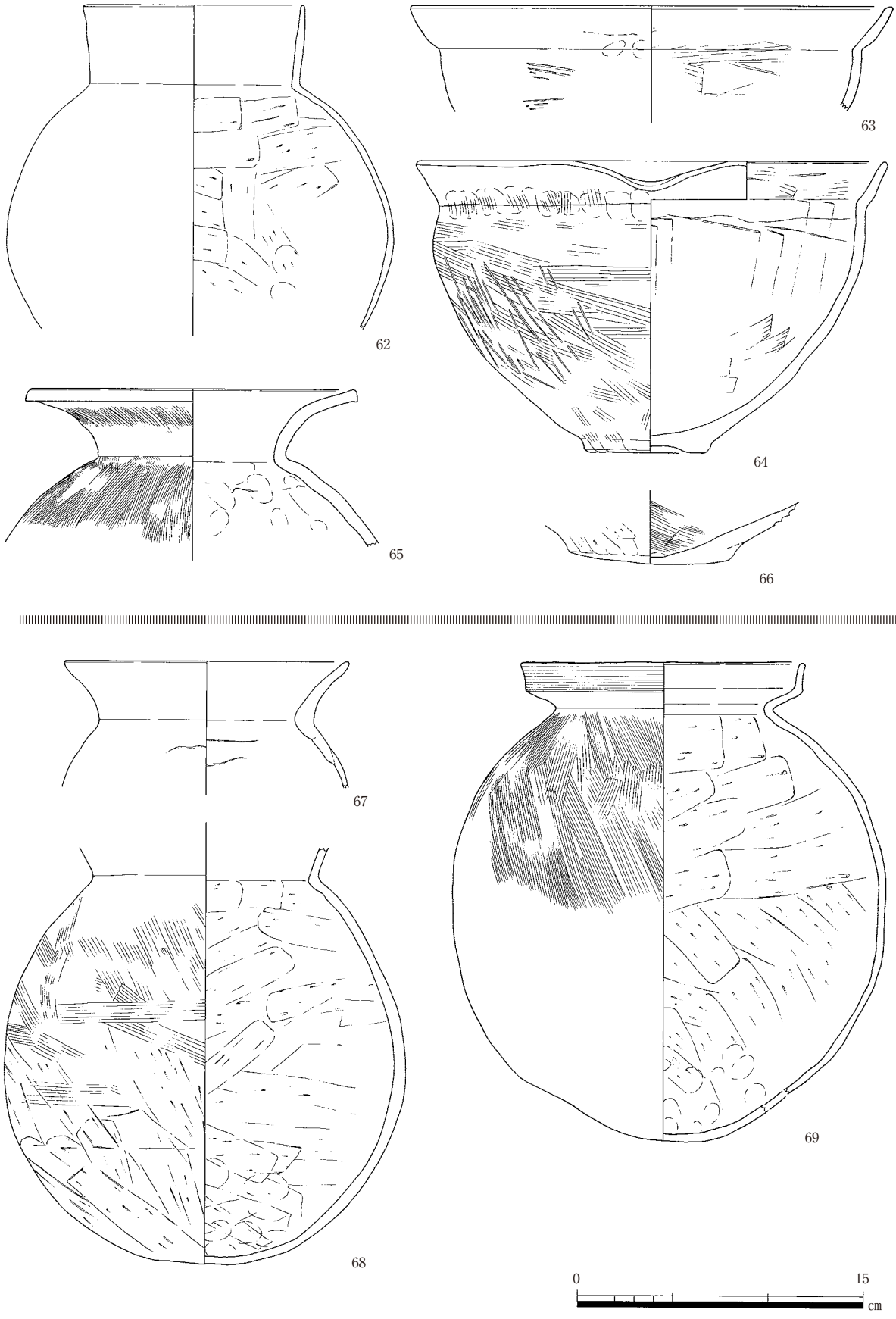


図136　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 6 （1 ／ 3）
62～66：方形周溝墓 1　67～69：方形周溝墓 2

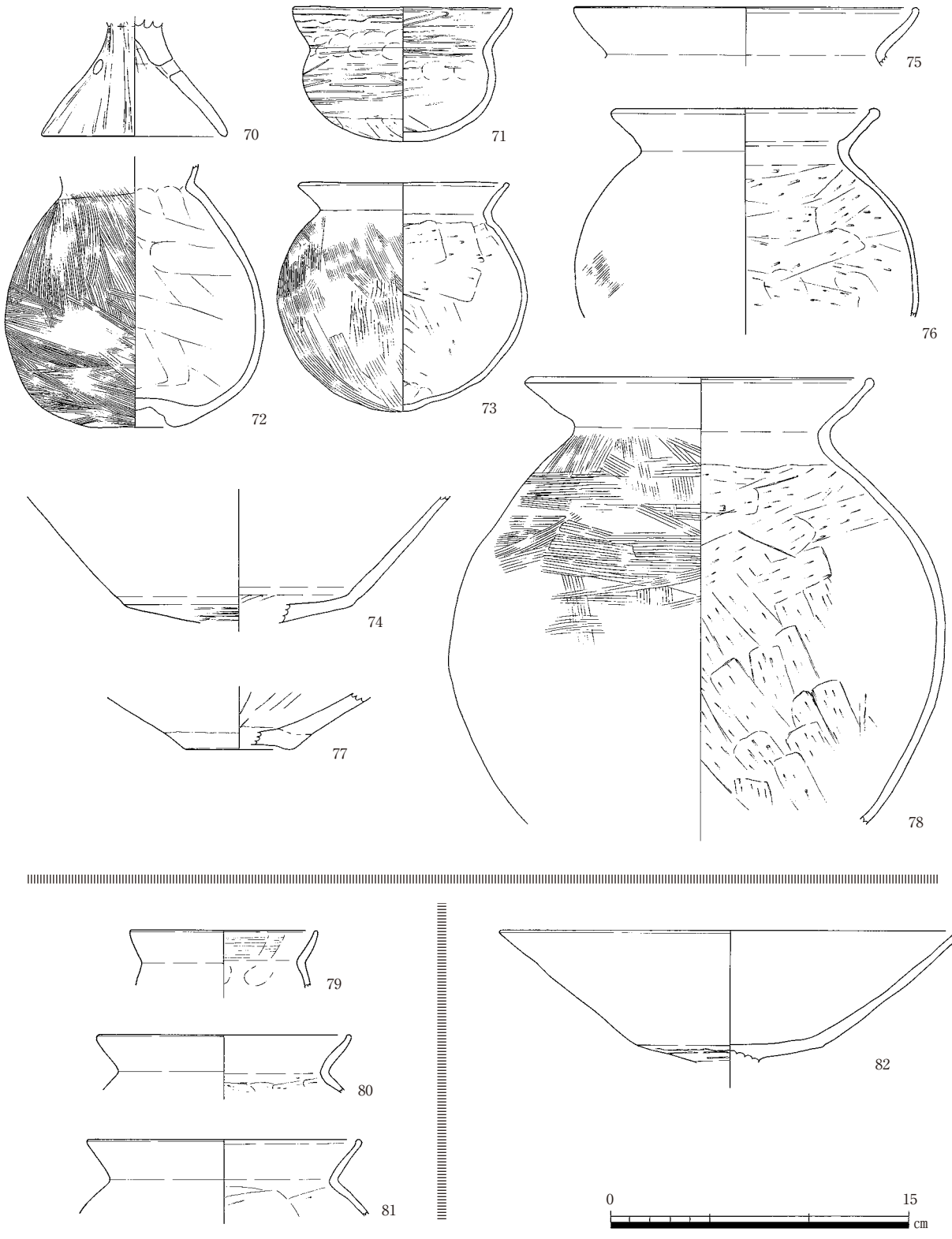


図137　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 7 （1 ／ 3）
70～78 SK158　　79～81 SX 8　　82 SD160

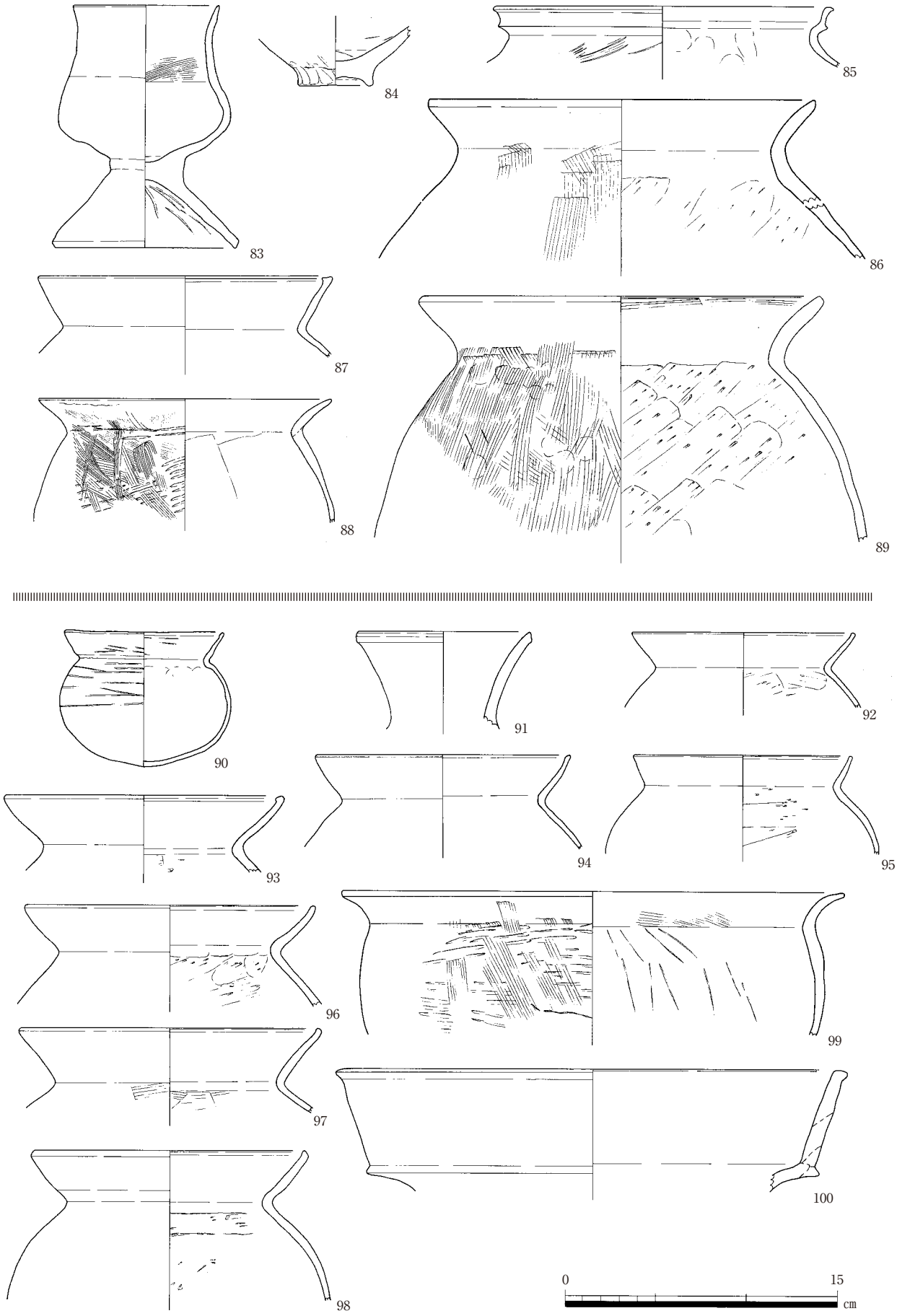


図138　纒向石塚古墳第 9 次調査出土遺物実測図 8 （1 ／ 3）
83～89 SD159　　90～100 SX161

纒向石塚古墳

発掘調査報告書

分析編

第12章　分析結果

第１節　纒向石塚古墳第４次調査周濠内堆積物の植生および環境の復原

奈良教育大学　金原正明

奈良教育大学古文化財科学研究室

（１）はじめに

纒向石塚古墳第４次調査の周濠内堆積物の花粉分析と珪藻分析を行い、植生と環境の復原を行った。また、纒向石塚古墳周濠内下部に腐植の集積した堆積物があり、その生因についての検討を加えた。

（２）試料と周濠内堆積物の様相

試料は調査区の北壁から整地層を除いて、ほぼ10㎝および5㎝毎に23試料を採取した（図141）。

周濠内堆積物は、各層における層相の著しい変化はなく、水平方向に一様な堆積物が発達し、垂直方向には徐々に漸移する。総じて層理面の発達が悪く、葉理は顕著でない。纒向石塚古墳の周濠内堆積物は、穏やかな水域で堆積し、現地堆積性の強い堆積物とみなされる。次に断面観察および分析途中に観察された堆積物（試料）の特徴を記す。

下位より植物腐植土層下部（試料17～23）は、植物の腐植の堆積であるが固く、木本質の泥炭であり、エノキの材や核、スギの葉、クマノミズキ核、ヒサカキの材の大型植物遺体が多量に含まれていた。植物腐植土層上部（試料13～16）では、砂礫も少量含む比較的軟らかい腐植の堆積であり、カヤツリグサ科果実、セリ科果実の草本の遺体を多く含む。やや分解の進んだ草本質の泥炭である。

黒粘Ⅰc層下部（試料10～12）は、砂が混じる黒泥化を受けた草本質泥炭からなり、カヤツリグサ科、セリ科の果実などが含まれる。本層は上位に向かって泥炭から泥質へと漸移する。黒粘Ⅰc層上部（試料６～９）は、砂混じり粘土であり、カヤツリグサ科、セリ科の果実が少量含まれる。黒粘Ⅰb層（試料２～５）は、砂混じりの粘土質シルトで有機質が分解しており、土壌生成作用を受ける。

暗褐色砂質土・整地層Ⅱ（試料１）は、砂、シルトを主とするパサパサした土壌状の堆積物である。

（３）花粉分析

１．方法

花粉遺体の分離は、水酸化カリウム処理・0.5mmの篩による篩別・沈澱による砂粒の除去・フッ化水素酸処理・アセトリシス処理の順に各物理化学処理を施し、行った。石炭酸フクシンで染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラートを作製し、直ちに検鏡した。

花粉の同定は各分類群の形態的特徴を現生花粉標本と対比することによって行ったほとんどの分類群は属レベルで、他は種または科レベルであった。２つ以上の属または科にまたがる分類群はハイフンで結んで表記した。

花粉粒の計数は300個以上行い、他に花粉生産量の極めて少ない虫媒花や自花受粉花の植物の花粉を検出するため約２万から３万個の花粉粒を検鏡した。

各分類群は花粉総数を基数とする百分率を求めた。

２．結果

１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉38、樹木花粉と草本花粉を含むもの４、草本花粉33、シダ植物胞子２形態の計77である。これらの学名と和名および粒数を表102に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図139に示す。なお、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。

分析の結果、同定した分類群を次に示す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ－シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サクラ属、アカメガシワ、サンショウ属、キハダ属、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、ノブドウ、ブドウ属、ヒサカキ属、ミズキ属、カキ属、モクセイ科、ニワトコ属－ガマズミ属、マンサク科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属、ガマ属－ミクリ属、ヒルムシロ科、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ホシクサ属、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ワレモコウ属、フウロソウ属、ツリフネソウ属、ミズユキノシタ属、セリ科、オオバコ属、アカネ科、ゴキヅル、キュウリ属、ミゾカクシ属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

２）花粉群集の特徴

分析の結果から特徴的な花粉の消長をもとに、下位からＭＩＰ－Ⅰ帯からⅣ帯の４帯に分帯した。以下に分帯ごとの特徴を記載する。なお、スギ、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属－ムクノキ、ミズキ属、イネ科、カヤツリグサ科、オモダカ属、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節は、同一種類の花粉粒が複数個の塊で産出することがあった。

・ＭＩＰ－Ⅰa帯（試料21から試料23）

樹木花粉の割合が草本花粉と比べて非常に高く80％を超える。コナラ属アカガシ亜属、スギ、エノキ属－ムクノキが10％以上の出現率を示し、次いでミズキ属、ニレ属－ケヤキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が約５～10％の出現率を示す。他にコナラ属コナラ亜属、クマシデ属－アサダ、クリ－シイ属、カバノキ属、ウルシ属、ニシキギ科、モクセイ科の樹木が伴われる。草本花粉はイネ科、カ

ヤツリグサ科が５％前後の出現率を示すのみであるが、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節などが伴われる。タデ属サナエタデ節にニワトコ属－ガマズミ属、ウコギ科が出現する。

・ＭＩＰ－Ⅰb帯（試料17から試料20）

樹木花粉の構成は、前帯と変化しないが、スギが増加傾向を示し最上部で約35%にも達する。コナラ属アカガシ亜属やミズキ属は弱い減少傾向を示す。草本花粉はイネ科、カヤツリグサ科が５％前後の出現率を示すのみである。前帯の要素に加えてクワ科－イラクサ科、アカザ科－ヒユ科が連続して出現する。

・ＭＩＰ－Ⅱa帯（試料14から試料16）

Ⅰ・Ⅱ帯に比べてエノキ属－ムクノキ、ミズキ属、ニレ属－ケヤキの樹木花粉の出現率が著しく低下し、イネ属型を伴うカヤツリグサ科、イネ科の草本花粉がやや急増する。スギは急減する。ガマ属－ミクリ属、オモダカ属、ミズアオイ属の水生植物の草本花粉が出現する。

・ＭＩＰ－Ⅱb帯（試料11から試料13）

イネ属型を伴うイネ科が上位に向かって増加し、カヤツリグサ科は減少する。草本花粉がやや高率となる。

・ＭＩＰ－Ⅱc帯（試料２から試料10）

イネ科が著しく優占する。水田雑草の性格を持つオモダカ属、ミズアオイ属が安定して出現する。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が10%前後で安定して出現する。特に落葉広葉樹は低率または姿を消す。

（４）花粉分析から推定される植生と環境

周囲の植生と環境の移り変わりを推定復原する際に原地堆積性の強い堆積物であることを考慮に入れ、層位的に増減の著しい分類群、同一種類の花粉粒が複数個の塊でたびたび産出する分類群、風媒花の植物に比べて花粉生産量が極めて少なく運搬経路の異なる虫媒花や自花受粉花の植物でありながら連続的に出現する分類群、大型植物遺体の産出する分類群は、堆積域に影響しえる近接した周囲に分布するとみなすことができる。

ＭＩＰ－Ⅰ帯からⅣ帯で、出現率のうえで主要素となり大きな増減のないコナラ属アカガシ亜属とイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、そして増減するものの著しく低率とはならないスギは、地域的に主要な森林要素であったとみなされる。他にモミ属、ツガ属、コウヤマキ、コナラ属コナラ亜属は各試料において出現し、周辺地域の普遍的な森林要素と考えられる。周辺地域には針葉樹の混ざる照葉樹林が分布していたと推定される。

１）植物腐植土層下部下位（ＭＩＰ－Ⅰa帯、試料21から試料23）の時期

エノキ（エノキ属－ムクノキは種実と木材からエノキとみなされる）、クマノミズキ（ミズキ属は種実からクマノミズキとみなされる）、ニレ属－ケヤキ、コナラ属アカガシ亜属の樹木が周濠に近接して生育していた。他にコナラ属コナラ亜属、クマシデ属－アサダ、クリ－シイ属、カバノキ属、ウルシ属、ニシキギ科、モクセイ科の樹木も周囲に生育していた。堆積物も木本質泥炭であり、周囲は樹木

が極めて多い状態であった。エノキ、クマノミズキ、ニレ属－ケヤキにコナラ属アカガシ亜属、そしてコナラ属コナラ亜属、ウルシ属などが構成要素であり、近現代の二次林とは要素が異なるが、本古墳が造られた後の二次林化した様相を反映していると考えられる。草本ではミズアオイ属やタデ属サナエタデ節が生育するが、水生植物が少なく、周濠はそれらが生育しえる浅い水域や湿地状の環境が少なく、比較的深い水域を呈していたと推定される。また、周囲から植物遺体以外の堆積粒子の供給は非常に少なく安定した環境であり、腐植土層は築造当初ではなく周囲が二次林化しだした後の堆積物と考えられる

２）植物腐植土層下部上位（ＭＩＰ－Ⅰb帯、試料17から試料20）の時期

植物腐植土層下部上位の時期は、引き続き周囲は樹木の多い環境であった。エノキ、クマノミズキ、ニレ属－ケヤキの樹木は周濠に近接して生育していたとみられる。スギが上位に向かい特徴的に増加する。不自然で、人為的な保護などの要因などが考えられる。周濠も引き続き池状の水域を持っていたと推定される。ヒトが活発に活動する所や農耕地に生育するアカザ科－ヒユ科、クワ科－イラクサ科が連続して検出され、周囲でヒトによる何らかの改変が行われている。

３）植物腐植土層上部中下位（ＭＩＰ－Ⅱa帯、試料14から試料16）の時期

周囲のエノキ、クマノミズキ、ニレ属－ケヤキ、スギの樹木が急激に減少する。伐採などの人為的要因が考えられる。カヤツリグサ科を主にイネ科の草本が多くなる。他にイネ属型、水生植物のオモダカ属、ミズアオイ属、ガマ属－ミクリ属が分布する。これら水生植物の繁茂から周濠は浅い水域から湿地の環境になり浅くなった。この変化は花粉群集の組成が急に変化し、堆積間隙や浸食による時間間隙を考えなければならないが、ここでは周囲における人為的な活動およびそれ周濠の環境への影響のためと推定される。周囲の樹木が著しく伐採され、周囲では水田が拡大しだし、周濠の水位は浅くなる。

４）植物腐植土層上部上位から黒粘Ⅰc層下部下位（ＭＩＰ－Ⅱb帯、試料11から試料13）の時期

上位に向かってイネ属型を含むイネ科が増加し、カヤツリグサ科が減少する。周囲では水田が拡大し、周濠に近接して水田が営まれる。黒粘Ⅰc層下部は泥炭質の堆積物が水位の低下によってうける黒泥化が観察される。

５）黒粘Ⅰc層下部上位、黒粘Ⅰc層上部、黒粘Ⅰb層（Ⅳ帯期、試料２から試料12）の時期

イネ科、イネ属型が増加し、カヤツリグサ科が減少する。それに伴い、オモダカ属とミズアオイ属の水田雑草の性格を持つ水生植物が比較的連続して出現し生育する。周囲が水田化され、周濠内にも水田雑草が増加したためか、周濠自体水田化した可能性もある。また、黒粘Ⅰc下部層は泥炭質の堆積物が水位の低下によってうける黒泥化が観察され、水位の低下がみられ、周濠内は湿地状の環境がより多くなったと推定される。樹木は近隣にはほぼ生育せず、周辺の山地丘陵に地域的な森林としてコナラ属アカガシ亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が分布していた。

（５）珪藻分析

１．方法

次の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。１）試料から１㎤を採量、２）10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら１晩放置、３）上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（５～６回)、４）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥、５）マウントメディアによって封入し、プレパラート作製、６）検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端２個につき１個と数えた。

２．結果

１）分類群

珪藻総数を基数とする百分率を算定した主要ダイアグラムを図140に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性はLowe（1974）なの記載により、陸生珪藻は小杉（1986）により、環境指標種群と淡水生種は安藤（1990）を参照した。以下に検出された主要珪藻を記す。

Achnanthes lanceolata、*Amphora copulata*、*Cymbella naviculiformis*、*Diploneis spp.*、*Fragilaria construens*、*Gomphonema parvulum*、*Navicula americana*、*Navicula capitata*、*Navicula confervacea*、*Navicula difficillima*、*N avicula elginensis*、*Navicula gregaria*、*Navicula lapidosa*、*Navicula mutica*、*Navicula pupula*、*Navicula viridula v. rostellata*、*Nitzschia spp.*、*Stauroneis lauenburgiana*、*Stauroneis phoenicenteron*、*Stauroneis smithii*

２）珪藻群集の特徴

珪藻構成と珪藻組成の変化から、下位より５帯の珪藻分帯を設定し、分帯ごとに特徴を記載する。

・ＭＩＤ－Ⅰa帯（試料21から試料23）

Achnanthes lanceolata、*Gomphonema parvulum*、*Navicula lapidosa* などの真・好流水性種が多く、*Navicula gregaria* などの流水不定性種が伴われる。

・ＭＩＤ－Ⅰb帯（試料17から試料20）

真・好流水性種の*Achnanthes lanceolata* が優占し*Gomphonema parvulum* などが伴われる。

・ＭＩＤ－Ⅱ帯（試料12から試料16）

Achnanthes lanceolata は減少するものの、*Navicula viridula v. rostellata* や*Navicula elginensis* の出現率が高くなり、真・好流水性種の占める割合は高い。*Navicula elginensis* は沼沢湿地付着生環境指標種群である。

・ＭＩＤ－Ⅲ帯（試料６から試料11）

真・好流水性種の*Navicula elginensis* や真・好止水性種の*Stauroneis phoenicenteron* の沼沢湿地付着生環境指標種群と*Navicula confervacea* などの陸生珪藻が増加する。

・ＭＩＤ－Ⅳ帯（試料１から試料５）

各試料とも珪藻の密度が少ない。試料３では真・好流水性種の*Navicula elginensis* や真・好止水性種の*Stauroneis phoenicenteron* の沼沢湿地付着生環境指標種群と*Navicula mutica* などの陸生珪藻が

出現する。

3．珪藻分析から推定される堆積環境

1）植物腐植土層下部（ＭＩＤ－Ⅰ帯、試料17から試料23）の時期

真・好流水性種が優占し、流れる帯水域が示唆される。その上部（ＭＩＤ－Ⅰb帯、試料17から試料20）では、*Achnanthes lanceolata* が極めて優占し、特に湧水など比較的清水性の流水が滞水しつつ流れていた。

2）植物腐植土上部層から黒粘Ⅰc層下部最下位（ＭＩＤ－Ⅱ帯、試料12から試料16）の時期

真・好流水性種が優占し、沼沢湿地付着生環境指標種群の*Navicula elginensis* が多くなることから、周濠は滞水しながら流れ、浅くなり、水生植物が繁茂するようになった。*Achnanthes lanceolata* は減少することから、やや水質の悪化が示唆される。

3）黒粘Ⅰc下部層中上部から黒粘Ⅰc層上部（ＭＩＤ－Ⅲ帯、試料６から試料11）の時期

真・好流水性種と真・好止水性種とも沼沢湿地付着生環境指標種群が多く、陸生珪藻が増加する。浅い淀みながら流れる水生植物の繁茂する滞水域が示唆され、湿地状ないし湿った程度の環境が上位に向かい拡大した。水田に多い*Amphora copulata* もやや多い。

4）黒粘Ⅰb層および整地層Ⅱ最下位（ＭＩＤ－Ⅳ帯、試料１から試料５）の時期

各層準とも珪藻の密度が少なく、珪藻の生育しにくい頻繁に乾湿を繰り返すような不安定な環境か堆積速度の速い環境が推定される。試料３からは湿った環境を主に浅く淀みながら流れ水生植物の繁茂する滞水域が示され、相対的に乾燥化する。

（6）考察とまとめ

植物腐植土層下位では、当初よりエノキ、クマノミズキ、ニレ属－ケヤキ、コナラ属アカガシ亜属の樹木が周濠に近接して生育し、周辺は二次林化していた。腐植土層は植物遺体以外の構成要素がほぼなく、古墳が築造された後に二次林化し安定した時期の堆積であることが考えられる。エノキやクマノミズキは種実が多く含まれており、これらの樹木が種実を生産するほど大きくなった、少なくとも古墳が築造されてから数年以上経てからの堆積と考えられる。この時期は周濠が深く滞水しながら湧水等による清水が流れていた。

植物腐植土層上部の時期になると、花粉も珪藻もその構成と組成は植物腐植土下部層とは連続性がなく大きく変化する。エノキ、クマノミズキ、ニレ属－ケヤキの樹木は人為的に伐採されたと考えられ、スギも減少し、植生が一変する。周濠は浅くなりカヤツリグサ科を主にイネ科の草本、水生植物のオモダカ属、ミズアオイ属、ガマ属－ミクリ属が生育し、やや水質の悪化も示唆される。周囲では水田が拡大しだす。

植物腐植土層上部上位から黒粘Ⅰc層下部にかけては、イネ科とイネ属型が水田雑草を伴い増加し、周囲で水田が拡大し周濠に近接して分布し、周濠内もカヤツリグサ科が減少しイネ科を中心に水生植物が生育し変化する。黒粘Ⅰc層下部の中位になると、周濠は淀みながら流れ水生植物の繁茂する浅い滞水域になる。上位に向って湿地状ないし湿った程度の環境が拡大する。黒粘Ⅰc層は黒泥化を受けてお

り、水位の低下が示唆される。黒粘Ⅰc層下部の上位以浅の時期は、周囲が大きく水田化され、周濠自体が水田であってもよいほどイネ属型を含むイネ科が多く、水田雑草も生育する。黒粘Ⅰb層になると、珪藻密度が減少し、乾燥化するか堆積速度が速くなる。

なお、各層準で一定以上の比率を示すコナラ属アカガシ亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科は、周辺地域の山地丘陵に分布する地域的な森林要素であり、コナラ属アカガシ亜属を主にスギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科の混じる照葉樹林が分布していた。

以上のように4次調査の周濠堆積物の分析からは、周濠が深く流水性の水域であり深く滞水していたことや、築造後の二次林化とその後の周辺の水田化の様相が示唆された。

【参考文献】

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p.82－102.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248－262.

Hustedt,F.（1937＝1938）Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda－Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131－506.

Lowe,R.L.（1974）Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh＝water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

K. Krammer・H.Lange－Bertalot（1986－1991） Bacillariophyceae・ 1 － 4.

Asai,K.&,Watanabe,T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution（２） Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35－47.

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73－88.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－．植生史研究，第１号，植生史研究会，p.29－44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p.1 －20.

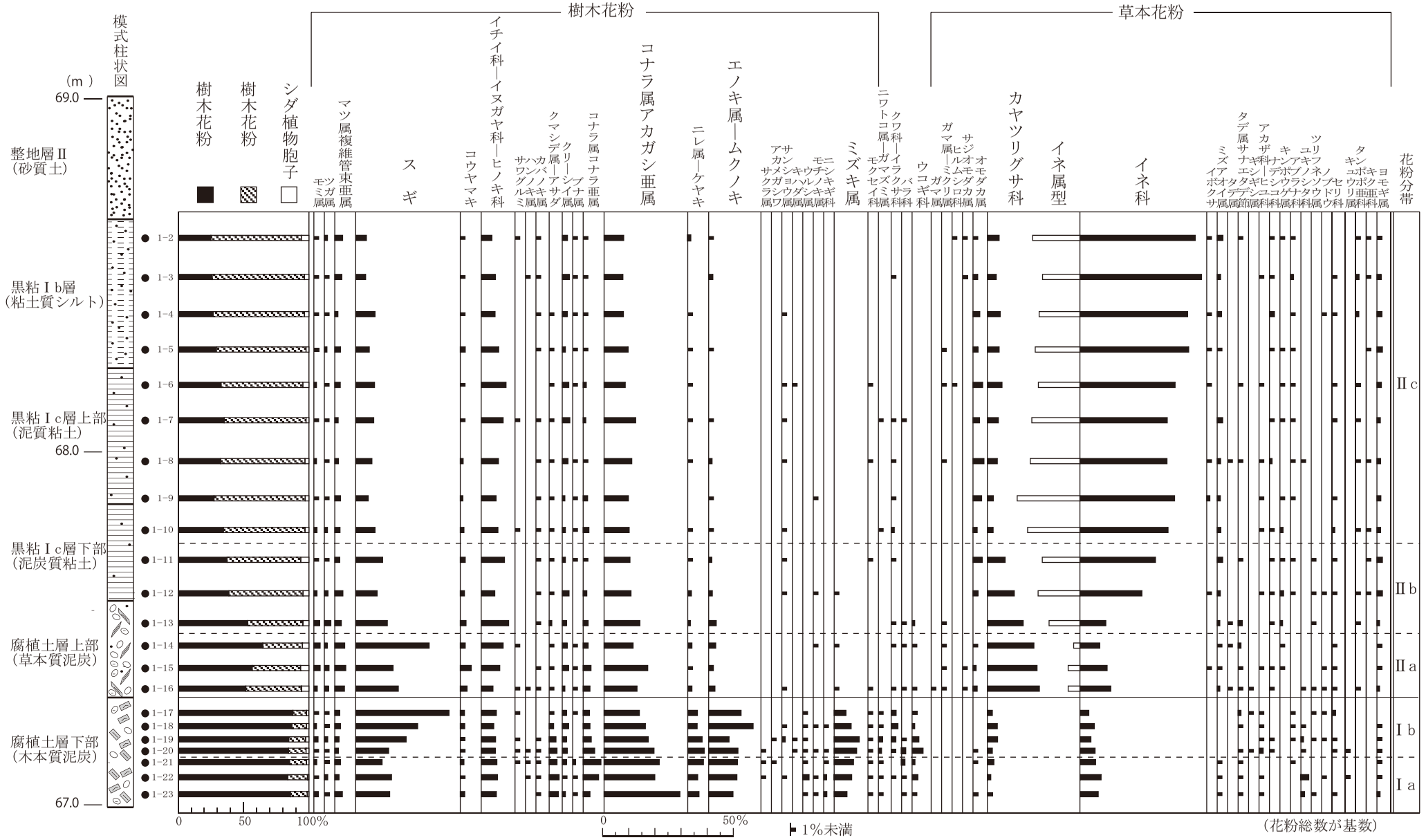


図139　纒向石塚古墳第4次調査における主要花粉ダイアグラム

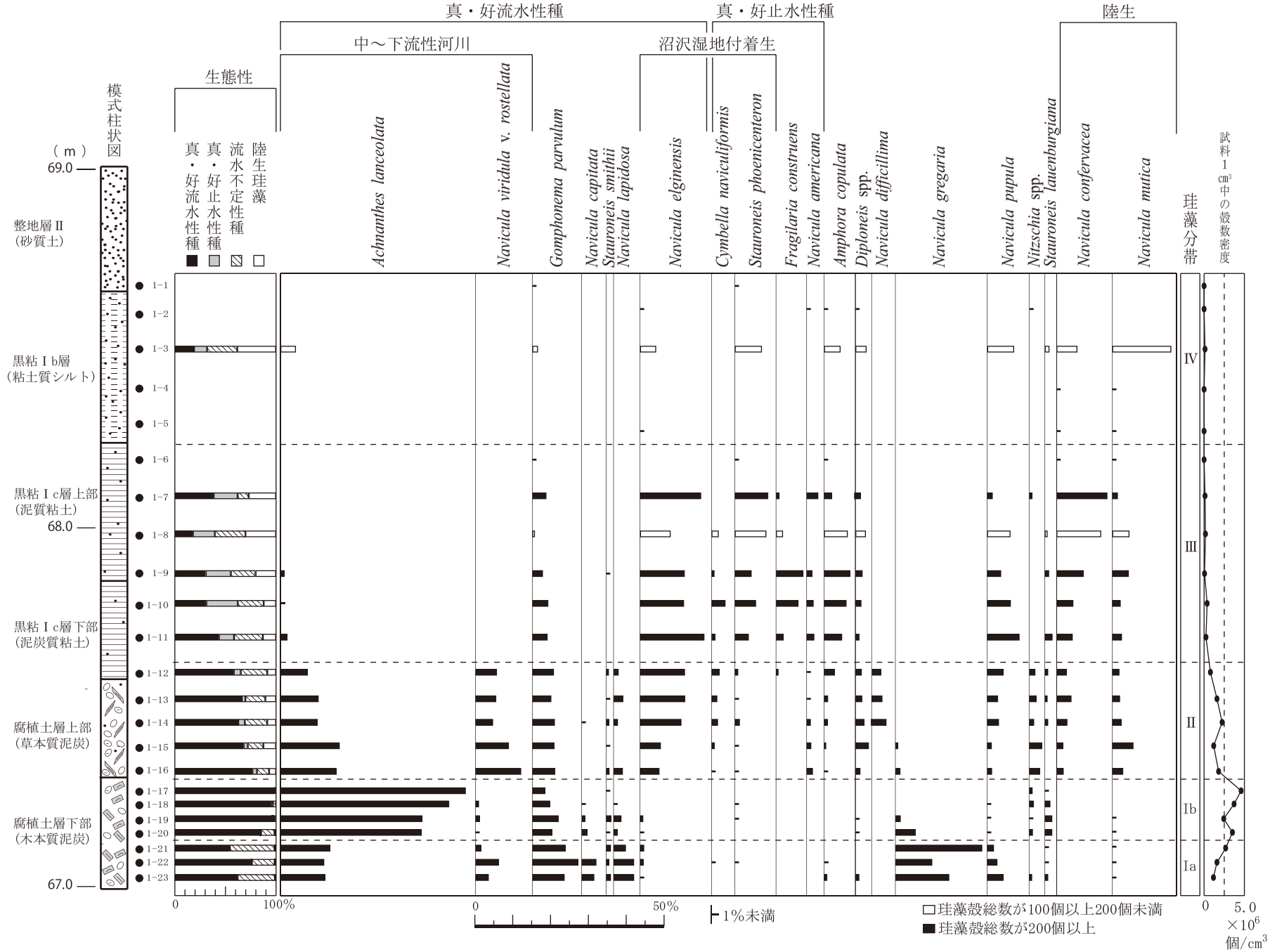


図140　纒向石塚古墳第4次調査における主要珪藻ダイアグラム

表102　纒向石塚古墳第4次調査における花粉分析結果

学名	和名	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	1-11	1-12	1-13	1-14	1-15	1-16	1-17	1-18	1-19	1-20	1-21	1-22	1-23
Arboreal pollen	樹木花粉																						
Podocarpus	マキ属	2		1					1		1	1								1			
Abies	モミ属	4	2	2	1	5	3	6	3	6	3	5	7	9	8	5	3	4	6	1	4	2	6
Tsuga	ツガ属	6	4	3	6	3	3	1	2	6	1	6	8	4	6	6	2	2	5	4	2	5	2
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	15	12	5	13	11	6	9	13	10	9	13	8	14	14	14	7	9	6	6	8	6	10
Cryptomeria japonica	スギ	21	17	32	30	37	33	39	29	37	50	35	38	104	48	62	135	99	74	54	37	51	45
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ	2	4	2	11	3	1	7	6	7	9	7	7	7	14	10	6	7	2	3	5	2	6
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	21	24	23	39	49	40	41	34	32	43	22	33	31	24	17	22	20	21	23	22	23	20
Myrica	ヤマモモ属															1							
Juglans	クルミ属				1							1		1									
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1					1			1				1		2	1		1	1	3		
Alnus	ハンノキ属		1													1				1	2	1	
Betula	カバノキ属	1	1	2	1		1	3	1	1	3	2	2		1	2			2	2	2	2	2
Corylus	ハシバミ属		1	1																		1	
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ			1	1	1	1	5	1	2	4	4	3	3	2	3	1	7	10	13	11	14	12
Castanea crenata-Castanopsis	クリ-シイ属	10	12	8	7	13	14	14	6	6	6	11	5	7	8	4	6	10	6	8	6	2	4
Fagus	ブナ属	1	2	1	3	2		2	3	1	2			2	2	1	1				4	2	3
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	4	1	2	5	6	5	5	10	11	4	6	6	7	10	10	9	11	12	19	25	22	9
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	38	32	32	53	42	58	66	56	48	48	44	43	41	56	48	51	66	65	82	77	72	100
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	5		2	1	3	1	1		1	2	6	3	6	3	6	14	15	21	27	22	14	15
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	3	7		1		1	8	1	4	6	6	9	10	6	9	47	71	30	48	40	40	32
Prunus	サクラ属																			3	1	1	
Mallotus japonicus	アカメガシワ																		1		1		
Zanthoxylum	サンショウ属			1		1	2	1		1	1	1				1		1	5			1	
Phellodendron	キハダ属					1													1	1			
Rhus	ウルシ属																1	2	3	3	3	9	2
Ilex	モチノキ属								1			1		1				1		1		1	1
Celastraceae	ニシキギ科																	1		1	3	4	4
Acer	カエデ属											1					1		1				
Aesculus turbinata	トチノキ									1					1				1				1
Sapindus	ムクロジ属																1			1			
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ			1								1			1	2	1		1			1	
Vitis	ブドウ属			1													4						
Eurya	ヒサカキ属															1		1					
Cornus	ミズキ属											1		2		1	17	27	37	37	27	25	17
Diospyros	カキ属	1																		1			
Oleaceae	モクセイ科					1		1			1					2	1	1	2	2	2	3	2
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属						1			1							1	1	6	5	2	3	2
Hamamelidaceae	マンサク科																				1		
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																						
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		1				3	2	5	6	1		2	1		2	7	11	7	2		1	
Saxifragaceae	ユキノシタ科							1								1		1	4	2		11	5
Rosaceae	バラ科						1						1	1		1			1	6	4	2	2
Araliaceae	ウコギ科												3	1		2	1	4	10	18	4	8	3
Nonarboreal pollen	草本花粉																						
Typha latifolia	ガマ															2							
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属				2	1		1					1	1	1	1							
Potamogetonaceae	ヒルムシロ科	1				1																	
Alisma	サジオモダカ属	1	1												1	2							
Sagittaria	オモダカ属	3	8	11	11	19	12	26	20	8	17	8		1	4	6				1	3		1
Gramineae	イネ科	224	208	177	241	188	160	208	217	169	140	101	31	28	35	45	13	23	16	25	22	30	24
Oryza type	イネ属型	92	64	67	99	82	88	119	144	100	70	68	37	9	15	17							
Cyperaceae	カヤツリグサ科	23	15	21	26	29	20	24	14	11	33	44	43	66	64	76	7	16	15	8	9	5	1
Eriocaulon	ホシクサ属												2										
Aneilema keisak	イボクサ	1		2	1	1		1	7			1			1								
Monochoria	ミズアオイ属	11	6	7	5		10	8	7	7	10	5	3	1	3	4					2	1	1
Polygonum	タデ属							2					2	1		2							
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節	1				1		2			3		5	4	1	3	4	2		4	1	1	2
Rumex	ギシギシ属															1	1			1			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		1			1		1	3	2		1			1		3	1	2	7		2	3
Caryophyllaceae	ナデシコ科	4	3	8	4		2	6		1	1	1	2		2	1			1	1			
Ranunculus	キンポウゲ属	1			1	1	1		1	6	2	6	3	1	1								
Thalictrum	カラマツソウ属																1						
Cruciferae	アブラナ科	2	5	3	3	3	1	1	2		2	2					1	1	2		2		
Sanguisorba	ワレモコウ属																			1			
Geranium	フウロソウ属								2														
Impatiens	ツリフネソウ属										1	1	2			1	1		3				1
Ludwigia	ミズユキノシタ属												1										
Umbelliferae	セリ科		1	1		1	1		1	5	1	2		2	2	1	5		2	2			1
Plantago	オオバコ属																				1		
Rubiaceae	アカネ科																1						
Actinostemma lobatum	ゴキヅル																				3		2
Cucumis	キュウリ属																			1		2	
Lobelia	ミゾカクシ属																1						
Lactucoideae	タンポポ亜科	2	6	5		2	3	4		2		2	1			1							
Asteroideae	キク亜科	3	1		1			1		1	1	1											
Xanthium	オナモミ属																				2	1	
Artemisia	ヨモギ属	4	7	8	12	9	6	9	9	7	10	9	3	3	1	4		2	2	2	2	1	4
Fern spore	シダ植物胞子																						
Monolate type spore	単条溝胞子	14	9	10	6	21	8	12	14	12	29	18	10	17	21	18	7	7	10	8	7	4	4
Trilate type spore	三条溝胞子	17	7	5	7	4	3	7	3	3	3	2	5	2	2	4				1			
Arboreal pollen	樹木花粉	135	120	120	173	178	171	209	167	176	193	174	172	250	204	208	332	356	319	348	310	307	295
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉		1				4	3	5	6	1		6	3		6	8	16	22	28	8	22	10
Nonarboreal pollen	草本花粉	373	326	310	406	339	304	413	427	319	291	252	136	117	132	165	38	45	43	53	47	43	40
Total pollen	花粉総数	508	447	430	579	517	479	625	599	501	485	426	314	370	336	379	378	417	384	429	365	372	345
Unknown pollen	未同定花粉	6	1	5	4	7	4		1	5	3	2		4	2	13	6	1	7	7		5	7
Fern spore	シダ植物胞子	31	16	15	13	25	11	19	17	15	32	20	15	19	23	22	7	7	10	9	7	4	4

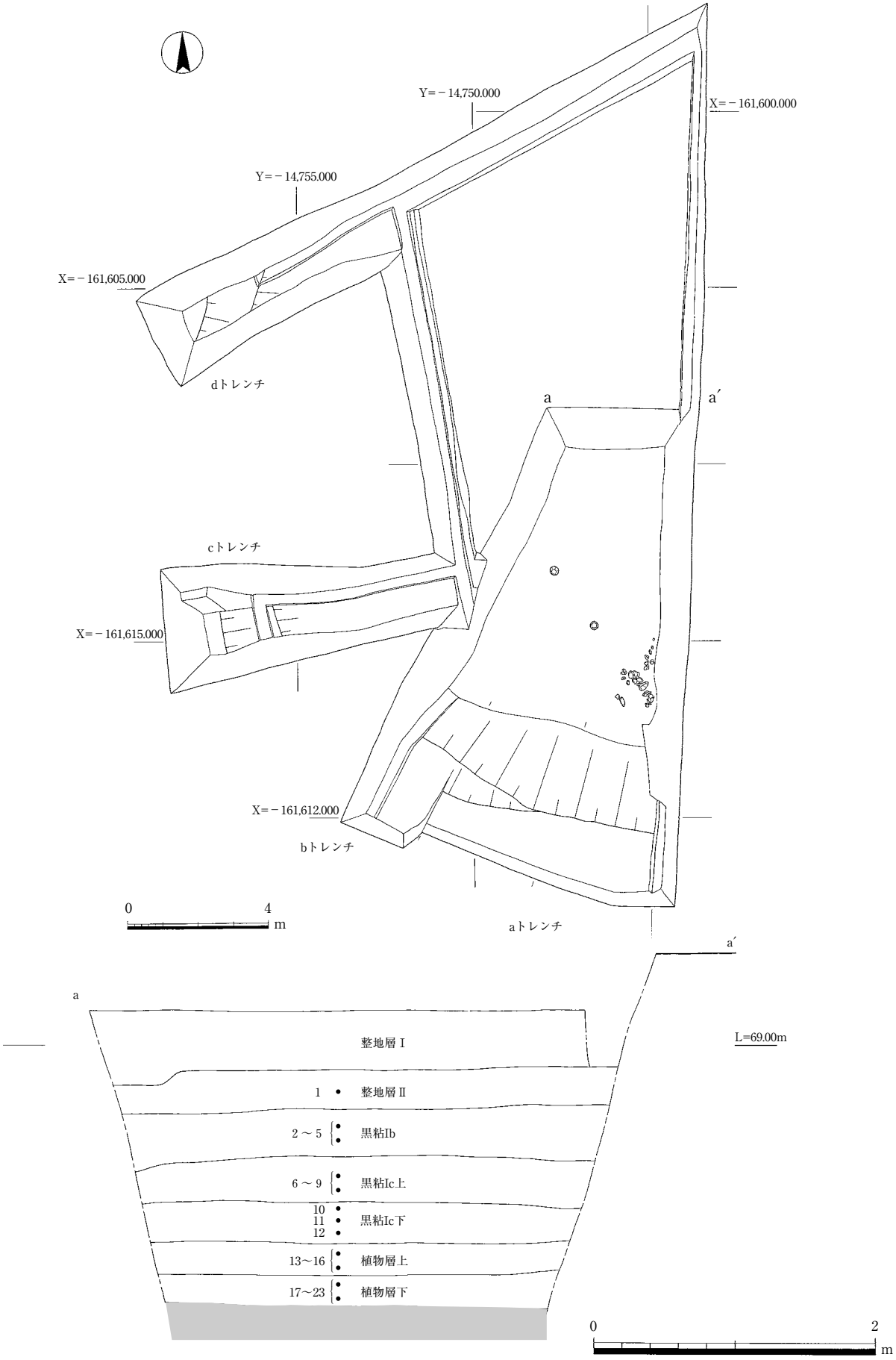
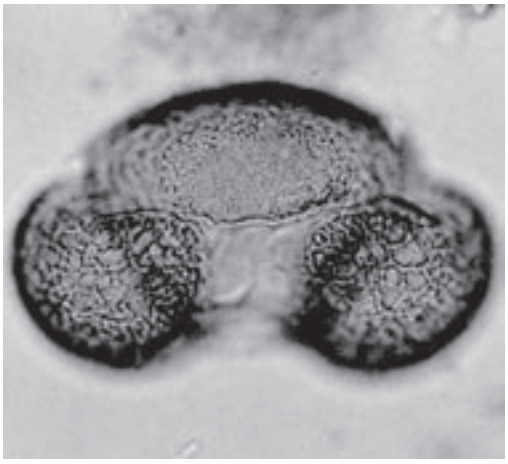
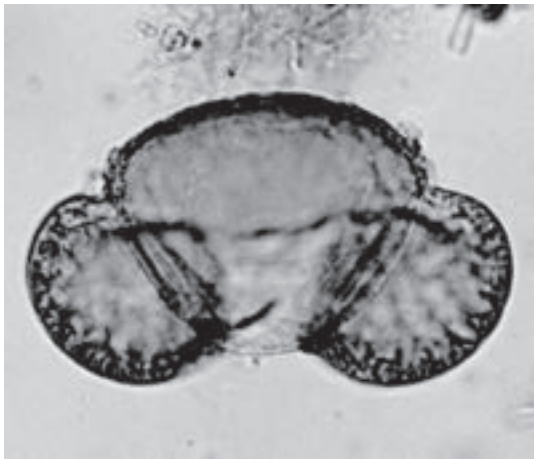
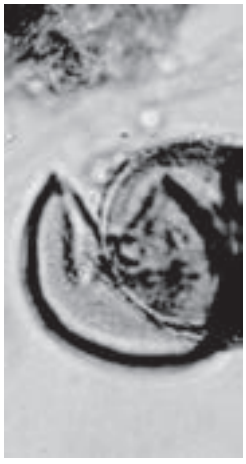


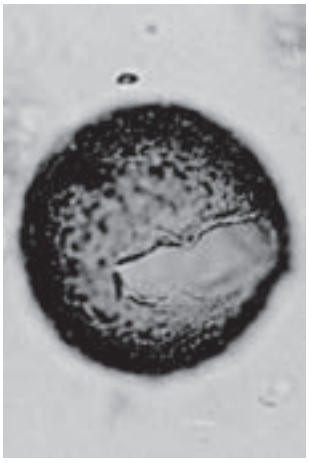
図141　第4次調査サンプル採取地点図（平面：1／160・断面：1／40）

写真17　纒向石塚古墳周濠内堆積物の花粉写真１

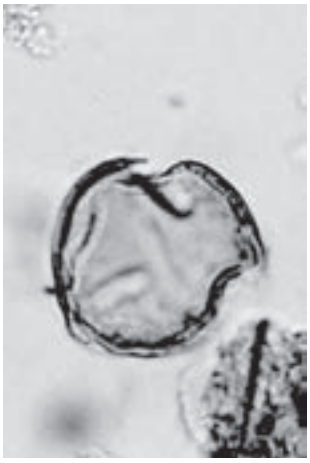

1

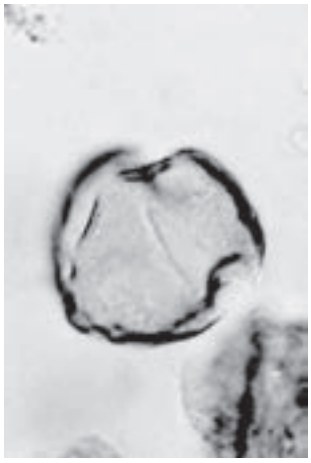

2

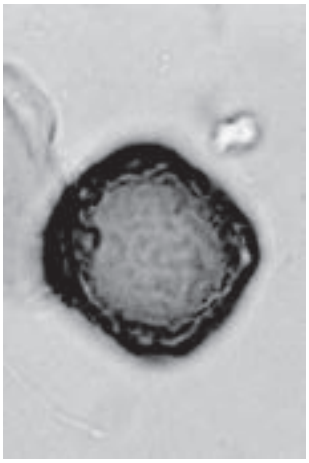

3

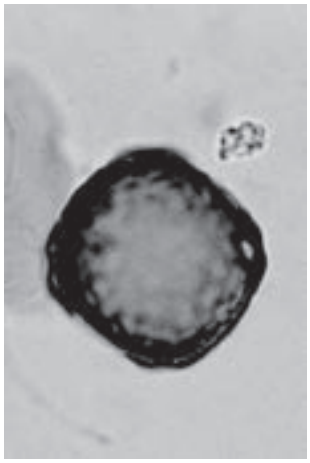

4

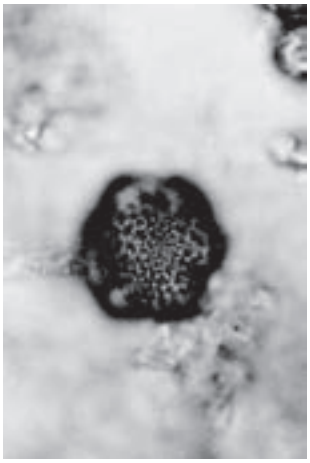
5

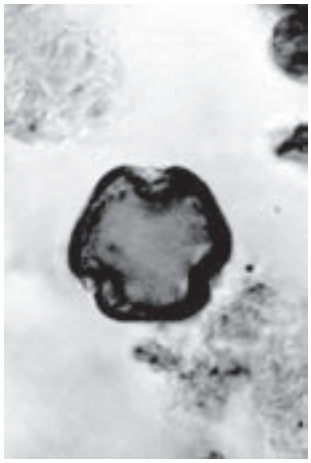

6


7


8

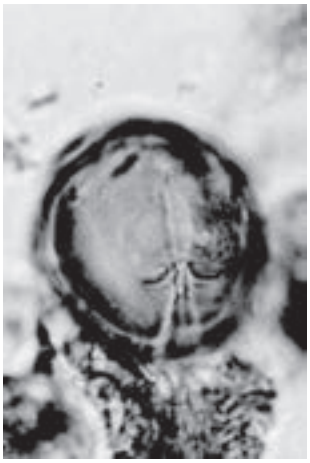

9

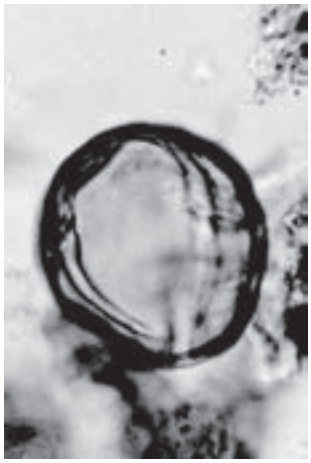

10


11

12

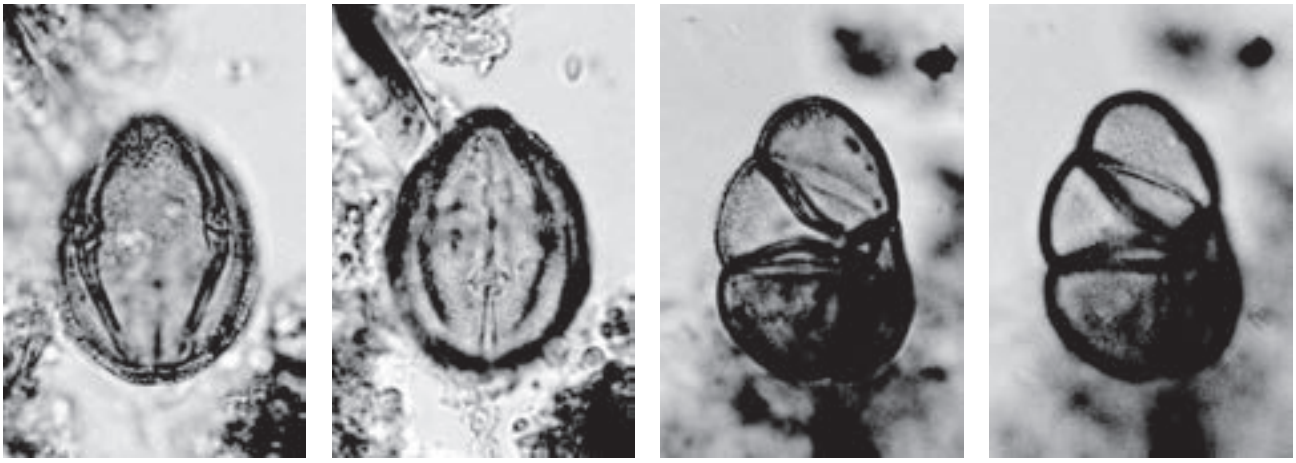
13

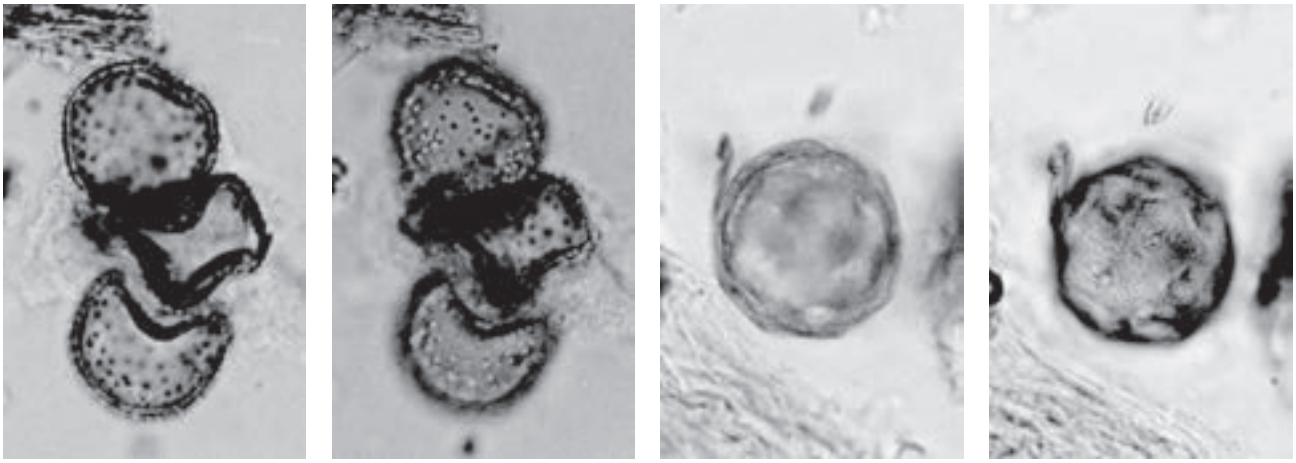

14

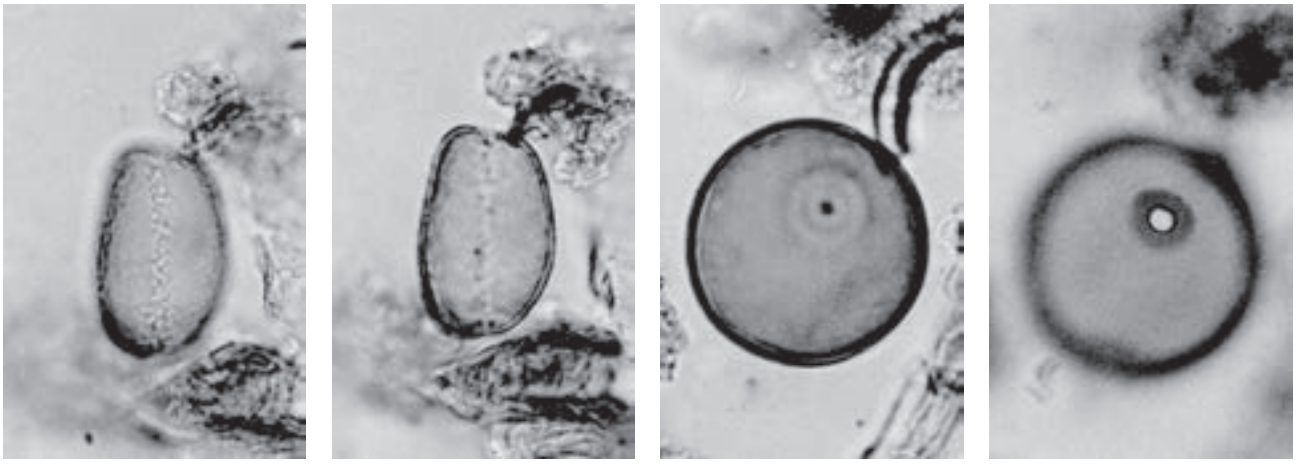

15

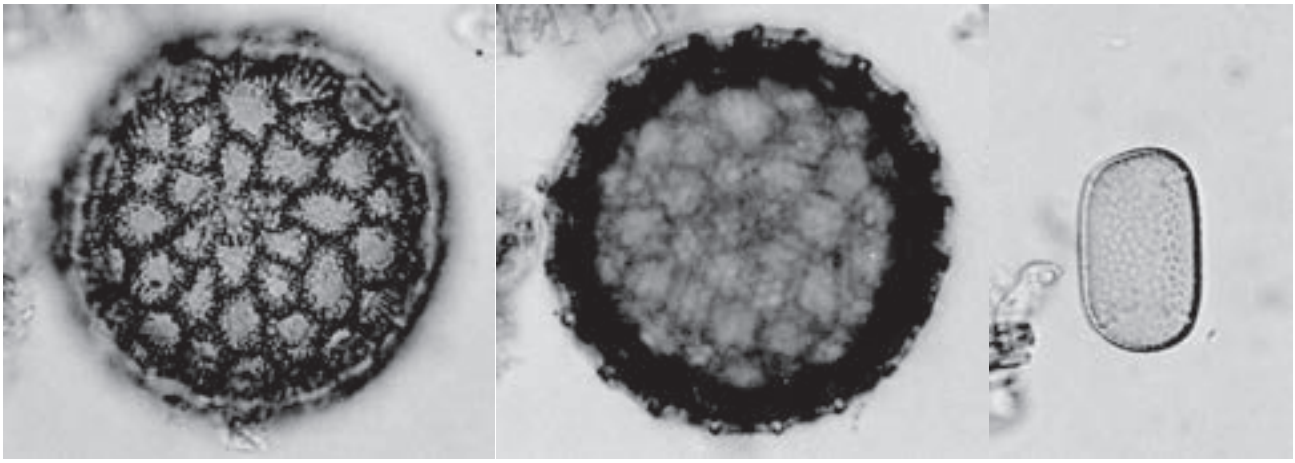
10 μm

写真18　纒向石塚古墳周濠内堆積物の花粉写真 2


16　17　18　19

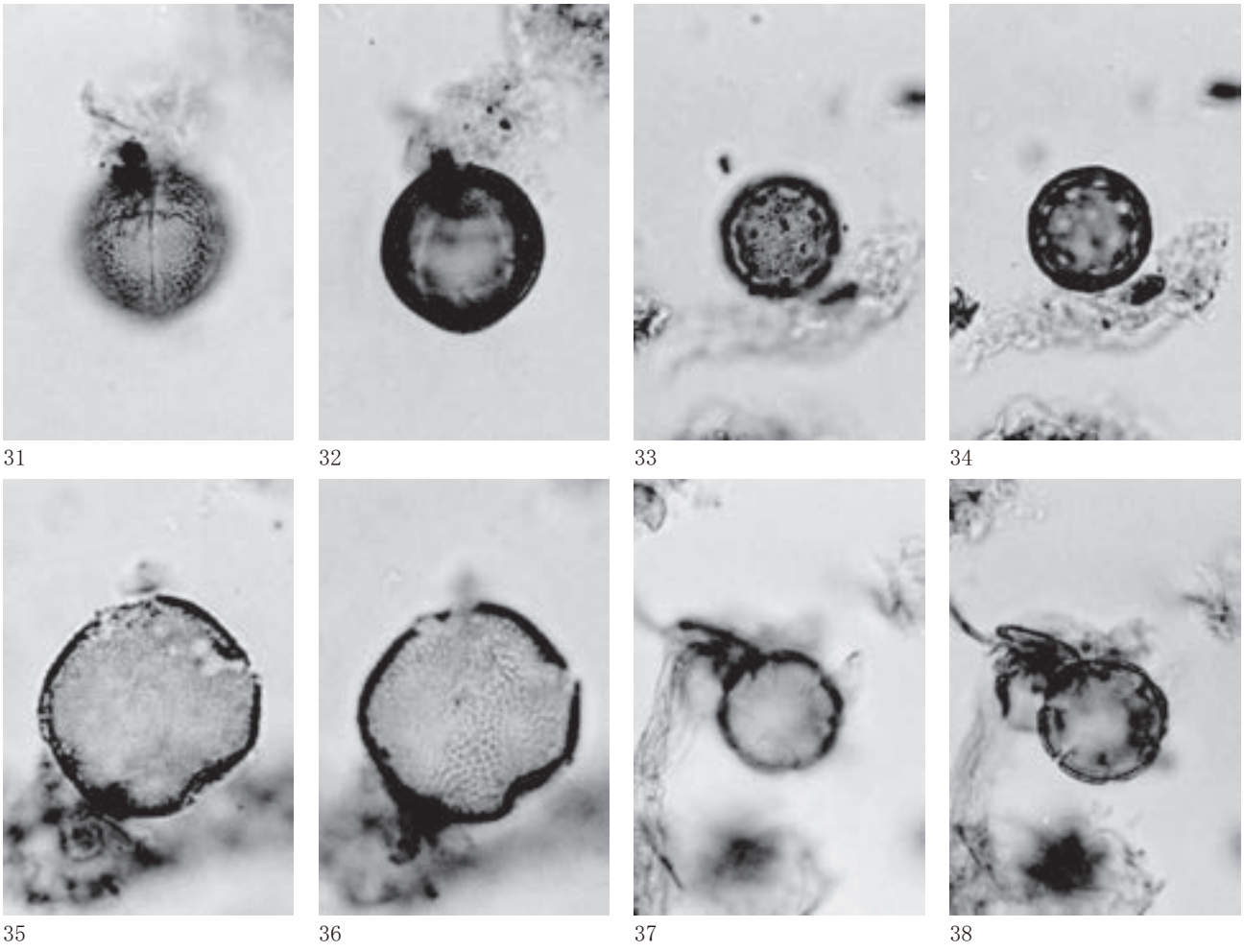

20　21　22　23


24　25　26　27


28　29　30

10 μm

写真19　纒向石塚古墳周濠内堆積物の花粉写真 3



纒向石塚古墳周濠内堆積物の花粉写真

1　マツ属複維管束亜属
2　同上
3　スギ
4　コウヤマキ
5　同上
6　コナラ属アカガシ亜属
7　同上
8　ニレ属－ケヤキ
9　同上
10　ニシキギ科
11　同上
12　ミズキ属
13　同上
14　カキ属
15　同上
16　ノブドウ
17　同上
18　ガマ
19　同上
20　オモダカ属
21　同上
22　サジオモダカ属
23　同上
24　ミズアオイ属
25　同上
26　イネ属型
27　同上
28　タデ属サナエタデ節
29　同上
30　ツリフネソウ属
31　タデ属
32　同上
33　アカザ科－ヒユ科
34　同上
35　タガラシ
36　同上
37　アカネ科
38　同上

第２節　纒向石塚古墳第８次調査における環境考古学分析

奈良教育大学　金原正明
古環境研究所

（１）試料と方法

第８次調査では、築造前の堆積層から墳丘盛土が採取され、纒向石塚古墳の築造前の植生と環境の復原を行った。分析試料は、第８次調査第１トレンチ（北面）より採取された155層上～173層の試料10点、第５トレンチより採取された12層～17層の試料５点、以上計15点である（図106・148）。

花粉分析はリン酸三ナトリウム処理、篩別処理、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理を施しプレパラート作成した。珪藻分析は、以下の手順で、過酸化水素水処理を加えた後、プレパラート作成した。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性はLowe（1974）等の記載により、陸生珪藻は小杉（1986）により、淡水生種は安藤（1990）による。

（２）結果

１．第１トレンチ（北面）（試料８～10）：墳丘盛土最下層

いずれの試料でも花粉密度が極めて低く、試料10、試料９では検出されない。試料８では樹木花粉のカバノキ属、草本花粉のイネ科、アカザ科－ヒユ科、セリ亜科がわずかに出現する。珪藻はいずれの試料も密度が極めて低く、試料９では陸生珪藻の*Pinnularia subcapitata*がわずかに出現する。試料８では陸生珪藻の*Navicula mutica*、*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia borealis*などがわずかに出現する。

墳丘盛土最下層は、花粉・珪藻はほとんど含まれていず、乾燥した環境で生成された堆積物と考えられる。

２．第１トレンチ（北面）（試料７～１）築造前から盛土

試料７～試料６では花粉密度が低い。樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、約65%～55%を占める。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が高率に出現し、ヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科などが出現する。樹木花粉ではスギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ属アカガシ亜属などが出現する。試料７では鞭虫卵、マンソン裂頭条虫卵が、試料６では肝吸虫卵がわずかに検出される。試料５～試料４では花粉密度が極めて低くなり、ほとんど検出されなくなる。試料３～試料１では、試料７～試料６と類似した出現傾向を示す。樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、約60～55%を占める。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が高率に出現し、ヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、タンポポ亜科などが出現する。試料１ではゴマ？がわずかに検出される。樹木花粉ではスギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、マツ属複維管束亜属などが出現する。試料３では回虫卵、肝吸虫卵がわずかに検出され、石細胞も検出される。

珪藻は、試料７～試料４では密度が極めて低く、ほとんど検出されない。試料３では、陸生珪藻の占める割合が約90%を占め、残りを流水不定性種などが占める。陸生珪藻では*Navicula mutica*が高率に出現し、次いで*Hantzschia amphioxys*が多く出現し、*Amphora montana*、*Navicula contenta*

などが伴われる。流水不定性種では*Nitzschia palea*、*Navicula spp*.などが低率に出現する。中－貧塩性種（汽－淡水生種）では*Achnanthes brevipes*がわずかに出現する。試料２ではほとんど検出されなくなる。試料１では陸生珪藻の占める割合が約80%を占め、残りを流水不定性種、好流水性種などが占める。陸生珪藻では*Navicula mutica*が高率に出現し、*Pinnularia borealis*、*Hantzschia amphioxys*などが伴われる。流水不定性種では*Nitzschia palea*、*Navicula spp*.などが低率に出現する。好流水性種では*Gomphonema parvulum*や、沼沢湿地付着生環境指標種群の*Cocconeis placentula*がわずかに出現する。海水藻場環境指標種群の*Cocconeis scutellum*が検出される。

３．第５トレンチ（試料15～11）

試料15～試料13では類似した出現傾向を示し、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、約50～65%を占める。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が高率に出現し、上位にむかって増加傾向を示す。カヤツリグサ科、ヨモギ属が伴われ、オモダカ属、ミズアオイ属などが出現する。樹木花粉ではスギ、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、シイ属などが出現する。試料12～試料11では花粉密度が極めて低くなり、ほとんど検出されなくなる。

珪藻は、試料15～試料13では珪藻密度が低く、ほとんど検出されない。試料12では陸生珪藻が約50%を占め、流水不定性種、真・好流水性種が残りを二分する。陸生珪藻では*Hantzschia amphioxys*を主に、*Amphora montana*、*Navicula mutica*、*Navicula confervacea*などが伴われる。流水不定性種では*Amphora copulata*、*Nitzschia palea*などが出現する。真・好流水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の*Navicula elginensis*、中～下流性河川環境指標種群の*Achnanthes lanceolata*、好流水性種の*Gomphonema parvulum*、真流水性種の*Surirella angusta*などが出現する。試料11では珪藻密度が低くなり、陸生珪藻の占める割合が約60%になり、真・好流水性種の占める割合が減少する。陸生珪藻では*Navicula confervacea*、*Pinnularia schroederii*が増加する。

（３）考察とまとめ

第１トレンチ（北面）墳丘盛土最下層（試料８～試料10）は、乾燥した環境で生成された堆積物と推定される。第１トレンチ（北面）築造前から盛土（試料７～試料１）にかけては、イネ科を主にヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、タンポポ亜科の乾燥を好む草本が分布し、珪藻も生育しにくいやや乾燥した人為改変地の分布が示唆される。周辺の丘陵等の森林にはスギを主にイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科の針葉樹が多く照葉樹は大きく減少している。試料１では、海水藻場環境指標種群の*Cocconeis scutellum*が検出され、塩から由来したものであり、塩の存在と使用が考えられる。

第５トレンチの試料13・試料14・試料15では、イネ科を中心に草本が分布し、イネ属型、水田雑草のオモダカ属などが生育し、水田も広がっていた。森林では優占種がなく、アカガシ亜属やシイ属の照葉樹、スギやイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科の針葉樹が分布し、照葉樹が減少している。上部試料11・試料12では陸生珪藻を主に流水不定性種、真・好流水性種が多様に生育し、不安定な水田などの環境が考えられる。

以上から、築造前はイネ科を主にヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、タンポポ亜科の乾燥

を好む草本が分布し、珪藻も生育しにくいやや乾燥した人為改変地が広がっていたと考えられる。

【参考文献】
中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として.第四紀研究,13,p.187－193.
Lowe,R.L.（1974）Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh－water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.
安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73－88.
小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－．植生史研究，第 1 号，植生史研究会，p.29－44.